

歌劇台本

フェードラ

制作 1909-1912

初演 1915

作 ガブリエーレ・ダンヌンツィオ

訳と脚注 原口昇平

Personaggi

Fedra	Soprano
Ippolito	Tenore
Tèseo	Baritono
Etra	Mezzo Soprano
Il Messo/L'Auriga Eurito d'Ilaco	Baritono
La nutrice Gorgo	Contralto
La schiava tebana Ipponòe	Soprano
Il pirata fenicio Chelùbo	Basso
Le sette Supplici	4 Soprani e 3 Contralti
Un Efebo	Contralto
Le Fanti	Contralto
Il coro	

登場人物

フェードラ	ソプラノ
イッポーリト	テノール
テーセオ	バリトン
エートラ	メゾソプラノ
使者/御者 イラコの子エウリート	バリトン
乳母 ゴルゴ	アルト
テーバイの女奴隷 イッポノーエ	ソプラノ
フェニキアの海賊商人 ケルボ	バス
七人の救いを求める女たち	ソプラノ 4 名、アルト 3 名
青年	アルト
侍女たち	アルト
コロス	

訳注： 原文は 1913 年出版台本の本文。[]内は 1959 年出版台本で削除された部分を示す。なお、原文に多数含まれる古代ギリシャ語由来のイタリア語人名、地名、一般名詞については、訳文ではイタリア語の発音をカタカナ表記して示した。ただし、それが訳文で初出したときには脚注を付け、古代ギリシャ語の表記とともにその発音のカタカナ表記を示したうえで、最低限の参考情報をまとめておいた。これは、読者が出典の古代ギリシャ神話を参照しやすくするための処置である。

Atto I

第一幕

Trezene è il luogo, «vestibolo della terra di Pelope». E appare, nel palagio di Pitteo, il grande e nudo lineamento di un atrio che gli occhi non abbracciano intero, sembrando il vano e la pietra spaziare più oltre da ogni parte, con sublimi colonne, con profonde muraglie, con larghi aditi aperti fra alte ante. Per alcuno degli aditi non si scorge se non l'ignota ombra interna; ma l'ardente luce occidua e il soffio salmastro entrano per alcun altro che guarda la pianura febea di Limna, il porto sinuoso di Celènderi, la faccia raggiante del Mare Sarònico e la cerula Calàuria, sacra all'ippico Re Poseidone.

Rami d'ulivo involuti in liste di candida lana son deposti su l'altare dedicato all'Erceo protettore delle sedi, innanzi a cui s'apre la fossa circolare dei sacrificii. Accolte son quivi le Madri dei Sette Eroi alternati su le sette porte

舞台はトレゼーネ¹、「ペーロペ²の地の玄関³」である。ピッテオ⁴の館の中に、柱廊玄関の巨大な飾らない輪郭が見える。その全体は視界に収まりきらず、四方八方から虚無と石が迫ってくるかのようである。崇高な円柱、奥へつづく壁、高い門柱の間に開かれたいくつもの大きな扉。いくつかの扉からは、未知なる内部の暗闇の他には何も見えない。だが別のいくつかからは、燃えあがる西日や潮風が入ってくる。そこからはまた、リムナ⁵の平原、湾曲するチェレンデリ⁶の港、サローニコ湾⁷のきらめく水面、馬どもの王ポセイドーン⁸の神殿を擁する淡青色のカラーウリア島⁹が垣間見える。

純白の羊毛の巻かれたオリーブの枝が、住居の守護神エルチェオ¹⁰の祭壇に置かれている。その手前に、生贄のための円形の穴が開いている。そのあたりにテーバイ¹¹の七つの門にて斃れた七人の英雄たち¹²の母親らが集まっている。またそこに、エジェーオ¹³の未亡人かつテーセオ¹⁴の尊敬すべ

¹ トロイゼーン *Τροιζήν* 古代ギリシャの一都市。ペロポネソス半島北東部のアルゴリス地方に位置する。

² ペロプス *Πέλοψ* エーリス王。テーセウスの曾祖父にあたる。

³ セネカ『パエドラ』の引用。「ペロプスの地」はペロポネソス半島を指す。アテーナイから見た説明。

⁴ ピッテウス *Πιτθεύς* トロイゼーン王。ペロプスとヒッポダメイアの子。テーセウスの祖父にあたる。

⁵ リムネー *Λίμνη* トロイゼーン付近の海辺の一地名。

⁶ ケレンデルリス *Κελενδερίς* 位置不明、トロイゼーン付近か。なお、小アジアのキリキアー（現トルコのアイドゥンルク）にも同名の港湾都市があったが、あまりにも遠すぎるのでこれには該当しない。

⁷ サローニコス湾 *Σαρωνικός κόλπος* トロイゼーンとアテーナイのあいだに横たわる湾。アッティカ半島、コリントス地峡、ペロポネソス半島の北東部アルゴリダ半島に囲まれている。

⁸ ポセイドーン *Ποσειδών* 海神。クロノスとレアの子。「馬どもの王」といわれるのは、神話においてこの神が豊穡の女神デーメーテルに求愛するために馬を創造して贈り物としたことから。

⁹ カラウレイア *Καλαυρεία* トロイゼーンの海岸に近い位置にある島。現在のボロス島北側にあたる。

¹⁰ (ゼウス・)ヘルケイオス (*Ζεύς*) *Ἑρκείος* 全能の神ゼウスの、住居の守護神としての名称。

¹¹ テーバイ *Θήβαι* 古代ギリシャの有力な都市国家。神話では、ソポクレス『オイディプース』やアイスキュロス『テーバイ攻めの七将』など数々の有名なエピソードの舞台となった。

¹² アイスキュロス『テーバイ攻めの七将』参照。

¹³ アイゲウス *Αίγεύς* アテーナイ王。アイトラーとのあいだにテーセウスをもうける。

di Tebe. E, poggiata lungo scettro eburno, la vedova di Egeo, la madre veneranda di Tèseo, Etra del sangue di Pelope, quivi è con le Supplici dalla chioma tondata e dal bruno peplo, fra la luce e l'ombra.

き母であり、ペーロペの血を引くエートラ¹⁵が、象牙の長い権杖にて身を支え、頭を丸め黒衣を着た救いを求める女たちとともに、光と闇のはざまに立っている。

Etra

Alzate il capo, alzate il capo, o donne
misere! Il Dio dei sùpplici v'esaude;
ché il suo favore è alterno.

La volontà del Dio splendide vidi
nella tènebra, splendermi il presagio,

sul cuore affaticato
da tante sorti. Contenete il gemito,
scotetevi la cenere dal crine
raso, madri incolpabili dei Sette
uomini Eroi, toglietevi dal volto
il nero lembo.

5

10

エートラ

面を上げよ、面を上げよ、おおあわれな
女たちよ。神はあなたがた救いを求める者たちの願いを聞き入れよう。
神の恩寵〔と試練〕は交互にもたらされるものだからだ。
私は見た、神の意志が暗闇のなかで
数多の不運に
苦しめられた私の心に
輝かしい予言をお与えくださるのを。嘆きをこらえよ、
剃った頭から灰を払い落とせ、
七人の英雄たちの罪なき
母親たちよ、その面から
黒布を取り去るのだ。

Le Supplici

- O Etra, messaggera
sei del Dio giusto?

- O Etra, ebbe pietà
dei nostri mali il Dio giusto?

- Che sai?
Che sai della lontana guerra?

- Tèseo
torna?

救いを求める女たち

——おおエートラよ、あなたは

正しき神の使者か？

——おおエートラよ、われらの不幸を

憐れみたもうたか、正しき神は？

——何を知っている？

遠方のいくさについてあなたが何を知っている？

——テーセオは

帰ってくるのか？

¹⁴ テーセウス *Θησεύς* アテーナイ王アイゲウスとトロイゼーン王女アイトラーの子。古代ギリシャ神話ではヘーラクレースに次ぐ存在感をもつ英雄。本作の主要人物のひとり。

¹⁵ アイトラー *Aĩθpα* アテーナイ王アイゲウスとのあいだにテーセウスをもうける。本作の主要な登場人物のひとり。

	- Il tuo figlio ha vinto per Legge santa di tutta l'Ellade? - Ahi, giustizia del Dio, vittoria dell'Eroe, che mai potremo noi, che mai potremo noi se non rinnovellare il pianto?	15	——あなたの息子は勝利したのか、 エッラデ ¹⁶ 全土の聖なる掟のために？ ——ああ、神の 正義、英雄の勝利、われらはそれを 手にできないのだろうか、 もはや涙することなく手にできようか？
Etra	Donne, una nave trezènia del navilio di Tèseo nel porto è giunta con le vele nere.	20	エートラ 女たちよ、 テーセオの艦隊に属する トレゼーネの船が一艘、 港へ着いたところだ、黒い帆を掲げて。
Le Supplici	- Ricòrdati, ricòrdati, o vedova d'Egeo! Le nere vele ti furono fatali un'altra volta, sopra il Mare nomato dal tuo lutto. - L'istesso lino infausto, o vedova, traeva il tributo di carne al mostruoso fratello di colei ch'è la tua nuora.	25 30	救いを求める女たち ——思い出せ、思い出せ、 おおエジェーオの未亡人よ！ ——黒い帆はいつでもやも あの海に浮かんであなたに不幸をもたらした、 その海はあなたの亡き夫にちなんで名付けられた ¹⁷ 。 ——それと同じ不吉な亜麻の帆布が ¹⁸ おお夫を亡くした人よ、肉の貢ぎ物を あなたの息子の嫁の異形なる弟 ¹⁸ へ 引き渡したものだった。

¹⁶ ヘラース Ἑλλάς (古代)ギリシャ。

¹⁷ エーゲ海の名称の由来。神話によれば、ミーノータウロス退治の折、テーセウスは成功すれば船に白い帆を掲げて帰ると父アイゲウスに前もって約束していたが、いざ成功して帰ってきた際に誤って黒い帆を掲げてしまった。その帆を見たアイゲウスはテーセウスが死んだと誤解し、悲嘆にくれて海に身を投げてしまった。その海は「アイゲウスの海 Αἰγαίο Πέλαγος」(エーゲ海)と名づけられたという。

¹⁸ ミーノータウロス Μινώταυρος クレーテ王ミーノースの妻パーシパエーが、ポセイドーンの呪いにより牡牛と交わって生んだ半牛半人の息子。名工ダイダロスの製作した迷宮に幽閉された。クレーテ王がアテーナイとの戦いに勝利した際、アテーナイは代償として少年少女を7人ずつ貢ぐという条件を受諾した。彼らはみなミーノータウロスの生贄となった。三度目に、テーセウスが生贄に紛れて潜入し、ミーノータウロスを倒し、アリアドネーの助力を得て迷宮を脱出した。

S'ode giungere per l'ombra degli aditi la voce ansiosa e roca di Gorgo che chiama la Cretese.

扉の奥の暗闇から、クレタ¹⁹の女を呼ぶゴルゴの不安気なしわがれ声が届く。

La voce di Gorgo Fedra! Fedra!

ゴルゴの声 フェードラ²⁰さま! フェードラさま!

Le Supplici - Le vergini e gli efebi

救いを求める女たち ——乙女と青年を

incolumi radduse ai focolari,

それぞれ七人ずつ、無傷で、家へ連れ戻したのだった

sette e sette, il re Tèseo.

王テーセオは。

- Ahi, destinato numero possente

——ああ、生へ、また死へ、

alla vita e alla morte!

35

割り当てられた運命の数²¹よ!

- A noi ricondurrà le spoglie esangui,

——私たちに彼は血まみれの亡骸を連れ戻すだろう、

spenti i floridi figli ed insepolti,

若い盛りでありながら命を落としたうえに葬られずにいる子らを、

spenti i figli terribili

勇猛な死せる子らを。

che si precipitarono con chiuse

かつて拳をにぎりしめ、

pugna, fra tante grida, su dal nostro

40

何度も泣き声を上げるあの子らを、

dolore, fuor del nostro

おなかを引き裂いて

dilacerato grembo!

苦しみながら生んだのは私たちなのだ。

- Ah perché mai

——ああいったい何のために

noi conoscemmo il talamo

私たちは新婚の褥を経験し、

ed invocammo Ilitia?

イリーティア²²に祈ったりしたのか?

O Guerra, e per le tue

45

おお戦争よ、おまえの口へ向けて

fauci li generammo,

私たちは子らを生んでしまった、

¹⁹ クレーター Κρήτη ギリシャ南方の地中海上に位置する大きな島。古代には有力な都市国家。ギリシャ神話にたびたび登場する。

²⁰ パイドラー Φαίδρα クレーター王ミーノースとパーシパエーの娘。本作の主人公。

²¹ ここでは七のこと。すなわち、ミーノータウロスの迷宮から生還した少年少女は七人ずつであり、他方テーバイにて死んだ将は七名であった。

²² エイレイテュイア Εἰλείθυια 出産を司る女神。

o Ferro, e pel tuo doppio taglio!

Si rinnova per le ambagi della reggia il nome nomato nel grido di Gorgo; e vi si accompagna un fragore subitaneo di bronzo percosso e il clamore confuso delle fanti sbighiottite.

Le voci delle Fanti

- Affoca

il mirto! Affoca il mirto!

- Percoti il bronzo!

- Esaudi; esaudi;

- Liba

tre volte!

La voce di Gorgo Fedra! Fedra! 50

Al rimbombo ed al clamore indistinto sobbalzano le madri in subita costernazione, che di palora in parola ciecamente s'accoresce.

Le Supplici - Odi grido! Odi grido!

- Chi percote

il bronzo?

- Qual terrore

si spande nelle case, o Etra?

- Invocano

la Cretese. Odi il nome!

- Cercano la tua nuora!

- Le vele nere, o Etra, un'altra volta!

55

おお鉄よ、諸刃の剣であるおまえに向けて！

ゴルゴの叫び声のなかで呼ばれる名が王宮の道づたいに繰り返し聞こえてくる。それに伴って突然、青銅を打ち鳴らす大音響と、肝を潰した侍女たちのざわめきが重な合う。

侍女たちの声

——燃やせ

ミルテを！ ミルテを燃やせ！

——青銅を打ち鳴らせ！

——聞き届けたまえ、聞き届けたまえ。

——注ぎ献じよ

三度！

ゴルゴの声 フェードラさま! フェードラさま!

混乱した轟音や騒音に向かって母親たちはただちに悲嘆の声をあげる。その声はひとことごとに、かむしやらに大きくなってゆく。

救いを求める女たち ——叫び声だ！ 叫び声だ！

——誰が青銅を

打ち鳴らしているのだろうか？

——何という恐怖が

家々に広がっているのだろうか、おおエートラよ？

——呼んでいるぞ、

あのクレタの女を。あの名を聞け！

——あなたの息子の妻を探しているぞ！

——黒い帆だ、おおエートラよ、またいつぞやの！

Venne messaggio dalla nave fùnebre?

- Tutto è perduto? Il Dio ci schiaccia?

- Te

anche tiene il terrore, Etra!

- Odi i cani,

odi i cani d'Ippolito, laggiù,

che latrano alla morte!

- Le cagne di sotterra!

Ecâte!

- È morto Teseo!

- È vero? È dunque vero? Anch'egli, anch'egli

cadde alle Sette Porte?

- Tebe ha vinto due volte?

Etra si muove, silenziosa e intenta, contro al chiarore che reggia dall'ocaso.

La veggono le Supplici allontanarsi verso propileo.

- Dove vai?

- Sempre per nave a te vennero i mali,

ahi, vedova d'Egeo!

- Tantànide, e le lacrime di Niobe

不吉な船から使いの者は来たか?

——何もかもむだになったか? 神はわれらを破滅させたもうや?

——あなたも

恐怖にとらわれている、エートラよ!

——犬の遠吠えが聞こえるぞ、

イッポリト²³の犬の鳴き声が聞こえるぞ、あの下からだ、

死に向かって吠えているのだ!

——冥府の雌犬ども!

エカーテ²⁴だ!

——テーセオが死んだのだ!

——まことか? ではまことなのか? 彼もまた、彼もまた

七つの門に斃れたというのか?

——テーベは二度勝利したのか?

エートラは、静かに注意深く、落日へ向かって移動する。救いを求める女た

ちは神殿前門へ遠ざかる彼女を見ている。

——どこへ行く?

——あなたにとって不幸はいつも船を介してやってきた、

ああ、今は亡きエジェオの妻よ!

——タンタロ²⁵の末裔よ、ニーオベ²⁶の涙が

²³ ヒッポリュトス *Ἰππόλυτος* テーセウスとその前妻アンティオペーの息子。後妻パイドラーにとって義理の息子にあたる。本作の主要な登場人物のひとり。

²⁴ ヘカテー *Ἑκάτη* 冥府神の柱。冥神ハーデース、その妻ペルセポネーに次ぐ地位にいる。

²⁵ タンタロス *Τάνταλος* リュディア王、アイトラーの曾祖父。人間にして不死。息子ペロプスを殺してその肉を神々に振舞ったため、神々の怒りを買ひ、冥界よりもさらに下の奈落へ落とされ、永遠の責め苦にあう。その奈落もまた彼にちなんでタンタロスと呼ばれる。

²⁶ ニオベ *Νιόβη* タンタロスの娘、ペロプスの異母妹。多産を自慢したために女神レートーの怒りに触れ、アポロンとアルテミスによって息子と娘たちを全員殺され、嘆きやまずゼウスに自ら願い出て石へと変えられた。

sono su te!

- Ate la segue. Udite,
udite il passo discorde e l'anelito,
stridulo.

70

In una breve pausa le Supplici ascoltano tra ombra e luce, ancora alzate; poi,
scomprsa la Pitteide, s'abbandonano al cordoglio.

- A terra! A terra!
Tutto è perduto. Làcerati il peplo,
e percotiti il petto,
e copriti di cenere,
e ricomincia l'ululo!

75

- Gli Iddii
non odono.
- Sciagura, onta, spavento
sopra noi si precipitano.
- S'è partita una Erinii dalle case
di Edipo contra noi. Vedete rossa
luce delle sue fiaccole!

80

- L'oracolo

あなたのうえに注がれる!

——アーテ²⁷が彼女を追いかけている。聞かれよ、
聞かれよ、ぎくしゃくした足音と耳障りな
喘ぎを。

短い休止。その間、救いを求める女たちは、光と闇のはざまで、ふたたび身
を起こして、耳をすませている。するとエートラは去ってしまい、救いを求める
女たちは悲嘆にくれる。

——まいった! まいった!
何もかもむだだった。自らのペプロ²⁸を引き裂け、
自らの胸を叩け、
灰をかぶれ、
ふたたびうなり声を上げ始めろ!

——神々は
聞き届けてくださらなかった。

——災難、汚辱、恐怖が
われらのうえに降りかかってくる!
——私たちに対してエディポ²⁹の家々から
エリンニ³⁰がやってきた。見よ、かの女神の
松明の赤い光を!

——ロツシア³¹の

²⁷ アーテ *Ἀτη* 破滅、愚行、狂気の女神。

²⁸ ペプロス *πέπλος* 古代ギリシャの女性用衣服の一種。幅広い長方形の布の上辺をわずかに外側に折り返し、それで身体を包んで両肩をピンで留め、足元をたくしあげてから腰帯を巻いた。

²⁹ オイディプース *Οιδίπους* テーバイ王ラーイオスとイオカステの子。ソポクレス『オイディプース』参照。

³⁰ エリーニユース *Ἐρινύς* 復讐の女神。

³¹ ロクシアス *Λοξίας* アポローンの異名のひとつ。神託の内容があいまいかつ疑わしい場合、このように呼ばれる。

di Lòssia!

- Adrasto! Adrasto!

- Figli, o figli

maceri!

- Argo deserta!

- È morto Tèseo!

Le madri si prostrano, con la faccia a terra, sotto i foschi manti gemebonde.
Ed ecco fuor dell'ombra dell'adito, anelatamente irrompe la Minòide. Ode
l'inatteso annunzio, s'arresta contro il prono ingombro; e sta in silenzio,
lampeggiandole sul pallore l'animo represso,

Fedra O Tànato, la luce è ne' tuoi occhi!

Prono ai piedi della invocatrice l'ingombro si tace, frenando i singulti sotto
le pieghe lugubri.

T'offro le bende splendide e il crinale
e la rete e la mitra e il velo.

Si china verso le dogliose ancora anelante. La nutrice Gorgo è dietro lei,
nell'ombra.

神託だ!

——アドラースト³²! アドラーストよ!

——息子たち、おお

辛酸をなめた息子たち!

——見捨てられたアルゴ³³よ!

——テーセオが死んだ!

英雄の母親たちは嘆き悲しんでひれ伏し、黒衣をかぶって顔を大地につけ
る。するとそのとき、ミノッセ³⁴の娘が息を切らせて扉の暗闇から走り入って
くる。思いがけない知らせを聞いて足を止め、伏した母親たちに対峙する。
そして沈黙している。彼女の蒼白な顔に、押さえつけられた心がぱっと輝く。

フェードラ おおターナト³⁵よ、光はそなたの瞳の中にある!

母親たちは祈祷するフェードラの足元に伏して頭を抱え込みしゃくり泣きを
抑えつつ沈黙する。

そなたに捧げよう、輝かしい飾り帯、髪留め、
網、冠、ヴェールを。

フェードラはなおも息を切らせたまま、悲嘆にくれる母親たちに向かって身
を屈める。乳母ゴルゴが彼女の背後の闇の中にいる。

³² アドラーストス Ἀδραστος アルゴス王。テーバイ攻めから生還した後、テーバイがその郊外に七将の遺骸を見せしめとしてさらしていることを七将の母親たちとともにテーセウスに訴え、出兵を依頼した。

³³ アルゴス Ἀργος 古代ギリシャの都市国家。

³⁴ ミーノース Μίνως クレーテー王。パーシパエーとのあいだにパイドラ、アリアドネーらをもうける。地中海上の豊かな島国クレーテーの王として海の覇権を握り、クノーツソスの都を創設した。

³⁵ タナトス Θάνατος 死そのものを神格化した神。

	Donne		異国の
	ospiti, sollevate		女たちよ、頭を
	la bocca e rispondete a Fedra. Donne		上げてフェードラに答えよ。異国の
	ospiti, rispondetemi: chi primo		女たちよ、われに答えよ。誰が ³⁶ 初めに
	recò questa parola,	90	このことばを、
	questa parola delle morte?		この死の知らせを携えてきた？
Sollevano il volto le Supplici, ma rimangono accosciate, taluna poggendosi alle mani, taluna ai cubiti, attonite.		救いを求める女たちは顔を上げるが、うずくまったまま、ある者は手で身を支え、またある者はひじで支え、呆然とする。	
Una delle Supplici	Che	救いを求める女	何を
	chiedi, ospite regina? Che ci chiedi?		聞こうというのだ、異国の女王よ？ われらに何を聞こうというのだ？
Fedra	Vedeste e udiste il messo? Etra l'accolse?	フェードラ	使いの者を見たか、その声を聞いたか？ エートラさまがその者を迎えたのか？
La Supplice	Non tu, non tu lo vedesti e l'udisti là, nelle tue dimore, o chiaro sangue di Elio?	95	救いを求める女 あなたではないのか、あなたが屋敷において見聞きしたわけではなかったのか、おおエーリオ ³⁶ の輝かしい血族の者よ？
Fedra	Le vostre grida, le vostre grida udii, femmine argee!	フェードラ	そなたらの叫び声、そなたらの叫び声なら聞いた、アルゴの女たちよ！
La Supplice	Non il messo navale? Le tue fanti nel clangore del bronzo t'invocavano.	救いを求める女	船の伝令ではないのか？ あなたの侍女たちが青銅をけたたましく鳴らしながらあなたを呼び求めているぞ。

³⁶ ヘーリオス Ἥλιος 太陽神。海神オーケアノスおよびテーテュースの娘ペルセーイスとのあいだに、娘パーシパエーをもうける。この娘がやがてミーノース王とのあいだにパイドラーを生む。

Fedra	Le vostre grida.		フェードラ	そなたらの叫び声だ。
La Supplice	Il nome tuo con voce di terrore nomato era. Di subito sobbalzammo.	100	救いを求める女	あなたの名が、恐れに満ちた声で 呼ばれていたぞ。たちまち われらは飛び上がってしまった。
Fedra	Le vostre grida, femmine folli!		フェードラ	そなたらの叫び声だ、気違いの 女どもよ!
La Supplice	Perché t'adiri contra noi, Titànide?		救いを求める女	どうしてわれらに対して腹を立てるのだ、 ティターノ族の女 ³⁷ よ?
Fedra	Dov'era Etra? Dov'era?		フェードラ	どこにおられた、 エートラさまは? どこにおられた?
La Supplice	Qui era, Titànide.	105	救いを求める女	ここにおられたとも、ティターノ族の女よ。
Fedra	E che disse?		フェードラ	そして何とおっしゃった?
La Supplice	Restò muta.		救いを求める女	黙っておられた。
Fedra	E dov'è ella ora?		フェードラ	で、どこに おられる、今は?
La Supplice	Escita è dalle case.		救いを求める女	神殿から出て行かれた。

³⁷ ティターニス *Τιτανίς* 「ティターン族の女性」を意味する。パイドラーの母方の血統がティターン族に由来しているため。

Fedra	Va'	フェードラ	お行き、 ゴルゴ、そして見ておいで！
	Gorgo, e guarda!		
	La nutrice s'avvia verso il propileo.		乳母は神殿前門へ向かう。
	Voi dunque sol dal suono del bronzo e dal mio nome nomato divinaste l'evento lacrimevole?	110	それでは、そなたらは 青銅の音と、呼ばれたる私の名前のみから、 予感したというのか 痛ましい出来事を？
Gorgo	Si fa incontro al messo Etra, che sopraggiunge coronato con un segno di vittoria.	ゴルゴ	エートラさまが 使いの者にお会いになっておられます、上陸したその者は 勝利の旗を持ち、冠を戴いています。
Fedra	O gridatrici forsennate, udiste? Torma tonduta che per giorni e notti empiste di lamento queste case e me d'angoscia, non farete ammenda? Immortale, immortale è il grande Egide; e voi l'avete pianto! Non muore, no, egli non muore e voi gremuto avete il nome suo col fiato su la pietra ospitale! Ah, s'egli varchi mai le sorde Porte del Buio, non sarà per render l'animo	115 120	フェードラ おお叫び狂っていた者たちよ、聞いたか？ 毎日毎夜この神殿を涙で また私を不安で満たした 尼さんがたよ、償いをしてくれるのだろうか？ 不死身だ、不死身なのだ、偉大なるエジェーオの子は。 なのにそなたらはその死を嘆いていた！ 死なん、あの御方は死なんのだ。そなたらは 石床に這いつくばって ためいきとともにあの御方の名をうめき漏らしたな！ ああたとえ彼が冥界の門をくぐるとしても 魂を返すためではなく

ma per forzar Persèfone.

ペルセーフォネ³⁸を略奪するためだろうよ。

La Supplice	Regina	125	救いを求める女	異国の
ospite, è bello che tu paragoni il tuo sposo magnanimo a un dio non perituro. Ma perché, s'egli ha vinto e se ti torna, perché t'adiri nel tuo cuore senza gioia? e perché la tua bocca è terribile come gli archi curvati nella tua Cnosso, o Minòide?		130		女王よ、けっこうなことだ あなたの堂々たる夫を 永遠なる一柱の神にたとえるのは。 しかしなぜ、彼が勝利しあなたのもとへ帰還するというのに なぜ、あなたは内心では喜ばずに怒って いるのか? どうしてあなたの唇は陰しいのか あなたの故郷のクノッソ宮殿 ³⁹ における湾曲した アーチのように、おおミノッセの娘よ?
Fedra	Li conosci tu	135	フェードラ	そなたは
i grandi archi cretesi? Tu che parli con la parola a doppio taglio ascosa nella guaina pallida. Non sei la madre tu d'Ippomedonte ch'ebro mandasti di combattimento e ulrante come Tiade alla Porta Onca?				クレタの偉大なる門 ^{アーチ} を知っているのか。諸刃の剣であることばを もろき鞘のなかに秘めつつ 語るそなたよ。 そなたはイッポメドーンテ ⁴⁰ の母ではあるまいか そなたの送りだしたあれは、戦いに酔いしれて オンカの門にて酒神の巫女のごとく 雄叫びを上げたな。

La Supplice Son quella. 救いを求める女 いかにも私だ。

³⁸ ペルセポネー Περσεφόνη 豊穡の女神デーメーテルの娘、冥神ハーデースの妻。

³⁹ クノーツソス Κνωσσός クレーターの宮殿。遺跡として実在する。その地下からは、神話でミーノータウロスの幽閉された迷宮を想起させる複雑な構造が見つかった。

⁴⁰ ヒッポメドーン Ἰππομέδων テーバイ攻めの七将のひとり。

Fedra	Te l'uccise l'asta cadmèa di bronzo.	140	フェードラ	カドメーア ⁴¹ の青銅の槍が そなたのあれを殺したのだ。
La madre dell'Eroe s'accascia sopra sé, celando il volto. Fedra s'inchina verso la dogliosa.			英雄の母はその場でくずおれ、手で顔を覆う。フェードラは嘆く女に向かっ て身を屈める。	
	Anch'egli, anch'egli, è vero? madre, avea caro più degli occhi suoi l'arco e più venerabile d'un dio. Ah, piangi?			彼も、彼もだ、そうだろう? 母よ、彼もまた、自らの両の眼よりも愛おしく 一柱の神よりも崇敬すべき ^{アーチ} 弓を持っていたな。 ああ泣いているのか?
La madre dell'ucciso piange dentro le sue palme velate dal lembo.			母親は、手のひらを裾で覆い、そこに顔を伏して泣いている。	
	Tu puoi piangere ancora! Tu puoi bere le tue lacrime!	145		そなたは泣けるではないか まだ! 飲めるではないか 自らの涙を!
Gorgo	O creatura!		ゴルゴ	おお、ちい姫さまや!
Fedra	Tu sei paga, madre d'Ippomedonte, paga nella tua doglia. Tu darai al tuo figlio la parte sua d'unguenti, la sua parte di fiamma, e le vittime e il canto e l'alto tumulo;	150	フェードラ	そなたは満ち足りておる、 イツポメドーンテの母よ、 自らの痛みのなかで満ち足りておる。そなたは 息子に与えるだろう、彼の終油を、 彼の炎を、 いけにえを、歌を、高い墳丘を。

⁴¹ カドメイアー *Καδμεία* 「カドモスの国」を意味する。すなわちカドモスによって建国されたテーバイのこと。

e parlerai con l'ombra,
 e udrai l'aedo celebrar quell'uno
 dei Sette contra Tebe di te nato;
 e vivrai la vecchiezza 155
 tu, conforme la legge degli Iddii;
 e il tuo cibo e il tuo sonno e il tuo silenzio
 avrai, l'acqua per dissetari, l'ombra
 per temperar l'arsura,
 e nella tua memoria i dì felici, 160
 e il tuo dolore dentro le tue mani
 come un'urna che reggi, che soppesi,
 che conosci, che poni nel tuo grembo
 quasi a nutrir di te un'altra volta
 il tuo caro; e non temi 165
 che ne balzino serpi, che n'esalino
 veleni, che ne sorga
 la pestilenza occulta e ti s'apprenda
 e ti corrompa e ti consumi.

そなたは御霊と話すことになるう、
 テーベ攻めの七将のうちそなたの産んだあの者を
 称賛する詩人の歌を聴くことになるう、
 そなたは余生を送るだろう、
 神々の掟にしたがってな。
 そなたは自らの糧、眠り、静寂を
 得るだろう、渴きを癒すための水を、
 ひどい暑さを和らげるための木蔭を、
 記憶のなかの幸福な日々を、
 悲しみを、一個の壺のごときそなたの両手のなかに。
 それらをそなたは、捧げ持ち、味わい、
 飲み込み、腹におさめるのだ
 あたかも、もう一度そなたの愛する子を
 育もうとするかのごとく。そしてそなたは恐れはしないのだ
 そこから蛇どもが跳び出そうとも、そこから毒が
 漂おうとも、そのせいでひそかにペストに
 かかろうとも、炎に包まれようとも、
 腐ろうとも、痩せ細ろうとも。

Gorgo	O mia	ゴルゴ	おお私の
creatura!			ちい姫さまや!

Fedra	Nè l'anima tua stride	170	フェードラ	そなたの魂は
	penata in ogni stilla del tuo sangue;			そなたの血の脈打つたびに苦しんでのたうちはしない。
	né il vento, che rinfresca l'erba, strazia			風は、草木を休ませる一方で、そなたの見捨てられた肉体を
	il tuo corpo deserto; né la notte			痛めつけることはない。煩悶の夜は
	affannata s'affanna del tuo soffio,			そなた自身の吐息であえぎはしない。

né ti vincola il giorno alla sua ruota
 crudele; né tu odi, né tu odi,
 irta d'orrore, né tu odi dentro
 di te muggiare il mostro
 fraterno...

175

太陽はそなたをむごたらしい車輪に
 縛りつけもしない。そなたには聞こえぬ、聞こえぬ、
 身の毛もよだつほどに、聞こえぬのだ、
 はらからの怪物⁴²が自らの中で
 咆哮をあげるのも……

Gorgo Non dir più!
 Non l'udite!

ゴルゴ もうお黙りください！
 ご母堂方、お聞きなしますな！

Smorta come la cenere, Fedra ha negli occhi divini l'immagine vergogna del
 labirinto dedaëlo. La trattiene e la sostiene la nutrice sgomenta.

灰のように血の気をなくし、フェードラは神がかった瞳の中にデーダロ⁴³の
 迷宮の恥すべき心象を浮かべる。乳母はうろたえ、彼女を引き留め、支え
 る。

Fedra Ma Fedra,
 Fedra indimenticabile...

180

フェードラ しかしフェードラは、
 忘れがたきフェードラは……

Gorgo Non l'udite! L'insania rapisce.
 Madre d'Ippomedone, ha vaneggiato,
 ha vaneggiato. Donne ospiti, è inferma.
 Non la vedete? Non ha più colore
 il triste sangue. L'agita,
 fatto il vespro, un'angoscia
 calda come il delirio. E parla invano.

185

ゴルゴ お聞きなしますな！ 狂気があの方を捕らえているのです。
 イッポメドーンテさまのご母堂よ、あの方はうわごとを言ったのです、
 うわごとを言ったのです。異国のご婦人方、あの方は病んでおられます。
 おわかりでしょう？ その悲しき血は
 もはや色を失っています。日が暮れると、
 錯乱じみた熱烈な苦悩が
 あの方を突き動かすのです。それでもむなしくことばを発するのです。

⁴² ミーノータウロス。彼はフェードラにとって同じ母から生まれた弟に当たるため。

⁴³ ダイダロス Δαίδαλος ギリシャ神話に登場する名工。クレイターにてミーノータウロスを幽閉するための迷宮をつくった。

La Supplice	Asciugate le lagrime, o nel lutto eguqli. Sollevatevi. E scolpite il dolore con man ferma, perché sorregga il peso della gloria. Etra conduce il messo coronato.	190	救いを求める女	涙をお拭きなさい、お喪に服す 同輩たちよ。立ち上がりなさい。 決然と拳を握り締めて悲しみを刻みつけるのだ 栄光の重みを支えるためだ。 エートラが冠を戴いた使者を連れてくる。
	Da Etra condotto, sopraggiunge il messo navale, cinto con la fronda del pioppo cara all' Alcide e all' Egide.			エートラに導かれて船の使者が到着する。アルチャーデ ⁴⁴ やエジェーオの子 ⁴⁵ に好まれているポプラの枝を巻いている。
Il Messo	Otitànide, figlia del Re d'isole, Madri dei Sette Eroi rivendicati, grande novella reco: la vittoria di Tèseo!	195	使者	おお、かの島の王の娘、ティターノ族の末裔よ、 子の亡骸を求めし七将のご母堂方よ、 素晴らしい知らせをお伝えいたします。 テーセオさまの勝利です!
La Supplice	Che la santa corona ti verdeggi sempre su la pienezza de' tuoi giorni, o Annunciatore!		救いを求める女たち	おまえの生涯の絶頂にあつて 聖なる冠は何と青々しくおまえを飾っていることか おお使いの者よ!
Il Messo	Io sono Eurito d'Ilaco,	200	使者	私はイラコの子エウリート ⁴⁶ でございます。
La Supplice	Eurìto, Eurìto, e riconduci a noi con la tua nave i nostri figli?		救いを求める女	エウリート、エウリートよ、それでそなたはわれらに そなたの船でわれらが息子たちを運んでくれたのか?

⁴⁴ アルケイデース *Ἀλκείδης* ヘーラクレースの異名。「力 *Ἀλκή*」の派生語であり、「剛力の男」を意味する。

⁴⁵ テーセウスのこと。

⁴⁶ ヒュラコスの子エウリユトス *Εὐρυτοῦ Ὑλακίδης* ダンヌンツィオの創作した人物。ただし古代ギリシャ語人名に基づいている。d'Ilaco に対応する *Ὑλακίδης* は『オデュッセイア』第14歌204行に登場する。

Il Messo	Reco	使者	私の運んで参りましたのは
le ceneri. Già furono consunti i roghi.		遺灰でございます。すでに終わりました 火葬は。	
Sembra che il vento del lutto riagiti le pieghe dei neri pepli.		哀悼の風が黒いペプロのひだをふたたび揺らすかのようである。	
No, non fate lamento, o Madri. Alcuna di voi sofferto non avrebbe l'orrida vista degli insepolti.	205	いいえ、いいえ 嘆かれますな、おおご母堂方よ。あなたがたのうち どなたさまも、野ざらしとなった亡骸のおぞましいありさまに 耐えきれはしなかったでしょう。	
Le Supplici	- Ah tu non sai, giovine, tu non sai la forza dell'infinito dolore! - E mai più dunque toccare potremo le creature esangui? - Lavati furono i corpi con tiepida acqua? - Avvolti nel lino? - Unti di balsamo? - Chi li potrò sui letti? - Chi costrusse i roghi?	救いを求める女たち 210 ああそなたにはわからぬ、 若者よ、そなたにはわからぬのだ 限りない痛みのは！ ——それでは、われらはもはや二度と触れえぬのか 血の気の失せたわが子らに？ ——むくろはぬるま湯で 洗ったか？ ——リネンにくるんだか？ ——香油を塗ったか？ ——誰が子らを寝台へ運んだ？ ——薪を 組んだ者は？	
Il Messo	Li costrusse nella valle del Citerone il Re, sotto la rupe	215 使者	王が御自ら火葬壇を組まれました チテローネ ⁴⁷ の山の中、エレウテリオ ⁴⁸ の

⁴⁷ キタイローン *Kithairon* ギリシャ中央にある山麓。酒と豊穡の神ディオニューソス信仰の地。神話ではオイディプースの棄てられた場所。

	Eleutèride. E attesto che man di servo non toccò veruno dei cadaveri. Il Re compì gli offici e vigigliò sinché non furon arsi i corpi; e poi trascelse il bianco ossame e sceverò le ceneri.	220		崖のふもとでございます。また私が保証いたします 奴隷の手はご遺体にいささかも 触れませんでした。王は おつとめを果たし、またご遺体が 焼かれるまで一睡もなさいませんでした。また焼いてから 白いお骨と灰とを選び分けられました。
Una delle Supplici	Onorato egli sia da tutti gli uomini sinché duri tra gli uomini la Legge santa dell'Ellade!		救いを求める女	テーセオはすべてのひとびとから称えられるであろう、 エッラデの地の聖なる掟が人の世に 続く限り!
Fedra	Uomo, e chi raccolse le ceneri e l'ossame come narri? Il re Adrasto dalla dolce voce?	225	フェードラ	男よ、それで誰が そなたの語るように灰を集めて骨を拾ったのだ? 甘美な声のアドラースト王か?
Il Messo	Titànide, il re Tèseo!		使者	ティターノ族の末裔たる女王よ、それはテーセオさまでございます。
Fedra	O mirabile fato! Or chi più degno? chi ebbe mani più monde di spergiuo d'insidia? Chi scernere poteva la portentosa cenere se non quegli che trasse a forza su la nave	230 235	フェードラ	おお見事な宿命よ! かの御方以上にふさわしい者があろうか? かの御方ほど偽りの誓いや謀略に 手を汚していない者があろうか? あの御方の他に 誰が奇跡の灰を 見分けられようか、 何しろあの御方は黒い帆を掲げた

⁴⁸ エレウテリオス *Ελευθέριος* 酒と豊穡の神ディオニューソスの異名。「自由の神」を意味する。

attica dalla nera
 vela le due sorelle
 figlie di Pasifàe
 per l'una, la più docile, Ariadne
 di belle trecce, abbandonar sul lido
 selvaggio e all'altra imporre il giogo duro?

240

Torva, con la bocca riarso dall'odio, ella si tace. Alla rampogna di Etra, si trae in disparte e s'appoggia contra l'omera della nutrice chiudendo le palpebre.

Etra	Fedra, Fedra, deliri come Tiade notturna! Un acre morbo t'abita nei precordii e tu non sai. Conducila, o Gorgo, alla dimora. Ospiti donne, e voi meco venite ch'io compia il vòto, poi che non in vano recaste i rami supplici d'olivo. E a voi nel nome del vendicatore, Madri, io darò le sette urne di bronzo.	245 250
------	--	--

アテネ⁴⁹の船に
 パジーファエ⁵⁰の子である
 ふたり姉妹をお載せになって
 一方の、誰よりも素直な
 美しい編み毛のアリアドネ⁵¹を未開の
 岸辺⁵²に棄て、他方に嚴重なくびきをおかけになったのだから。

険しい口元を憎悪によって紅潮させ、彼女は押し黙る。彼女はエートラの叱責に対して身を引き、まぶたを閉じて乳母の腕にもたれる。

エートラ	フェードラ、フェードラ、おまえは夜の酒神の巫女のごとく 正気を失っている！ 悪しき病が おまえの心の奥に巢食っている、 そのことをおまえはわかっていないのだ。彼女を館へ連れて行け、 おおゴルゴよ。客人の女たちよ、 そなたたちは私とともに来たれ、 私が供物の儀式を遂げようぞ、なぜならばそなたたちが オリーヴの嘆願の枝を持ってまいったのはむだではなかったからだ。 また仇を討った者の代わりに、そなたらに、 母親たちよ、青銅の壺七つをとらせよう。
------	--

⁴⁹ アテーナイ *Ἀθῆναι* テーセウスの本拠。

⁵⁰ パーシパエー *Πασιπάη* クレーテー王ミーノースとのあいだにパイドラーやアリアドネーをもうける。夫がポセイドンとの約束を守らなかったため、彼女は海神から呪いをかけられて雄牛と交わり、牛頭人ミーノータウロスを産んだ。

⁵¹ アリアドネー *Αριάδνη* ミーノースとパーシパエーの娘。ミーノータウロス討伐の際に、糸の一端を迷宮の扉に結びつけ、糸玉を繰って進むようにテーセウスに教えた。

⁵² ナクソス島と伝えられる。

Seguono Etra le Supplici in silenzio. E s'allontana la torma dolorosa lasciando l'ombra dietro sé più grave. Riapre gli occhi Fedra e si volge.

救いを求める母親たちは静かにエートラの後に従う。悲嘆にくれる母親たちは自らの背後にいつそう重苦しい影を落としたまま去る。フェードラは目を開き、向き直る。

Fedra Uomo d'Argo, rimani.

フェードラ　　アルゴの者よ、そなたは残るのだな。

Il Messo Ancor da compiere, ospite regina,
 ho il mio messaggio. Ove sarà ch'io trovi
 il figlio primogenito di Tèseo,
 il domatore di cavalli Ippolito?

255

使者　　まだ為すべきことがございます、異国の女王よ、
言伝を預かっております。どちらでお目にかかれましょうか、
テーセオ王の長子、
馬どもの調教に心血を注いでおられるイツポーリトさまは？

Di nuova ella è come brace che subitamente s'incenerei. Con soffocata voce ripete il nome tremendo.

ふたたびフェードフは炭火のごとく紅潮し、ただちに灰のようになる。息の詰まった声で、震えながらその名をおうむ返しにする。

Fedra Ippolito!

フェードラ　イツポーリトだと！

Quasi irosa interroga.

彼女は苛立ったように問い質す。

Che vuoi
dal figlio dell'Amàzone?

あのアマツヅォネ族の子に
何の用だ？

[illegible]

使者 アドラースト王がかの御方に三つ贈り物をなさいます。

Forsennata ella si muove qua e là come se la punga l'assillo impatibile.

フェードラは狂乱し、耐え難いアプに突つきまわされるかのように、右往左往する。

Fedra O Gorgo, 260

フェードラ おおゴルゴよ、

non udisti il latrato dei suoi cani?

かのひとの犬の吠声を聞かなかったか?

Gorgo Non udii.

ゴルゴ 聞こえませんでした。

Come inferma si ostina la Cretese con le mani verso le tempie, con penoso
battito delle palpebre, e concitata e languente.

クレタの女は両手を額に近づけ、不安げに瞬きしながら、興奮し、憔悴して、
まるで病人のように言い張る。

Fedra Sì, sì, sempre s'ode, ovunque
s'ode, ovunque. N'è sorda
l'aria, n'è rauco il vento. Sempre s'ode.
Non anche torna il figlio dell'Amazzone?

265

フェードラ いいや、いいや、相変わらず聞こえる、どこであろうと
聞こえる、どこであろうと。だからこそ空気は
音をこもらせ、風はかすれた声を立てている。ずっと聞こえている。
アマツゾネ族の子はまだ帰らぬか。

Gorgo Caccia il cinghiale nelle selve sotto
Metàna, traverso l'istmo. Torna
a gran notte con tutta la sua muta
al lume delle fiaccole di pino,
al suon dei corni. Ben l'udrai, o messo.

270

ゴルゴ 地峡を渡り、メターナ⁵³の南の森で
狩りをなさっています。夜更けには
猟犬をみな引き連れてお戻りになります、
松明に照らされて、
角笛の音に包まれます。よく聞こえるはずですよ、伝令の方。

Fedra si riavvicina all'uomo d'Argo, contenendo il tumulto, parlandogli con
una voce che le resta e le riluce nella chiostra dei denti.

フェードラは動揺を抑えつつふたびアルゴの者に近づき、口のなかにこも
って響く声で語りかける。

Fedra Quali doni gli manda Adrasto? Quali
doni?

フェードラ アドラースト王は彼に何をくださるのだ? どんな
贈り物だ?

Il Messo Arione, o Fedra,

使者 アリオーネ⁵⁴でございます、フェードラさま、

⁵³ メタナ *Méθανα* トロイゼーンの北、地峡を渡った先の半島の北東沿岸に位置する。

⁵⁴ アリーオーン *Αρίων* ギリシャ神話に登場する神馬。アレイオーン *Αρείων* と呼ばれる。ポセイドーンとデーメーテルのあいだに生まれた。右脚のみ人間のものを持ち、人語を話せた。乗った者には英

	il nerazzurro cavallo di stirpe divina, velocissimo, dall'unghia sonora come crotalo di bronzo. Com'è bello, o Titànide!	275		神々の血を引く青毛の馬でございます、 きわめて疾く駆け、その蹄の響きたるや 青銅づくりのクロータロ ⁵⁵ のごとし。 なんと素晴らしゅうございましょう、おおティターノ族の末裔よ!
Fedra	E dimmi: altro dono?		フェードラ	申せ、二つ目の贈り物とは?
Il Messo	Un cratère d'argento, Più bel vaso non vidi mai, Titànide.		使者	銀のクラテーレ ⁵⁶ でございます、 私はこれほど美しい壺を見たことがございません、ティターノ族の末裔よ。
Fedra	E dimmi: il terzo dono?	280	フェードラ	申せ、三つ目の贈り物とは?
Il Messo	Una schiava altocinta, una Tebana dai sandali vermigli, fior delle prede, vergine regale. Dicesi che una notte dalla madre lasciata per oblio fosse nel tempio dell'Ismènio Apollo e n'escisse al mattino piena d'ansia fatidica il suo petto e cerchiata d'un serpente le sue chiome. O titànide, è bellissima.	285 290	使者	胸のすぐ下に帯を巻いた女奴隷、 朱色のサンダルを履いたテーベの女性でございます 数ある戦利品のうちの華にして、王族の娘でございます。 ひとのいうには、ある晩、母親に ものの忘れのせいで イスメーニオ ⁵⁷ のアポッロ神殿のなかに置き去りにされ あくる朝、そこから脱出したときには 予言の煩悶を自らの胸に詰まらせ 一匹の蛇を自らの髪に巻き付けていたそうです。 おおティターノ族の末裔よ、きわめて美しゅうございますよ。

雄ヘーラクレースやアルゴス王アドラーストスがいる。特に後者はこの馬のおかげでテーバイでの敗戦から生還することができた。

⁵⁵ クロタロン *κρόταλον* カスタネットに似た古代ギリシャの打楽器。

⁵⁶ クラテル *κρατήρ* 古代ギリシャの壺の一種。釣り鐘を逆さにした形で、二つの取っ手を持つ。葡萄酒を水で割るために用られた。

⁵⁷ イスメーニオス *Ισμήνιος* テーバイにおけるアポローンの異名。

Ricevuto sotto la mammella il colpo, ella balza smaniosa, quasi nell'odore del suo prorio sangue.

フェードラは胸の奥に衝撃を感じ、あたかも自らの血の臭いに包まれたかのように、興奮して飛び跳ねる。

Fedra Voglio vederla! Voglio
vederla! Dove l'hai?
Giù nella nave nera?

フェードラ　その女を見てみたい！　その女を
見てみたいものよ！　どこに待たせている？
黒船の底か？

Il Messo Fu già condotta nelle case e data
alle fanti che apprestino il lavacro.

295

使者　　すでに市中へ連れていかれ、
 　　　　体を洗う支度を整えた下女たちに預けられました。

Fedra Va, uomo, va! Ristòrati! Va! Mangia,
 bevi, dormi. Va!

フェードラ　下がれ、そこなる者よ、下がれ。英気を養え。下がれ。食べ、
飲め、眠れ。下がれ!

Senza ritegno ella s'abbandona alla sua frenesia, movendo verso il propileo
dove entrano il vento marino e l'ultima luce.

フェードラは慎みなく自らの熱狂に没入し、潮風と日没の最後の光の
てくる神殿前門へ向かう。

Gorgo,
voglio venderla. S'ode
il latrato? Ritorna? Ascolta, Ascolta!

ゴルゴよ、
かの女を見てみたい。聞こえるか
犬の吠える声が？ 帰ってきたか？ 耳を澄ませよ、耳を澄ませよ！

Gorgo No, no, non s'ode.

ゴルゴ　　いいえ、いいえ、聞こえません。

Fedra T'inganni, t'ingannni.
Lo scalpitio dei cavalli, il clamore...

300

[illegible]

Gorgo No, creatura. Il rombo hai dentro te
 come la conca marina.

聞こえませんが、ちい姫さまや。まるで海の貝殻のように音があなたさまの中で轟いておりますのね。

Fedra	Conosci		フェードラ	知っておるだろう
il rito? Quando Ròdia			儀式を? ローディア ⁵⁸ が	
percoteva lo scudo	305		コリバンテ ⁵⁹ の盾を	
del Coribante, apparsa era la Dea			打ち鳴らすと、女神が	
tra le due porte, alzata;			ふたつの門のあいだに立ちあがって現れ、	
e torva mi guatava. “Fedra! Fedra!”			険しい目つきで私を見ていた。「フェードラ! フェードラ!」	
Ma era la tua voce?			いやあれはそなたの声であったか?	
E piangevano Tèseo	310		救いを求める女たちがテーセオを	
le Supplici! Una vittima, una vittima,			悼んでいた! 生贄を、生贄を、	
o Gorgo, per Ecàte			おおゴルゴよ、エカーテに捧げるのだ、	
che sale di sotterra			冥府より上りきて	
e chiede il sangue puro della gola.			喉首からの穢れなき血を求めるほうにだ。	
Conosci il rito?			儀式を知っておるだろう?	
Gorgo	Placa	315	ゴルゴ	不安を
l’angoscia, placa l’angoscia! Sordi			鎮められませ、不安を鎮められませ。	
del tuo tumulto sono			動揺なさるあまり何も響かないのですか	
i tuoi pensieri infermi.			あなたの病んで千々なる思いには。	
Fedra	Ah, nutrice, la fiera ch’ei colpisce,		フェードラ	ああ、乳母よ、あやつの射た獣はな、
ecco, si volge e lambe	320		そら、振り向いて、おのれの傷を	
profondamente la sua piaga e allevia			深くなめては、おのれの痛みを	
il suo dolore. Prendimi,			和らげておる。私を連れていけ、	

⁵⁸ ロディア *Ῥόδια* ダンヌンツィオの創作した人物。ただし古代ギリシャ語人名に基づく。侍女のひとり。第2幕冒頭に黙役として登場する。

⁵⁹ コリュバンテス *Κορύβαντες* 地母神キュベレまたはそれと同一視されるゼウスの母レーアに仕える神官たち。祭礼において鳴り物を用いて熱狂乱舞することで知られる。

ponimi sopra un carro e sferza e portami
 verso Metàna, portami
 al frangente del flutto, 325
 per la marina di Limna, ch'io beva
 il vento, ch'io respiri
 la schiuma, ch'io mi bagni!
 Dov'è quella Tebana? nel lavacro?
 Voglio vederla, voglio 330
 vederla! Va, va, cercala! Ch'io l'abbia
 nelle mie mani! Annotta.
 Prendi la face, prendi
 l'acqua lustrale, e il salzo orzo, e il canestro,
 e le corone. Tu conosci il rito. 335

Ella sospinge Gorgo che s'allontana in silenzio. Con gli occhi torbidi la segue verso il propileo per ove penetra nell'atrio oscurato il lume violaceo del crepuscolo. Sta in ascolto, protesa, respirando il vento con la bocca anelante. Di subito sobbalza e si volge, come se udisse nomato il suo nome; e vede riapparire la grande Afrodite seguace nell'ombra della lunga colonna. Cammina verso l'apparizione, curvandosi innanzi con aspetto ferino, quasi che le branche pieghevoli e tacite della pantera pòrtino in sogno la sua sete e la sua rabbia. Parla da prima soffocatamente, acre d'empietà, con un incerto gesto della mano che sembra tergere dalla bocca una schiuma penosa e poi alzarsi verso la nube dei capelli come a tentar l'ago crinale traversa.

私を馬車に乗せ、馬に鞭打ち、私を連れていけ
 メターナのほうへ。私を連れていけ
 波の洗う浅瀬へ、
 リムナの海へ、そこで私は
 風を飲み、泡⁶⁰を
 呼吸し、沐浴したいのだ！
 あのテーベの女はどこだ？ 湯船のなかか？
 見てみたい、見てみたい
 ものだ。行け、行け、探してこい。その娘をわが手のなかに
 抱けるように！ 日が暮れる。
 松明を持て、清めの水を
 持て、塩入りの麦酒、かご、
 冠だ。祭礼を知っておるだろう。

彼女がゴルゴを押すので、ゴルゴは黙って去る。フェードラは曇った目つきで神殿前門までゴルゴについてゆく。そこから柱廊玄関のなかへ黄昏時のスマレ色の光が差しこんでいる。彼女は耳を澄ませ、身を持ち出して、あえぐ口で呼吸している。ただちにはっとして、まるで自分の名が呼ばれているのを聞いたかのように振り返る。そして、長い円柱の影のなかに偉大なるアフロディーテ⁶¹が再び現れてくるのを見る。そちらへ向かって、フェードラは獣のような顔つきで前に身を屈めながら歩く。あたかも黒豹が、物音を立てないしなやかな自らの爪ある脚で、夢うつつに渇きと激しい空腹を抱えて歩むかのようなのである。初め彼女は息を詰まらせ、女神に背くかのごとくとげとげしい調子で語る。そのさなかに片手をあいまいな仕草で動かす。その手は、は

⁶⁰ 愛の女神アフロディーテが海の泡から生まれたことを考慮すると、この台詞は義理の息子から愛されたい欲望を暗示しているように思われる。

⁶¹ アフロディーテ *Ἀφροδίτη* 愛、美、性の女神。

じめ口から泡をぬぐうようであったが、次いで頭上に盛った髪に届いてそこに差した櫛針を確かめようとしているかのようである。

Fedra Dea, che vuoi tu dunque da Fedra? Dura
belva, con la tua bassa
fronte sotto il pesante oro scolpita,
o mille volte adultera del Cielo,
o druda dell'Imberbe, se mi guardi
ti guardo, se t'appressi
m'appresso, disperata di combattere.

340

Con la mano minacciosa fa l'atto di trarre il lungo ago crinale.

M'irridi? Se nemica
mi sei ti son nemica.
Ti potessi trafiggere
a vena a vena.

Ebra di sacrilego, fa l'atto di scagliarsi; ma s'arresta di subito, quasi che il suo impeto si tronchi per il mezzo a guisa della verga di frassino sforzata dalla corda. E s'affoca, pallida come la cenere, lasciando cadere l'ago imbelles.

No. Ti cedo. Invitta,
invitta sei. Mi snodi le ginocchia,
mi dirompi la spina
sol con lo sguardo. Sei come la morte,

フェードラ　女神よ、それでああなたはフェードラに何を欲するのだ？　容赦のない
獣よ、黄金の重みのせいで
彫り込まれた顔をうつむけているあなたよ
おお幾度も密通する天の女よ、
おお美少年の情婦よ、あなたが私を見るならば
私はあなたを見よう、あなたが近づいてくるならば
私は近づいていこう、闘うことをあきらめて。

フェードラは威嚇する手つきで長い櫛針を引きぬく仕草をする。

私を嘲るのか？　あなたが
私の敵となれば、私もあなたの敵となろう。
刺し貫いてやろう、あなたの
血脈という血脈を。

流神の思いに陶醉して、フェードラは侮辱しかける。しかしただちに自ら止める。あたかも縄によって力をかけられすぎたトネリコの枝のように、自らの激情が途中で断ち切れてしまったかのである。続いて、かすれ声で語り、灰のように青ざめ、威勢を失ってふと櫛針を落とす。

いや。あなたには叶わない。負け知らずだ、
負け知らずなのだ、あなたは。私のひざを萎えさせ、
私の背骨を和らげてしまうのだ、
あなたはただ見つめただけで。あなたはまるで死のようだ、

e morire non fai.

350

Dea, t'imploro. Perché

mi perseguiti?

Invano attende la divina risposta. Le risorge l'orgoglio, vinto il languore supplichevole, e lampeggia da tutto il volto.

Parlami!

Io posso udirti. Ho l'amino possente.

Io sono una Titànide.

Si curva ella a raccogliere l'ago; e, come vede sulla pietra rosseggiare il repentino sprazzo della face recata dalla sopraggiunta Gorgo, sobbalza e si volge nel fremito.

Gorgo Fedra!

Fedra Sei Gorgo o sei l'Erinni?

La nutrice porta il canestro e la face conducendo la schiava tebana tutta avviluppata nel velo oblungo e coperta le gambe dalle pieghe del chitone cadente oltre l'apice del sandalo.

Gorgo Fedra,
è questa la Tebana

355

しかも死なせはしないのだ。

女神よ、あなたに問う。なぜ

私をつけまわす？

女神の返答を待つが得られない。自尊心がフェードラのなかにふたたび湧き起こり、哀願じみた憔悴に打ち勝つ。そして顔がすっかり輝く。

語れ！

私はあなたの言葉を聞くことができる。わが魂には力が宿っている！

私はティターノの血を引く女だ。

フェードラは身を屈めて針を拾う。そして、不意に戻ってきたゴルゴの掲げる松明の思いがけない輝きによって、石のうえに赤みが差すのを見ると同時に、飛び上がって身を震わせながら振り向く。

ゴルゴ フェードラさま！

フェードラ おまえはゴルゴか、それとも復讐の女神エリンニか？

乳母は手籠と松明とを携えて、テーベの女奴隷を連れている。女奴隷は細長いヴェールに全身を包んでおり、その両足はサンダルつま先を除いてキトーン⁶²の流れる襜ですっかり覆われている。

ゴルゴ フェードラさま、
これなる者が

⁶² キトーン *χιτών* 古代ギリシャの亜麻布を用いた衣服。

che Adrasto dona al figlio dell'Amàzone.

アドラースト王からアマツツォネ族長の御子へ贈られたテーベの女でございます。

Ma l'inferma è tutta agitata dalla divina visione,

それでもなお病んだ女は女神の幻影のせいで動揺している。

Fedra L'hai tu veduta contro la colonna?
È dileguata!

フェードラ そなたは見たか、あの柱に寄りかかった女神を?
消えてしまった!

Gorgo Fedra,
ho veduto laggiù nella pianura
di Limna, alla palude
Sarònide, la caccia che ritorna.

360

ゴルゴ フェードラさま、
私は見ました、あちらの下の方、リムナの平原
サローニデの沼地にて
帰ってくる狩りの一行を。

Ma l'inferma ondeggiava ancora nel suo delirio crepuscolare. La nutrice la chiama più forte. Ed ella si riscuote. E guarda la preda ravvolta, avanzandosi verso di lei col suo passo di lunga pantera ma più leggermente.

しかし病んでいる女はまだ黄昏時の自らの錯乱のただなかで動揺している。乳母は彼女にいつそう強く呼びかける。それでフェードラはわれに返る。それから彼女はヴェールをかぶった献上品の女奴隷を見つめ、身を伸ばした黒豹のような足取りでいつそう軽やかに女のほうへ歩み出る。

Odimi, Fedra. È piena di presagi
la sera. Ardono ovunque
gli incendi sacri.

お聴きください、フェードラさま。胸騒ぎに満ちた
夕暮れでございます。いたるところで燃え上っております
祭礼の炎が。

La prigioniera è immobile e tacita. Chinandosi verso di lei, Fedra ha nel bianco degli occhi una scintilla che sembra di sorriso.

囚われの身である女奴隷は動かず黙っている。彼女のほうへ身を傾けつつ、フェードラは微笑むかのような輝きを両目の白い部分に宿らせる。

Fedra Vergine
di Tebe, sei divinatrice?

365

フェードラ テーベの
乙女よ、そなたは予言者か?

La prigioniera non risponde né si crolla.

Voce

non hai? Forse la perde chi s'abbevera
alla fonte di Dirce? Accosta, Gorgo,
la face.

La nutrice pone la vampa di fronte al viso della schiava su cui pende l'orlo
ombrante.

Non tremare. Ti sarò

dolce.

Preso un dei lembi, con un rapido gesto la disviluppa dal càlimma color di
croco. E la vergine appare nel suo lungo chitone di lino altocinta, coi capelli
in corimbi fasciati dalla benda di cuoio simile alla staffa della frombola.

Sei bella!

Subitamente inanimata, la prigioniera rende la lode con un lieve tremito
nella voce melodiosa.

捕虜の女は答えず、身じろぎ一つすらない。

声が

出ないのか? 確かディルチェの泉⁶³で水を飲む者は
声を失うのだったか? 近づけろ、ゴルゴよ、
松明を。

乳母は女奴隷の顔の前に炎をかざす。その顔には影差す縁飾りがかかっ
ている。

おびえるな。そなたには私は

優しく接するがゆえ。

裾の一角を持つと、フェードラはさっとクロツカス色のカリンマ⁶⁴を脱がせ
る。すると乙女が現れる。亜麻の長いキトーネを着て胸の高さに帯を巻き、
投石紐に似た革帯で髪をコリンボ⁶⁵の形に束ねている。

そなたは美しい!

不意に鼓舞されて、囚われの女は歌うような声を軽く震わせながら称賛し
返す。

La Schiava Tebana

Come bella, come

370

テーベの女奴隷

あなたさまこそ

⁶³ デイルケー Δίρκη パウサニアス『ギリシャ記』第9巻25章3節によれば、テーバイにある泉のひとつ。

⁶⁴ カリユンマ κάλυμμα 古代ギリシャにおけるヴェール的一种。

⁶⁵ コリユンボス κόρυμβος 古代ギリシャの髪型のひとつ。前後から髪全体を引き上げ、頭上にまとめて蝶結びにする。

grande sei tu, Regina
d'isole.

何とお麗しゅう、何と偉大でございましょう、島々の
女王よ。

Fedra Parli. Simile hai la bocca
alla parola. Il tuo nome?

フェードラ よく言う。そなたのくちびるこそ
その言葉に似つかわしいぞ。そなたの名は？

La Schiava Tebana Ipponòe.

テーベの女奴隷 イッポノーエ⁶⁶でございます。

Fedra Anche nel nome è il giogo. 375

フェードラ その名のなかにもまたくびきがある⁶⁷。

La Schiava Tebana Sarà duro il suo giogo?

テーベの女奴隷 かの御方のくびきは厳しく辛いものとなりましょうか？

Fedra Sei fragile, Ipponòe.

フェードラ そなたはか弱い、イッポノーエよ。

La Schiava Tebana Fragile sono,
sì, ma come l'ornello che fa l'asta
vibrante.

テーベの女奴隷 か弱うございます、
確かに、けれどもトネリコのごとく
しなる杖となりましょう。

Fedra Dici che sei forte?

フェードラ つまりそなたは強いと言うのだな？

Ribalena l'ardimento nella creatura nata dalla stirpe pugnace che sorse dalla
semenza di Cadmo. Illusa dai modi ambigui della Cretese, l'incauta di
parola in parola, cresce nel vanto. Illumina il dialogo la lampadèfora

カドモ⁶⁸の種から発した好戦的な血筋の生まれの乙女のなかにふたたび豪
胆な性質が宿る。クレタ出身の王妃のどちらともとれる言い回しに勘違いし
てしまい、軽率な女奴隷は一語ごとに次第に自慢げな調子を増してゆく。静

⁶⁶ ヒッポノーエ *Ἰππονοη* ダンヌンツィオの創作した人物。ただし名は、内海の神ネーレウスが大洋神オーケアノスの娘ドーリスともうけた五十人の娘たちのひとりから採られているのではないかと思われる。「牝馬のように荒々しい女」を意味する。

⁶⁷ その名が彼女にとって義理の息子と同じ接頭辞から始まっているから。

⁶⁸ カドモス *Κάδμος* テーバイの建国者。

silenziosa.

かな松明の炎がその会話を照らしている。

La Schiava Tebana In riva

ai due fiumi gemelli
con le vergini eguali 380
correvo a gara.

テーベの女奴隷 同じ

源から出づるふたつの川の洲にて
同じ年頃の乙女たちと
かつては競いあって走ったものです。

Fedra Dici

che sei veloce?

フェードラ つまり

そなたは速いと言うのだな？

La Schiava Tebana So gettar la palla.

テーベの女奴隷 砲丸投げができます。

Fedra Non la spola?

フェードラ 機織りの糸巻きではなく？

La Schiava Tebana So volgere il palèo.

テーベの女奴隷 独楽回しができます。

Fedra Non il fuso?

フェードラ 紡錘ではなく？

La Schiava Tebana Altri giochi

io so, men puerilli: 385
scagliare con l'amento
la mezza lancia, con la fionda il ciottolo.

テーベの女奴隷 他の腕比べも

たしなんでおります、あまり子どもじみでないものを。
革ひもで短い槍を、投石器で小石を
投げられます。

Fedra Cogliere il segno?

フェードラ 的当ては？

La Schiava Tebana Etèocle

テーベの女奴隷 かつてエテオクレ⁶⁹さまに

⁶⁹ エテオクレース *Ἐτεοκλῆς* オイディプースとイオカステーの子。兄のポリュネイケースと交代で一年ごとにテーバイを治めるが、不和による兄の国外追放後はひとりで王を務める。しかしのちにアルゴス

mi lodò.		褒められました。		
Fedra	Come guerriera?	フェードラ	女戦士のようにか？	
La Schiava Tebana	Son la figlia d’ Àstaco.	テーベの女奴隷	私はアスタコ ⁷⁰ の 娘でございます。	
Fedra	Regia vergine.	390	フェードラ	王族の乙女だ。
La Schiava Tebana	Sono degli Sparti.	テーベの女奴隷	スパルティ ⁷¹ の出でございます。	
Fedra	Non temi il sangue?	フェードラ	そなたは血を恐れぬのか？	
La Schiava Tebana	Son la minor sorella di Melanippo.	テーベの女奴隷	私はメラニツポ ⁷² の 妹でございます。	
Fedra	Uccise il figlio d’ Èneo?	フェードラ	エーネオの息子 ⁷³ を屠った彼か？	
La Schiava Tebana	E Leàde, il Fratello mio secondo,	テーベの女奴隷	そしてレアーデ ⁷⁴ 、私の二番目の兄が、	

軍を率いて戻ってきたポリュネイケースと戦って相討ちとなる。アイスキュロス『テーバイ攻めの七将』参照。

⁷⁰ アスタコス Αστακός テーバイを守護した将のうち四人の父親。したがって、ダンヌンツィオによって創作されたこの女奴隷は、メラニツポス、イスマロス、レアデース、アムピディコスと兄弟であることになる。

⁷¹ スパルトイ Σπαρτοί 「蔭かれた者たち」を意味する。テーバイ建国神話において、カドモスが女神アテーナーの言葉にしたがって倒した大蛇の牙を大地に蒔くと、武装した男たちが生まれてきた。カドモスが彼らのあいだに石を投げ入れると、彼らは互いを疑いあつて殺し合いはじめ、5人だけが残った。この5人またはその子孫たちがスパルトイと呼ばれるようになった。子孫のうちにはテーバイ王になった者が数名いる。

⁷² メラニツポス Μελάνιππος アスタコスの子。アルゴスとテーバイの戦いにおいて後者の防衛についた将軍。

⁷³ カリュドーン王オイネウス Οινεύς の子テューデウス Τυδεύς のこと。アイスキュロスによればテーバイ攻めの七将の一人。血縁者を殺害したため国を追われてアルゴスへ逃れ、テーバイ攻めに参加する。

⁷⁴ レアデース Λεαδης アスタコスの子。

	uccise Ippomedonte.	395		イッポメドーンテめを討ち取りました。
Fedra	Due dei Sette domò la forza d'Àstaco.		フェードラ	七将のうち二将がアスタコの力によって屈服させられたわけだ。
La Schiava Tebana	Tre dei Sette, o Regina d'isole.		テーベの女奴隷	三将でございます、おお島々の女王よ。
Fedra	Ma rallegrati, o fiore degli Sparti. Non la schiava sarai, sarai la sposa d'Ippolito. Sei degna che il figlio faretrato dell'Amàzone teco partisca il talamo coperto coi velli dei leoni. È dolce la sua bocca, dolce a chi non teme di baciarla, Ipponòe.	400 405	フェードラ	ともあれ喜べ、 おおスパルティの末裔の花よ、 そなたは奴隷にはせん、イッポーリトの 花嫁としよう。そなたは 矢筒 ⁷⁵ をつけたアマツヅォネ族の子と 獅子の毛皮で覆った新婚の床を 分かちあうのにふさわしい。 甘やかなのだ彼の唇は、甘やかなのだ くちづけるのを恐れぬ者にとってはな、 イッポノーエよ。
La Schiava Tebana	Come t'accendi, Regina d'isole, pari a un'iddia che si mostri dentro una nube d'ocaso!		テーベの女奴隷	何と火照っておられることでしょう、島々の女王よ、まるで黄昏の雲の中に姿を見せる女神 ⁷⁶ のようでございます！
Fedra	E la sua forza, come la cetera deliaca,	410	フェードラ	それに彼の 力は、デーロス島 ⁷⁷ の〔神アポッロの〕キタラーのように、

⁷⁵ この言葉は箴をもつ神々(アルテミス、ヘーラクレース、エロース)の属性を表しており、彼女が義理の息子に狩猟の名手、英雄、愛のイメージを重ねていることを暗示している。

⁷⁶ 宵の明星、すなわち愛の神アプロディーテー。

⁷⁷ デーロス Δῆλος アポローン信仰の聖地。そのためこの地名はアポローンの代名詞としても用いられる。

varia i modi, ch  tutti li conosce.

E correrai tu per la selva al fianco

del coturnato. E come

la Vittoria starai dritta sul cocchio

per le sabbie di Limna. E tu medesima

dell’olio e della polvere e del grumo

lo monderai con lo strigile d’oro.

415

Sotto lo sguardo crudele e divorante, la vergine comincia a irrigidirsi nella
immobilit  del terrore. La divinazione gonfia il suo petto. La sua voce si
muta. Soffocato   il suo primo grido di veggente.

La Schiava Tebana Ah! Ah! Veggo il suo sangue sopra lui.

Fedra Per tutto il corpo gli balza e gli s’agita
il suo sangue. Gli danza
e gli canta e gli svampa
la giovinezza per tutte le membra.

420

Accesa dal desiderio folle, pi  che dal crescente rossore dell’incendio,   la
figlia di Pasif e. Ella impone alla schiava atterrita l’immagine notturna di s 
palpitante nell’aspettazione.

La Schiava Tebana O Regina, Regina, sopra te,
intorno a te cresce il fuoco!

Fedra

Stanotte

さまざまに調子〔旋法〕を変える。あらゆるやり方を知っているからな。

そなたは狩猟の靴を履いた男に寄り添って

森を駆けていこう。そして勝利の

女神のようにそなたは二輪戦車のうえに直立するだろう、

リムナの砂をわたりながら。まさしくそなたこそが

彼の油、塵、血餅を剥いでやるのだ

黄金づくりのあかすりべらをもって。

冷酷な食い入るような目で見つめられて、処女はよどんだ恐怖のなかで身
を強張らせはじめる。予感が彼女の胸を膨らませる。彼女の声が変わる。予
言者としての彼女の最初の叫びは息詰まったかのである。

テーベの女奴隷 ああ！ ああ！ 彼が血気に逸るのが見えます。

フェードラ 全身をめぐって彼のなかを激しく流れてはのたうつのだ
その血気は。彼に舞いかかり
歌いかけてはほとぼしるのだ
四肢すべてを通じて、若さというものがな。

パジーファエの娘は、あたりで増してきている紅い輝きによってというよりは
むしろ狂気じみた欲望によって激している。彼女は、じっと待ち受けながら胸
を躍らせる自らの夜のイメージを、恐怖にあえぐ女奴隷に重ねる。

テーベの女奴隷 おお女王、女王よ、あなたのうえで
あなたのまわりで、炎が大きくなっていく！

フェードラ

今夜

	sino alle labbra ti rimbalzerà il cuore, udendo il suono del suo passo; e sarai tutta gelo sino al fiore diviso del tuo petto e tutta del colore della notte; ché spenta avrai la face; ché men terribile è fisare il volto di Tànato che il suo volto nudo, Ipponòe.	425		彼の足音を聴いてそなたの心臓は 口にまで飛び出してくるだろう、 そしてそなたはすっかり凍てつくだろう そなたの胸に分かたれた花にいたるまで、 すっかり夜闇の色に染まってしまうのだ、 なぜなら松明を消したからだ、 なぜなら恐ろしくて見つめられないのは ターナトの顔よりもむしろ彼の ありのままの顔のほうだからだ、イツポノーエよ。
La Schiava Tebana	È dietro a te Tànato! È dietro a te, Fedra, il Fanciullo nero! Tutto intorno arde!	435	テーベの女奴隷	あなたの後ろにターナトがおります! あなたの後ろに、 フェードラさま、黒い少年が! とりまくものすべてが 燃えあがっています!
	Più le si appressa Fedra col viso contra il viso, ponendole su gli òmeri le mani violente. Tutto l'atrio rosseggia di volubili riverberi.			フェードラは顔を突き合わせつつ女奴隷にいつそう迫り、自らの両手で彼女の の両肩を荒々しくつかむ。柱廊全体が揺らめく照り返しによって紅に染まる。
Fedra	Ti prenderà fra le sue braccia ferree, t'abbatterà, ti premerà su i velli dei leoni; perduta, ti squasserà, ti schianterà...		フェードラ	彼はそなたを抱くだろう 自らの鉄の両腕のなかに。 彼はそなたを倒し、獅子の毛皮のうえに 押しつけるだろう。われを忘れて そなたを揺さぶり、そなたを打ち壊すだろう……
La Schiava Tebana	Perduta sei nel fuoco! La reggia è in fiamme! Tutto arde!	440	テーベの女奴隷	われを忘れているのは 炎のなかのあなたさまでございます! 王宮が火に包まれております! すべて 燃えてしまいます!

Ora dal pieno petto grida la veggente, invasa dalla grande angoscia
apollinea. Anela e geme; e poi sembra esanime; e poi riprende il clamore,
come il vento che cade e risorge. Abbagliata dai riverberi, Fedra si scosta e
indietreggia.

いまやアポッロの預言者は大いなる不安に襲われ、はちきれんばかりに膨
らんだ胸から叫ぶ。あえぎ、うめく。そして魂が抜けたようになる。それから、
やんではふたたび巻き起こる風のようにまたも騒ぎはじめる。一方フェード
ラは、照り返しによって眼がくらみ、ひるんで後退する。

Gorgo È l'incendio della nave fùnebre.
 È l'olocausto nautico.

ゴルゴ 弔いの船が燃えているのでございます。
 航海の供物でございます。

Fedra Rovescia
 la face! Spegni la face, se Tànato
 è dietro a me.

フェードラ 消せ、
 松明を！ 松明を消せ、ターナトが
 私の背後にいるというぞ。

La lampadèfora inverte la face e la spegne su la pietra.

松明係が松明を逆さまにすると火は石のうで消える。

La Schiava Tebana Adrasto, Adrasto, a chi
 fui data! O fonte di Dirce! O mia Tebe
 di Sette Porte! Dove mi trascini,
 Ismènio? O Lòssia, che farai di me?

445 テーベの女奴隷 アドラースト、アドラースト、何という方に
 私は与えられたのか！ おおディルチェの泉よ！ おお七つの門を誇る
 わがテーベよ！ どこへ私を連れていこうというのだ、
 イスメーニオ⁷⁸よ？ おおロシア⁷⁹よ、私をどうするつもりだ？

Fedra Tu gridi verso il dio
 che non ama il lamento,
 con la tua gola alzata
 come la gola della
 colomba.

450 フェードラ そなたは神に向かって叫ぶが
 その神は嘆きを愛しておらぬぞ、
 そなたは喉を
 雌鳩の喉のように
 伸ばしているな。

⁷⁸ イスメーニオス *Ισμήνιος* アポローンの異名のひとつ。アムピュオーンとニオペーの子イスメノスがアポローンに殺される際に身を投げたとされるテーバイのイスメノス川にちなむ。

⁷⁹ ロクシアス *Λοξίας* アポローンの異名のひとつ。両義的すなわち不明瞭な内容の神託をもたらす場合このように呼ばれる。

I riverberi per l'atrio hanno un battito incessante; quasi vampe vivaci, mentre la Cretese trascina verso l'altare la figlia d'Àstaco che si lagna e repugna.

Gorgo, reca il canestro.

柱廊を通じて入ってくる光がほとんど勢いの強い炎のように絶えず照り返す。そのあいだにクレタの女は、うめいてはいやがるアスタコの娘をむりやり祭壇のほうへと連れていく。

ゴルゴよ、手籠を持ってまいれ。

La Schiava Tebana

Con artigli

mi ghermisci.

テーベの女奴隷

恐ろしい爪で

私をつかみなさる。

Fedra

Non sei dunque tu forte

455

フェードラ

さてもそなたはトネリコほどにも

come l'orno, sorella

強くはないな、メラニツポの

di Melanippo? Vieni!

妹よ? 来い!

O Gorgo, arde la reggia? Gorgo, tutta

おおゴルゴよ、宮殿が燃えているのか? ゴルゴよ、

la sete dell'Argolide s'infiama?

アルゴリーデ⁸⁰の渇きがみな燃えているのか?

Tutto il suolo di Pelope

460

ペーロペの大地がすべて

è un olocausto?

供物として焼かれているのか?

L'ardore d'una smisurata fucina sembra soffiare nel palagio di Pitteo. S'ode a quando a quando il rugginio confuso dell'incendio e il fischio del vento libico. Posato il canestro Gorgo veloce s'allontana per l'adito. Fedra e Ipponòe sono presso la fossa dei sacrificii.

途方もなく大きな炉の熱気がピッテオの館のなかへ吹きこんでいるかのようである。しだいに火災の混乱した騒音やリビアからの風の甲高い音が聞こえてくる。手籠を置くと、ゴルゴは入口へすみやかに離れていく。フェードラとイツポノーエは供物穴のそばにいる。

La Schiava Tebana

Fuggi,

テーベの女奴隷

お逃げください、

fuggi. L'Erinni brucia

お逃げください。復讐の女神エリンニが

⁸⁰ アルゴリス Ἀργολίς 都市国家アルゴスの別名。神話における同国の建国者にしてゼウスとニオベーの子アルゴスの末裔を意味する。

col tizzo le tue case.

燃え木を持ってあなたの家々を焼いています。

Fedra	Dalle vane di Edipo	
	teco venne la cagna stigia? O schiava,	465
	odimi. Quella che il figlio di Laio	
	osò guatar negli occhi spaventosi,	
	quella fiera che striscia balza vola	
	parla, bacia le bocche moribonde,	
	aquila, serpe, leonessa, femmina	470
	d'uomo, alata, squammata,	
	con branche atroci e floride mammelle,	
	Musa dei Morti, in me	
	rivive.	

フェードラ
エディポの家から
ステージ⁸¹の雌犬がおまえについてきたか？ おお女奴隷よ、
聞け。かつてラーイオ⁸²の息子が
すさまじい目つきで敢然と睨みつけたあの雌、
あの、這い、跳ね上がり、飛び
人の言葉を語り、瀕死の唇にくちづける雌の獣だ、
鷲と、蛇と、雌獅子と、人間の
女だ、翼を生やし、うろこに覆われて
残酷きわまる爪とたわわに実る乳房を持つ
死者たちのムーサ⁸³だ、あれが私のなかに
よみがえっているのだ。

La Schiava Tebana Sei la Sfinge?

あなたはスフィンジェ⁸⁴なのですか？

Fedra	Sono Fedra.	
Vittima, e ti coronò di papaveri;		475
ché la terra di Pelope		
è fertile in papaveri letei.		

フェードラ

私はフェードラだ。

生贄よ、ケシの冠をそなたに授けよう。

ペーロペの大地は

レテ⁸⁵のケシ⁸⁶に富んでおるからな。

⁸¹ ステュクス Στύξ オーケアノスとテーテュースの娘。ティーターンティーターンの血を引きながらも、ティーターン族とオリュンポスの神々との戦いで後者につき、その返礼として冥界で最大の川を与えられ、そこに自らの名を付した。ステュクスの水は、神々のあいだでの誓言とその違反に対する罰に用いられた。この川の水を飲んで誓言した内容に背いた場合、その者は九年間死んだようになり、意識を取り戻してから誓言を守らなければオリュンポスから永遠に追放された。ここでは、主人公が義理の息子の妻にすると約束したにも拘わらずそれを破ろうとしていることに対する罰を暗示している。

⁸² ラーイオス Λάϊος オイディプースの父。

⁸³ ム一サ *Moũσα* 文芸を司る女神。

⁸⁴ スピンクス *Σφίγξ* 英語読みはスフィンクス。鷲の翼、蛇の尾、獅子の身体、美しい人間の女性の顔と乳房を持つ怪物。テーバイの山中で「朝は四本足、昼は二本足、夜は三本足。これは何か」という謎を出しては、正しく答えられない旅人を食べていた。しかしあるとき通りがかったオイディプースが正しく「人間」と答えたため、岩から飛び降り、海に身を投げて死んだ。

⁸⁵ レーテー λήθη 冥府に流れる川のひとつ。

Ella prende dal canestro la ghirlanda purpurea e ne cinge il capo della
Tebana che prostrata volge il lamento melodioso.

彼女は手籠から真紅の花冠を取り出し、それをテーベの女奴隷の頭に巻き
つける。女奴隷はひれ伏して歌うような嗚咽の声をめぐらせる。

La Schiava Tebana O pari a un'iddia, Fedra, o folgorante,
io piego ai tuoi ginocchi,
come un suplice ramo 480
il mio corpo di vergine incorrotto!
Non m'uccidere innanzi tempo, non
mi volgere alle Porte
del Buio; ch  dolce   veder la luce
e assai non bevvi alle mie chiare fonti. 485

テーベの女奴隷 おお一柱の女神にも等しきフェードラさま、おお煌々と輝く御方、
あなたさまのお膝元に
嘆願の枝のように
わがけがれなき処女の肉体を屈してお願いいたします！
その時が来る前に私を殺めないでくださいませ、どうか
私を常闇の門へ向かわせないで
くださいませ。陽光にまみえること甘やかにして
私は自らの清らかな泉を飲み飽きてはいないのです。

Fedra Se bevesti alla fonte Edipod ia,
Tebana, sciogli l'enigma di Fedra!

L'abbranca ella, inesorabile; e, non umana, non divina, si curva su lei nello
splendore misterioso.

フェードラ そなたがエディポの泉で水を飲んだのならば
テーベの女よ、フェードラの謎を解け！

フェードラは、容赦なくテーベの女奴隷を驚掴みにし、人とも神ともつかない
様子で、神秘的な輝きに包まれて女奴隷を上から覗き込む。

La Schiava Tebana Ahi, tu non m'adugni! S nguino.
Perch  mi struggi?

テーベの女奴隷 ああ、つかみかからないで！ 血がにじむ。
どうして私を責め苛むのです。

Fedra Sciogli
per la divinit  profonda, sciogli
il nodo inestricabile. 490

フェードラ 解け
奈落の神にかけて、解け
ほどきがたい結び目を。

⁸⁶ ここでは「死者への供物」を意味する。例えばウェルギリウス『農耕詩』第 4 巻 545 行を参照。アリストアエウスが、自らの横恋慕のせいで悲劇的運命をたどったエウリディケーとオルペウスを慰霊するよう、プロテウスから諭される場面で、オルペウスへ「レーターのケシ Lethaea papauera」を供物として捧げるよう指示されている。

La Schiava Tebana Ah, mi laceri. Sanguino.

テーベの女奴隷 ああ、裂ける。血がにじむ。

Fedra Sciogli l'enigma!

フェードラ 謎を解け!

La Schiava Tebana T'odo,
t'odo. Interroga.

テーベの女奴隷 聞いております、
聞いております。問いを出されませ。

Abbrancata e riversa la tiene Fedra, con gli occhi negli occhi, con l'alito
nell'alito, simile veramente alla fiera nata d'Echidna.

フェードラは彼女を強くつかみ、向き直らせ、目と目を合わせ、息と息を交わ
らせる。その様子たるやまさにエキドナから生まれたあの獣のようである。

Fedra Or chi,
dimmi, domò col fuoco il fuoco? Or chi
spense la face con la face? Or chi
con l'arco ferì l'arco?

495

フェードラ さて
申せ、火をもって火を静めたものは誰だ? さて
松明をもって松明を消したものは誰だ? さて
弓をもって弓を傷つけたものは誰だ?

La Schiava Tebana L'amore.

テーベの女奴隷 愛。

Fedra No.

フェードラ はずれだ。

La Schiava Tebana La morte.

テーベの女奴隷 死でございましょう。

Fedra No.

フェードラ ちがう。

Fulminea si toglie dalle trecce l'ago crinale e trafigge la vittima ponendole
su la bocca la sinistra mano e rovesciandola nella fossa a piè dell'ara
solenne. Brevemente quella si dibatte e geme.

電光石火の素早さで、櫛針を編み毛から引き抜くと、左手で口封じしながら
生贄を刺し貫いて、荘嚴な祭壇のあしもとに開いた供物穴のなかへ倒し入
れる。生贄はもがきうめくがそれも束の間である。

	Ricevi, divinità profonda, il sangue puro di questa gola e scendi al sacrificio.	500		受け取れ、 奈落の神よ、この喉の けがれなき血を、そして供犠へ下れ。
	S'ode la voce affannosa di Gorgo che accorre come inseguita dai turbini del fumo e delle faville.			ゴルゴの息切れした声が聞こえる。彼女はまるで煙と火の粉の渦に追い立 てられるかのように駆け入ってくる。
Gorgo	O Fedra, tutto il porto di Celènderi è in fiamme! Dalla nave nera s'è propagato il fuoco a tutto il navilio e l'incendio divampa irreparabile. Odi l'ululo e il rugginio!	505	ゴルゴ	おおフェードラさま、チェレンデリ湾が みな炎に包まれております！ 黒き 船から火が船団のすべてに 広まって、火災が 手のつけようのないほど盛り狂っております。 火のうなり声、咆哮が聞こえましょう！
	La sacrificatrice leva in alto le mani cruenta e invoca.			生贄を捧げた女は血なまぐさい手を高く掲げ、祈願する。
Fedra	O furore d'Efesto divorante, sia questa la notte ultima!		フェードラ	おお貪り喰らうエフェスト ⁸⁷ の激情よ、 これを最後の夜とせよ！
Gorgo	Purifica o Sacrificatrice, le tue mani! Ecco, le Madri supplici dei Sette uomini Eroi, con l'urne di bronzo.	510	ゴルゴ	お清めください おお供物を捧げられた御方よ、あなたの両手を！ ご覧ください、救いを求める 七将の母らでございます、青銅づくりの 壺を運んで参りました。

⁸⁷ ヘーパイストス *Ἡφαιστος* 炎と鍛冶の神。

China presso il canestro la nutrice le versa l'acqua lustrale e la terge, mentre le Supplici dai neri pepi entrano l'una dopo l'altra con lento passo in silenzio portando su le urne delle ceneri eroiche.

乳母はかごの近くで身を屈めつつ清めの水をフェードラの両手に注ぎ、拭く。そのあいだに黒いペプロをまといつつ、救いを求める女たちが英雄の遺灰を収める壺を掲げて運び、押し黙ってひとりずつゆっくりと入ってくる。

Fedra

Madri degli Eroi, udite!

Questa schiava tebana,
cui pose Adrasto nella nave nera,
fu della stirpe d'Àstaco, 515
ond'escirono tre degli uccisori
suoi fratelli. Si schiantano tre cuori
contra il bronzo funereo?
Presso l'altare, ingombro
dei vostri rami sùplici, immolata 520
l'ha, nella sacra luce
dell'olocausto nautico, alle Forze
profonde e alle severe Ombre e al superstite
dolore

La grande e chiara voce cala, s'intenebra, nella pausa contratta.

e alla Mania
insonne, su l'entrare della Notte 525
Fedra indimenticabile.

フェードラ
英雄の母たちよ、聞け！
これなるテーベの女奴隸、
アドラースト王により黒き船に乗せられたる娘は
アスタコの家のものであった、
その兄弟からは人殺しが三人
出たのだ。〔そなたたちのうちの〕三つの心はいま
青銅の遺灰壺に向き合つて引き裂かれんばかりだろう？
そなたたちの嘆願の枝にあふれかえつた
祭壇のそばで、かの者は
生贄として捧げられたぞ、
船の供物たる聖なる炎のなかで、奈落の
力へ、仮借なき冥府へ、遺された
悲しみへ

言葉の間が縮み、そのなかで大きくはっきりした声が沈み、暗みを帯びる。

また不眠の
拭えぬ思いへ、夜のはじまりに
フェードラによってだ、忘れるな。

Dipinto a liste a rosette a meandri di color variato appare il peristillo che precede la dimora delle donne; intorno a cui per l'alto ricorre il fregio d'alabastro incrostato di quel vetro che i Fenicii colorano con la gruma cerulea generata dal rame immerso nella feccia del vino o con l'ocra azzurra di Cipro. Si scopre nel lato orientale fra due ante lo splendore del Mare Sarònico per mezzo alla selva degli antichi cipressi. Un mirto sacro sorge di tra le lastre del pavimento, ornato di bende con nodi singolari; e al tronco pendono zòani, simulacri dedàlei di Afrodite tagliati nel legno; e v'è la colonnetta e v'è l'altare; e sonvi su l'altare alcuni vasi d'unguenti, due colombe d'oro, e d'oro una bene attorta serpe fatta a ornare i malleoli del piede. Quasi al liminar dell'ombra prodotta dai cipressi è un lungo giaciglio che tutto ricoprono le pardàlidi, stellati velli di pantere.

Poco discosto è l'alto telaio verticale formato da due puntelli di piede aguzzo congiunti in sommo da una traversa ove infissa è una specie di cavicchie come nel giogo della lira; e, più sotto, a un'altra traversa è avvolta la parte dell'opra già fornita e vi si mostra per il largo una banda intessuta di figure d'uomini e d'animali a imagine di caccia; e ne pendono i fili

女たちの住まいの前景に、さまざまに彩られた格子模様、薔薇模様、雷文のある柱廊中庭が見える。その住まいの上部へ向かって、ガラスにはめ込まれた雪花石膏の帯状装飾がめぐっている。そのガラスは、フェニキア人が葡萄酒の底に沈殿した銅による空色の酒石もしくはチプロ島⁸⁸の青みがかった黄土を用いて彩色したものだ。東側、二本の壁間柱のはざまにて、年経る糸杉の森のむこうに、サローニコ湾のきらめきが見える。聖なるミルテが、間隔を開けて一度ずつ結び目をつけた綱によって飾られ、舗石の間から伸びあがっている。幹には、デーダロの手による木彫のアフロディーテのゾアノ⁸⁹がかかっている。そこに小さな円柱も祭壇もある。祭壇のうえには薬壺数個、黄金づくりの雌鳩二羽、足のくるぶしを飾るものでずいぶんねじれた黄金づくりの蛇一匹が置かれている。糸杉のつくる影の境にほど近く、長い藁の寝床があつて、数枚の斑のある豹皮にすっかり覆われている。

あまり遠くないところに背丈の高い竖機がある。それは足の鋭い二本の支柱を持ち、上部に一本の横木が渡されていて、ちょうどリラの横木と同様にボルトのようなものが打ち込まれている。さらにその下方では、もう一本の横木にすでに織りあげられた部分が巻かれていて、狩りにおける男たちと動物たちの姿を水平に織りこんである帯が見える。その帯からは無数の経

⁸⁸ キュプロス *Κύπρος* トルコの南、東地中海上に位置する島。

⁸⁹ クソアノン *ξόανον* 大型の石造彫刻が登場する以前、紀元前十～前八世紀の幾何学様式時代にさかのぼる原始的な木彫神像。一般には文献とわずかな残存物によってしか知られていない。なお、ダンヌンツィオは、1922 年にもっと具体的にこの木彫神像について叙述している。「むかし神々の原始的な偶像があった。その容貌は神ではなく樹木のものであって、クソアノンと呼ばれた。両足はひとつひとつ結ばれ、また両腕は胴体に沿って膝の関節までのびていた」次を参照。Gabriele d'Annunzio, "Il libro ascetico della giovane Italia [1895-1922]" in Id., *Prose di ricerca*, vol. I (Milano: Mondadori, 2005), p. 471. また別の機会には、詩人はその原始性のなかに近代芸術の革新の糸口を見出している。「私は、これまで鋭敏な分析や私の探究の道具を仮借なく鋭く研ぎすませることにたびたび満足してきたが、しかし今こう感じる。もしも私たちの芸術が革新に向かうとすれば、鋭敏さによってではなく、私には計り知れないくらい力強い純真な無骨さによってではないだろうか。ちょうど、ペイディアスやブラクシテレスの完璧な神々の像から離れて原初のクソアノンへ立ち戻ることによって、神性から遠ざかるのではなくむしろそこへもっと近づいていくと思われるように。」次を参照。Gabriele d'Annunzio, "Cento e cento e cento e cento pagine del Libro segreto di Gabriele D'Annunzio tentato di morire [1935]" in op. cit., vol. I, p. 1787.

innumerevoli dell'ordito tenduti dalle forate pietruzze che pesano ai capi.

Seduta al telaio è la nutrice che, a sé traendo alternamente il calamo annesso con cappii ai fili dispari dell'ordito e quello annesso ai fili pari, getta nell'intervallo con la spola il filo della trama e con la spate il tessuto rado serra.

Distesa è sul giaciglio Fedra coi piedi senza sandali, consunta dal male insonne, poggiata il cubito su i velli ferini e nella palma la gota smorta. Sospeso alla colonna sul suo capo è il rotondo scudo sonoro del Coribante dicteo.

Sotto il portico, presso l'adito che conduce alle sedi recondite, due fanti filano in silenzio, avendo ai piedi i canestri l'un colmo di lana bianca, l'altro di lana nera. La terza, Rodia, accosciata presso il lebeo argenteo, prepara coi semplici il beveraggio. La quarta e la quinta inginocchiate fanno il giuoco degli astràgali cautamente, ora gettando col bossolo i quattro ossicini, ora gettandone in alto tutti insieme cinque per riceverli poi sul dorso della mano. Compone la sesta una ghirlanda di dittamo cretico. La settima profuma la colomba diletta.

糸が下がり、その末端についた穴開きの小石によって張られている。

機のところ座っているのは乳母である。彼女は経糸のうち奇数番の糸に蝶結びでついている葦茎と、偶数番の糸についているものを交互に引き寄せては、その隙間に杼を用いて緯糸を投げ通し、スパテ⁹⁰を打って疎な織物を引き締める。

寝床にはフェードラがサンダルを脱いで横臥している。眠れぬ苦しみのためにやつれ、獣の皮のうえに肘をつき、両手で血の気のない頬を包んでいる。彼女の頭上、円柱に、ディクテ山⁹¹のコリバンテの使う鳴りのいい円盾がかけられている。

柱廊のもと、大奥へ通じる入口そばに、侍女がふたり足元にかごを置いて黙って糸を紡いでおり、かごのうちひとつは白い羊毛で、もうひとつは黒い羊毛でいっぱいである。三人目の侍女ローディアは、銀のレベテ⁹²のそばにかがんで、薬草を持って眠り薬を準備している。四人目と五人目はひざまづいて注意深くアストラガロ⁹³遊びに興じている。賽筒を用いて小さな骨を四つ投げたり、また五つすべて一緒に高く投げたりして、手の甲に受けて競い合う。六人目はクレタ島のハクセンで花輪をつくっている。七人目は愛する清らかな乙女に香りをつけている。

Fedra Ròdia, Ròdia, non anche intriso hai l'erbe?
Eunòia, libasti? O Àgave,
qual fu l'ultimo getto degli astràgali?
O Gorgo, o Gorgo, io muoio
senza morire.

530

フェードラ ローディア、ローディアや、もう薬は練りあがったか。
エウノーア、祭壇に献酒したか。おおアーガヴェよ、
さっき投げたアストラガロはどうであったか。
おおゴルゴ、おおゴルゴよ、私は死にそうだ、
死んでもいないのに。

⁹⁰ スパテー *σπάθη* ここでは平たい木の棒を指す。古代ギリシャでは箴打ちに使われた。

⁹¹ ディクテ *Δίκη* クレーター島の山。地母神キュベレと同一視されるレアーがゼウスを産んだ場所。その誕生をコリュバスたちは鳴り物を用いて熱狂乱舞して祝った。

⁹² レベース *λέβης* 丸底、卵型の陶器製もしくは金属製の酒壺。

⁹³ アストラガロス *ἀστράγαλος* 雌山羊または雄羊のくるぶしの骨。あるいはそれを用いる古代の遊び。

S'odono le invocazioni delle schiave nella dimora interna.

内奥の住まいのなかに下女たちの呼び声が響き渡る。

Le voci interne Fedra! Fedra! Fedra!

内奥からの声 フェードラさま! フェードラさま! フェードラさま!

Le voci delle - Intridi l'erbe! Intridi l'erbe!

侍女たちの声　——薬草を練るのだ！　薬草を練るのだ！

Fanti -Affoca

—燃やせ

il mirto! Affoca il mirto!

ミルテを！ ミルテを燃やせ！

- Percoti il bronzo!

——青銅を打ち鳴らせ！

-Esaudi! Esaudi!

——聞き届けたまえ！ 聞き届けたまえ！

- Liba

——注ぎ献じよ

tre volte!

三度！

Le voci interne Fedra! Fedra!

535

内奥からの声 フェードラさま! フェードラさま!

Fedra

Nutrice, va! Conducimi
quel mercante fenicio, che mi porti
l'erbe ch'egli ha d'Egitto contro il male
insonne. O Ade, o Ade, fa ch'io possa
attingere dal fiume di sotterra
un po' d'acqua sonnifera, ch'io chiuda
quest'occhi e dorma!

540

フェードラ　乳母よ、行け！ 私のもとに連れてこい
あのかフェニキアの商人を、あやつは私のもとに
不眠の苦しみに効く薬草をエジツト⁹⁴から
運んできたというぞ。おおアーデ⁹⁵、おおアーデよ、どうか
冥府の川から私にくみとらせたまえ
眠りを誘う水を、それによってこの瞳を
閉ざし、眠らせたまえ！

Si parte Gorgo dal telaio e va. Senza riposo l'inferma s'agita.

ゴルゴは機から離れ、去る。病める女は休むことなく騒ぎ立てる。

⁹⁴ アイギュプトス *Aĩγυπτος* エジプト。

⁹⁵ ハーデース *Αἰδης* 冥府を統べる神。クロノスとレアーの子、ゼウスやポセイドーンの兄。

Le Fanti	Dormirai. Stanotte dormirai.		侍女たち	お休みになれましょう。今夜こそ お休みになれましょう。
Fedra	Liba al Sonno Eunòà, liba a Tànato!		フェードラ	眠りの神 ⁹⁶ に献酒せよ エウノーアよ、ターナトに献酒せよ!
Le Fanti	Dormirai, Fedra! Fedra, dormirai!	545	侍女たち	お休みになれましょう、フェードラさま! フェードラさま、お休みになれましょう!
Fedra	Ah se premesse il Sonno con le sue dita lievi come il fiore della smilace il frutto della morte su' miei denti!		フェードラ	ああ眠りの神が イチイ ⁹⁷ の花のようにささやかなその指々で 死の果実を私の口に 押しこんではくれまいか!
Le Fanti	Stanotte dormirai.		侍女たち	今夜こそはお休みになれましょう。
Fedra	È il latrato del Cane di sotterra quello che sempre s'ode, sempre s'ode? Àgave, Stilbe, avete udito?	550	フェードラ	黄泉の犬の遠吠えだろうか あのようにずっと聞こえているのは? アーガウエ、スティルベ、聞いたか?
Le Fanti	Latrano i molossi d'Ippolito sotto la Rupe. Eurito accorre! Eurito viene!		侍女たち	吠えたてております イツポーリトさまのモロッス犬どもが 岸壁のもとで。エウリートが駆けて参ります、エウリートが 駆けて参ります!

⁹⁶ ヒュプノス Ὕπνος 「眠り」の神格化。ローマ神話におけるソムヌス Somnus と同等。

⁹⁷ 女性名詞 smilace は現代イタリア語の辞書に収録されていない。ここではイチイを指す古代ギリシャ語の女性名詞 σμῖλαξ に由来するものと解釈した。

Appare tra i cipressi l'auriga ansante.

御者が息を切らして糸杉のはざまから現われる。

Fedra	Uomo d'Argo, parla, parla! Ov'è il figlio dell'Amazzone?	555	フェードラ	アルゴの男よ、申せ、申せ！ どこにいるのだ アマツヅォネ族の子は？
L'Auriga	Ancora insegue il cavallo d'Adrasto che fugge il laccio. E pieno di spavento m'è il cuore, ché presagio parvemi avverso sulla nave nera, annitrendo il cavallo tutta notte e percotendo l'albero con l'ugna.	560	御者	いまだアドラースト王の馬を追いかけておられます、 手綱から逃れてしまったので。私といたしましては 不安でいっぱいです、といたしますのも 黒船に乗っているとき凶兆が見えたからでございます、 馬は一晩中いなくておりましたし、 ひづめで船を叩いておりました。
Fedra	È vero, è vero! Ho fatto un sogno, ho fatto un sogno di terrore.		フェードラ	凶兆とはそのとおり、そのとおりだ！ 私は 夢を見た、恐ろしい夢を見た。
Le Fanti	Qualcuno chiama. S'ode clamore dietro il tempio della Sòspite.	565	侍女たち	誰かが呼んでおります。聞こえます 守護神殿 ⁹⁸ の裏から騒々しい声が。
La voce d'Ippolito	Eurito! Eurito!		イッポーリトの声	エウリート！ エウリート！
L'Auriga	Ippolito mi chiama!		御者	イッポーリトさまが私をお呼びだ！
Le Fanti	- Uomo d'Argo, uomo d'Argo, l'Amazònio cerca di te!		侍女たち	——アルゴの男、アルゴの男よ、アマツヅォネ族の御子が そなたをお探しだ！

⁹⁸ 女性名詞 Sòspite は、おそらくラテン語の女性名詞 sospita に由来し、「救済する女性」または「守護する女神」を意味する。

- È Ippolito!

——イッポーリトさま!

- Ecco viene

——そら来るぞ

l'uccisore di lupi!

570

狼どもの始末屋が!

- Viene pel cipressetto!

——糸杉の林を通っておいで!

- Ha dietro sé

——後ろに

Àrpalo coi molossi!

モロッス犬を率いるアルパロを連れていらっしゃる!

- Dorce, Dorce, la cagna irsuta, quella

——ドルチェ、ドルチェだ、毛むくじやらの雌犬、あの

color di ruggine!

錆色の雌犬ったら!

- Entrerà con lui?

——彼と一緒に入ってくるかしら?

- La tremenda!

——恐ろしい雌犬!

- È in guinzaglio.

——綱でつながれている。

- Àrpalo, fèrmati!

575

——アルパロ、止まりなさい!

- Àrpalo, sta lontano!

——アルパロ、離れていなさい!

Con uno scoppio di sibilante collera Fedra le scaccia di subito rompendo il suo cerchio d'angoscia, simile al vortice di polvere che si rovescia e si sparpaglia.

フェードラはだしぬけに苦悩の枷を壊しては体を震わせるほどの怒りを爆発させ、ほこりをぶちまけまき散らす旋風のように乱暴に侍女たちを追い払う。

Fedra Tacete, strigi! Via! Ch'io non vi veda
più, ch'io non v'oda più!

フェードラ 黙れ、ええい! 失せろ! もはや私の目に
つかぬところへ、もはや私の耳に入らぬところへ!

La voce d'Ippolito Eurito! Eurito d'Ilaco!

イッポーリトの声 エウリート! イラコの子エウリート!

Di fra i tronchi dei cipressi il figlio di Antiope irrompe, giubilante, raggiante, nel corto chitone di lino, sol della sàgari amazonia armato, che dietro i lombi gli pende.

糸杉の幹のはざまから、武器といえただアマツヅォネ族の斧を持ち麻の短いキトーネに身を包んだアンティオーペの息子が得意満面に顔を輝かせて押し入ってくる。

L'Auriga	O Tesèide, ecco mi!		御者	おおテーセオさまのご子息 ⁹⁹ よ、 ここにおりますぞ!
Ippolito	Ho preso al laccio il cavallo d'Adrasto e l'ho infrenato. L'ho vinto.	580	イツポーリト	おれは縄で アドラースト王の馬を捕らえ、はみをかけてやった。 やつに勝ったぞ。
L'Auriga	Invitto sei, figlio del domatore di Centauri!		御者	負け知らずですな、 チェンターウロ ¹⁰⁰ どもの征服者 ¹⁰¹ のご子息よ!
Ippolito	Tra la Palude e il Mare, all'Oleastro d'Eracle preso io l'ho.		イツポーリト	沼地と海のはざまにて、エーラクレ ¹⁰² の 持ち帰ったオーリーブの木のあたりで捕らえた。
Fedra	Chi t'ha ferito? Una mano ti sànguina.	585	フェードラ	誰がそなたを傷つけた? 一方の手から血が流れている。
Ippolito	Come pallida sei! Non sbigottire. Per immorsarlo, messo gli ho entro la mascella, su la barra, il mio pollice a forza; e ho fatto sangue.	590	イツポーリト	なんというお顔色! 驚くにはあたらない。 くつわをつけるために 馬銜に親指を当てて顎のなかに 押し込んだのだ、それで出血した。
Fedra	Ti laverò.		フェードラ	清めてやろう。

⁹⁹ テーセイデース *θησείδης* ヒツポリュトスのこと。

¹⁰⁰ ケンタウロス *Κένταυρος* 古代ギリシャ神話に登場する半人半馬の種族。

¹⁰¹ テーセウスが親友ペイリトオスの婚儀で酔って暴れたケンタウロスたちを打ち倒した逸話について言及しており、その息子にも四足の生き物はみな勝てないのだという賛美を暗示している。

¹⁰² ヘーラクレース *Ηρακλής* ゼウスとアルクメーネーの子。半神半人の英雄。彼がオリヴを常春の地から人の世に持ち帰ったとされる。

Ippolito	Non gronda. Sentito ho una potenza di tempesta pulsare entro quel petto ampio e profondo come il petto d'un dio.		イツポーリト	もう止まっている。 嵐のような力が 一柱の神の胸ほどに広く深いあの胸のなかで 脈打っているようだった。
L'Auriga	O Ippolito, non giova lottar con lui. Blandiscilo!	595	御者	おおイツポーリトさま、かの馬と 闘っても無益です。なだめるのです!
Ippolito	Perché mi resiste, se docile Adrasto l'ebbe?		イツポーリト	なぜ おれに抗うのだろう、アドラースト王が あれを飼いならしていたのに?
L'Auriga	Forse alcuna grazia egli ha nel Mare.		御者	ひよっとするといくらか 海にて授かったところがあるのかもしれません。
Ippolito	Non ti disse Adrasto il segno dell'origine?		イツポーリト	アドラースト王は その生まれに関わるしるしをおまえに言ったか?
L'Auriga	Non disse.	600	御者	おっしゃっていませんでした。
Fedra	Odimi, odimi, Ippolito. Guàrdati dal cavallo bieco! Ho fatto un sogno, ho fatto un sogno di terrore. Ringhiava all'ombra della vela nera. E una voce gridò in un'afa d'incendio, sopra il Mare: “Tu non lo placherai con l'orzo, né	605	フェードラ	聞け、聞け、イツポーリトよ。 意地の悪い馬からそなたの身を守れ! 私は見たのだ 夢を、私は恐ろしい夢を見たのだ。 かの馬が黒き帆の影に向かっていないでいた。 そして声が 燃えあがる熱気のなかで、海のうえに響きわたって言うのだ、 「大麦であろうとスペルト小麦であろうとあれを

con la spelta.” Rimandolo al Re d’Argo.

なだめられはしまい」と。 かの馬をアルゴの王へ返せ。

Ippolito E che mai dici, madre?
Mi parli come a timido fanciullo. 610
E m’ammonisci ch’io mi copra d’onta
al cospetto dell’Ellade
or che i Corintii son per celebrare
i giochi! Io voglio vincere il corsiere,
e pel corsiere vincere negl’Istmii, 615
non con la spelta né con l’orzo ma
con l’animo. O Eurito,
che già guidasti il carro
del combattente, un eroe novo è pronto!
È sazio omai di saettare i cervi 620
Ippolito Tesèide.

イツポーリト 何をおっしゃる、母上よ。
まるで臆病な子どもに言い聞かせるようにおれにものをおっしゃる。
そして次にはエツラデ全土を前にして
恥をかくことになるぞとおれにお説教なさる、
コリント¹⁰³の民が競技会¹⁰⁴を開こうとするとところだと
いうのに! おれは駿馬に勝ち
そしてその駿馬にまたがってイストミ¹⁰⁵の地で勝ちたいのだ、
スペルタ小麦でもなく、大麦でもなくただ
こころを用いて! おおエウリートよ、
武人の戦車を
操縦していたおまえよ、新しい英雄はいつでも出ていけるぞ!
鹿どもを射るにはもう飽き飽きしているのだ
テーセオの子イツポーリトは。

Fedra Che vuoi?
Che vuoi?

フェードラ 何を欲する?
何を欲するのです?

Ippolito La guerra. Vincere
uomini vuole Ippolito
nato dell’Argonauta e dell’Amàzone!

イツポーリト 戦争を。並みいる男どもに
勝つことを欲するのだ
かのアルゴ号の船員¹⁰⁶とアマツヅォネから生まれたイツポーリトは!

¹⁰³ コリントス *Κόρινθος* ギリシャ本土とペロポネソス半島をつなぐ地峡近くに位置する都市国家。

¹⁰⁴ コリントスで開かれたていたイストミア大祭。古代ギリシャ四大競技会のひとつ。

¹⁰⁵ イストミオス *Ισθμός (της Κορίνθου)* コリントスの地峡のこと。

¹⁰⁶ アルゴナウテース *Αργοναύτης* 複数形アルゴナウタイ *Αργοναύται* アルゴー船遠征譚においてイアーソーンの呼びかけに応じて集まった船員のこと。ここではそのひとりテーセウスを指す。

Fedra	Figlio dell'Argonauta, vuoi tu mille navi?	625	フェードラ	アルゴ号の船員の息子よ、欲しいか、幾千もの船が?
Ippolito	Ben voglio.		イツポーリト	実に欲しい。
Fedra	Mille navi curve, di rossa prora, fornite di tolda, piene di rematori e di guerrieri?		フェードラ	幾千艘の弓なりの船だ、 赤い船首と、甲板がついていて 漕ぎ手と戦士たちをいっぱいに乗せているぞ。
Ippolito	Dove sono?		イツポーリト	どこにある?
Fedra	Vuoi tu regnare un regno d'isole? Dominare tutti i mari? essere il Talassòcrate scettrato dell'aste di tre punte?	630	フェードラ	島の王国を 治めたいか? あらゆる海という海を支配したいか? 権杖として三叉の槍を 持つことを許された海の覇者 ¹⁰⁷ になりたいか?
Ippolito	Tu deliri, inferma.		イツポーリト	うわごとをおっしゃる、 ご病気か。
Fedra	Non deliro. Offro.		フェードラ	うわごとではない。 そなたに託そう。
Ippolito	I tuoi sogni?		イツポーリト	あなたの夢を?
Fedra	I miei fati.		フェードラ	わが宿命を。

¹⁰⁷ タラッソクラテース *θαλασσοκράτης* 「海の覇者」を意味する称号。クレーテー王ミーノースが名乗った。

Ippolito	Ma quando?		イツポーリト	しかしいつ?
Fedra	Quando sarà converso il vento Euro nel Tracio!	635	フェードラ	風向きが変わるころだ 東風エウロ ¹⁰⁸ から北風トラーチョ ¹⁰⁹ へ!
Ippolito	Questo è l'oracolo?		イツポーリト	これは神託か?
Fedra	È forse l'oracolo, Ippolito.		フェードラ	神託かもしれぬな、 イツポーリトよ。
Ippolito	Mi giova forse il Tracio per navigare verso la Malèa, e l'Euro per doppiarla.		イツポーリト	ひよつとすると北風が おれに利してマレーア岬 ¹¹⁰ へ航海させてくれて、 エウロが岬を回るのを助けてくれるのかな。
Fedra	Non ti giova.	640	フェードラ	エウロはそなたの役に立たない。
Ippolito	Non sai tu che mio padre alfne mi conduce ad un'impresa non di fiere ma d'uomini?		イツポーリト	ご存じか、わが父が とうとうおれを連れていってくださるのだ けものではなく人間相手の狩りに。
Fedra	Ei va da Tindaro di Sparta.		フェードラ	あのひとは スパルタのティンダロ王 ¹¹¹ のもとへ行くのだ。

¹⁰⁸ エウロス *Eúρος* 東風の神。

¹⁰⁹ トラキオス *θράκιος* 北風の神ボレアースのこと。この神の生まれたトラキアはトロイゼーンから見て北東に位置する。

¹¹⁰ マレーアス(岬) (*Ακρωτήριο*) *Μαλέας* ペロポネソス半島の東南端にある岬。トロイゼーンから見て南方に位置する。

¹¹¹ テュンダレオース *Τυνδάρεως* レーダーを妻とした。子に、双子の兄弟カストールとポリュデウケース、アガ멤ノーンの妻となるクリュタイムネストラー、トロイア戦争の原因となるヘレネーなどがある。

Ippolito	Al rapimento.		イッポリート	強奪にね。
Fedra	A rapire il delùbro d'Ares impastoiato?	645	フェードラ	力づくで奪うのか、 足枷をはめられたアレス ¹¹² の神殿を？
Ippolito	La Tebana tu mi togliești contra il rito, Cressa. La guardi su la fossa dei sacrificii, al lume delle tede, coronata di grumi e di papaveri, ah come bella! E le segrete cose dei fati eran ne' grandi occhi non chiusi. E lamentai la vittima. E il mio padre mi disse: "Io ti darò la figlia di un iddio! Non ti dolere." La figlia d'un iddio, non ancor nubile, vive in Amicle su l'Eurota pieno di cigni, bella immortalmente.	650 655	イッポリート	おれのテーベの女を あなたは儀式に際して奪ってしまった、クレタの女よ。 おれは彼女を見た、いけにえを捧げる 穴のうちに、祭儀の松明の灯のもとで、 彼女は血糊とケシの冠をいただいていた、 ああ何と美しかったことか！ 宿命をめぐる何かが 大きく開いたままの瞳の中に秘められていた。 おれは犠牲となった彼女を思って泣いたのだ。 すると父がおれにおっしゃった。「そなたに 神の娘をやろう！ 悲しむでない。」 その神の娘というのは、まだ年ごろではないが アミークレ ¹¹³ の地、白鳥 ¹¹⁴ のあふれるエウロータ川 ¹¹⁵ の 岸边にて暮らしており、不滅の美貌を誇るという。

¹¹² アレース"Αρης 軍神。

¹¹³ アミュークレス Αμύκλαι スパルタ南部に位置する。

¹¹⁴ ゼウスの暗示。レーダーと交わってヘレネーとポリュデウケースを身ごもらせたとき、ゼウスは白鳥の姿に変身していた。

¹¹⁵ エウロータス川 Ευρώτας ペロポネソス半島最大級の河川。

Fedra	Chi		フェードラ	誰が
	la vide? Chi la vide?			その女を見た? その女を見た者はいるのか?
Ippolito	Corre fama		イツポーリト	評判は
	già per tutta la terra	660		すでにペーロペの地にあまねく
	di Pelope. Ma Chèlubo,			伝わっている。だがケルボ ¹¹⁶ が、
	quell'ospite fenicio			あのフェニキアの客人たる
	Capo di nave, ci narrò d'averla			船長が見たとおれたちに語ってくれたのだ
	veduta in Lacedèmone danzare			ラチェデーモネ ¹¹⁷ の地で彼女が
	intorno l'ara d'Artèmise Ortia,	665		アルテミデ・オルティア ¹¹⁸ 神殿の祭壇のまわりで、
	senza le vesti. Tu l'udivi, Eurito.			一糸まとわず踊るのを。おまえも聞いていたな、エウリートよ。
	E fu deliberato il rapimento.			それで話しあったところ略奪が決まったのだ。
Fedra	Non andrai, non andrai!		フェードラ	行くでない、行くでない!
	T'è maestro d'insidie e di perfidie			そなたに策謀と裏切りを教える師となるぞ
	il padre.			父親は。
Ippolito	Tu matrigna	670	イツポーリト	あなたはいつもおれに
	mi sei sempre. Tu m'odii,			継母として辛くあたる。おれが憎いのだろう、
	o Cressa.			おおクレタの女よ。

¹¹⁶ 由来不明。ダンヌンツィオの所有していた馬の名に一致するが、戯曲完成よりも馬の命名のほうが後の出来事である。例えば、1909年5月11日ナタリー・ド・ゴルベフ宛書簡のなかではこう記されている。「今朝、素晴らしい馬を買った。あなたもきっと大変気に入るだろう。イツポーリトという大きな栗毛の馬だ。もう一頭は、大きな鹿毛の馬でケルボという。」なお詩人はこの馬を1年後のフランス逃避行にも連れている。次を参照。 Gabriele d'Annunzio, "Cento e cento e cento e cento pagine del libro segreto di Gabriele d'Annunzio tentato di morire [1935].", in Id., *Prose di ricerca*, vol. I (Milano: Mondadori, 2005), vol. I, p.1762: 「私は服を脱ぐ。荒野のなかを馬に乗ってふたたび進みはじめる。ケルボの汗が鹿毛色の毛並と私の黄ばんだブーツのあいだを伝う。腿の筋肉がまたも痛み出す。」

¹¹⁷ ラケダイモーン *Λακεδαίμων* スパルタの別名。

¹¹⁸ アルテミダ・オルティア *Ορθία Αρτέμιδα* スパルタの古い女神。パウサニアス『ギリシャ記』第3巻16章9-11節を参照。

Entra la nutrice conducendo il Capo di nave che è seguito da uno schiavo,
carico d'una balla ben legata.

乳母がかの船長を連れて登場する。その後ろに奴隷がひとり、しっかり縛られた荷を負って続く。

Fedra Gorgo, mi conduci l'uomo
straniero?

フェードラ ゴルゴや、私のもとへ異国の
男を連れてきたのか?

Si avanza il mercante fenicio, asciutto e adusto, audace e scaltro; che porta
la berretta dalle gronde pendule e la bruna esomide dei marinai.

フェニキアの商人は進み出る。やせて、日焼けして、豪胆であり、つけこむ隙のない風貌である。ひさしの垂れた帽子¹¹⁹をかぶり、海の男らしく暗褐色のエソーミデ¹²⁰をまとっている。

Fatti innanzi,
ospite! Rechi meraviglie? Rechi
il farmaco d'Egitto,
il nepente che dà l'oblio dei mali?

675

前へ出よ、
客人よ! 驚くべきものを持ってきているか? 運んできているか
エジツトの薬を、
辛苦を忘れさせてくれるネペンテ¹²¹を?

Il Pirata fenicio L'oro e l'ambra, l'avorio e il vetro, il bisso
e la porpora, il legno
balsamico e la pietra
medica, e alcuna cosa non veduta
mai nell'Ellade, reco,
Ànassa!

680

フェニキアの海賊 黄金に琥珀、象牙にガラス、亜麻に
緋の衣、芳しい
香木、薬効ある
石、また他にもいくらか
エツラデの地ではお目にかかったことのないものを持ってまいりました、
妃陛下¹²²!

¹¹⁹ おそらく羊毛のフェルト帽ピーロス *πίλος* を指すと思われる。

¹²⁰ エクソミス *ἐξωμῖς* 服装の一種。長方形の布を身にまとい、左肩のみ留め、右肩を露出する。

¹²¹ ネーペンテス *νηπενθές* 憂いを忘れるための薬。ホメロス『オデュッセイア』第4巻 219-222 行を見よ。

¹²² アナッサ *Ἀνασσα* 女性支配者に用いられる敬称。

Fedra	Fa che lo schiavo deponga il peso, e poi vedrò. Ma dimmi: vieni di Laconia?		フェードラ	奴隷に重荷を 下ろさせよ、後で見よう。ともあれ申せ、そなたは ラコーニア ¹²³ から参ったのか？
Il Pirata fenicio	Da Psàmato, dal Porto delle Quaglie, di sotto il Tènaro.	685	フェニキアの海賊	プサーマト ¹²⁴ から、 ポルト・デツレ・クアーリエ ¹²⁵ からです、テーナロ岬 ¹²⁶ の つけ根のところでございます。
Fedra	Anche a me ora, anche a me narra la meraviglia. È vero che vedesti in Lacedèmone la figlia d'un iddio?		フェードラ	われに、さあわれに 奇跡を語れ。 まことか、ラチェデーモネにて 神の娘を見たというのは？
Il Pirata fenicio	Ben la vidi, con questi occhi mortali.	690	フェニキアの海賊	この人間の目でしかと見ました。
Fedra	Bella?		フェードラ	美しいのか？
Il Pirata fenicio	Che ti dirò? Come la luce onde vivranno e moriranno gli uomini.		フェニキアの海賊	何と申しましょう？ まるで光のようでした そのために大勢の男たちが生きては死にましよう。
Fedra	È giovinetta?		フェードラ	少女か？

¹²³ ラコーニア *Λακωνία* スパルタの主要な領土のひとつ。

¹²⁴ プサマトス *Ψάμαθος* テナロ岬から、ラコーニア湾側の岸を直線距離で約 4km 北上した位置にある天然の港湾。今ではこの名称はほぼまったく用いられていない。

¹²⁵ ポルト・カイヨ *Πόρτο Κάιιο* プサマトスのこと。16 世紀以降イタリア語でダンヌンツィオの表記通り *Porto delle Quaglie* と呼ばれており、これがギリシヤ語でも用いられるようになった。

¹²⁶ タイナロン岬 (*Ακρωτήριο Ταίναρο*) ペロポネソス半島最南端の岬。

Il Pirata fenicio	Appena pubescente.	フェニキアの海賊	年ごろになったばかりです。
Fedra	E la vedesti ignuda?	フェードラ	裸身の彼女を見たのだな？
Il Pirata fenicio	Intorno all'ara dell'Ortia sanguinaria. Ed era tutta rosa degli sgozzati efebi l'ara in quel giorno; e vi danzava in tondo la giovinetta ignuda al suono di due flauti, più candida che il ciglio dell'Eurota, pari alla luce, dalla fronte al piede: solo era tinto il pollice.	フェニキアの海賊	血を好む オルティアの祭壇のあたりでした。 のどをかき切られた少年の血で すっかり薔薇色に染まっていた、 あの日の祭壇は。そのまわりで踊っていたのです 裸身の少女が 二本の笛の音にのって、 エウロータ川の白鳥よりも白く、 額から足先まで、光と見まがうばかり。 親指だけは汚れていましたが。
Fedra	E che si chiama?	フェードラ	それで何という名だ？
Il Pirata fenicio	Èlena.	フェニキアの海賊	エーレナ ¹²⁷ と申します。
E Fedra e Ippolito per alcuni attimi restano nel silenzio assorti. Curvo dinanzi alla Regina d'isole distesa su le pardàlidi stellate, il Fenicio scopre il suo diverso tesoro. Sobbalza a un tratto l'efebo; e si volge dalla parte del cipresseto, e tende l'orecchio.		それから数瞬間フェードラとイツポーリトは物思いにふけて沈黙したまま でいる。フェニキア人は斑のある豹皮のうえに寝そべっているクレタの女王 の前に身を屈め、覆いを解いてさまざまな財宝をあらわにする。突然イツポ ーリトははっとして、糸杉の林のほうを向き、耳をすます。	
Ippolito	Eurito? Ascolta, ascolta. È il ringhio	イツポーリト	エウリート？ 聴け、聴け。いななきだ

¹²⁷ ヘレネー *Ἑλένη* スパルタ王妃レーダーの娘。実父はゼウス。成長すると絶世の美貌を誇るようになり、集まった求婚者たちのなかからメネラーオスの妻となるが、トロイアの王子パリスにさらわれ、トロイア戦争の発端となった。なおダンヌンツィオは、ここで、彼女が幼いころテーセウスにさらわれたが彼女の兄カストールとポリュデウケースによって取り返されたエピソードを参照している。

d’Arione.		アリオーネの。	
L’Auriga	Mi sembra udire.	御者	聞いたような気がします。
Ippolito	Chèlubo, tendi l’orecchio.	705 イツポーリト	ケルボ、 耳をすましてみる。
Il Pirata fenicio	S’ode un cavallo nitrire, dalla parte dell’àgora.	フェニキアの海賊	聞こえます 馬のいななきが、広場の ほうからです。
Ippolito	Arione.	イツポーリト	アリオーネだ。
Il Pirata fenicio	Quel corsiero del color di ciano?	フェニキアの海賊	あの駿馬ですか 黒鹿毛の？
Una improvvisa ansietà incalza il domatore di cavalli. Oblia egli l’avventura d’oltremare e la potenza del Talassòcrate cnossio, solo impaziente della sua impresa equestre.		馬どもの支配者はやにわに気がかりな思いに襲われる。海の向こうの冒険 もクノツソの海の覇者の権力も忘れて、ただ自らの馬を手なづけたくてたま らなくなる。	
Ippolito	Auriga, va. E di che sia condotto nell’Ippòdromo di Limna e che gli sia cinghiato il velo del leone. E con te	710 イツポーリト	御者よ、行け。 命令だ。アリオーネをリムナの イツボードロモ ¹²⁸ へ連れていけ、獅子の皮を 革帯で巻きつけよ。また

¹²⁸ ヒッポドロモス *ἵππόδρομος* 「馬の走路」を意味する。橢円形競技場であり、現代における競馬場の起源。最古の形は折り返しの標柱をまわって帰ってくるというものである。ホメロス『イーリアス』第 23 卷 330 行を参照。

	prendi Àrpalo che chiami il sacrificatore. Poi ch'ebbi abbeverato all'Ippocrène il cavallo e rimessolo ai famigli, cedetti sotto i platani a un sopore breve, e mi visitarono due sogni. E nel primo m'apparve la mia grande Artèmide, e mi disse: “Tu ti riposi, Ippolito. Consacra al domatore Ennosigèò l'aspro morso, e sacrificagli un toro bianco, prima che tu balzi sul vello del leone!”	715 720 725		アルパロを連れていけ 生贄を捧げる者として。 というのも、おれがイッポクレネ ¹²⁹ の泉にて 馬に水を飲ませ、その親兄弟のなかに戻し、 プラタノスの木のもとに腰かけて少しばかり まどろんだところ、ふたつの夢がおれのもとを訪れた。 第一の夢では、わが偉大なる アルテミデ ¹³⁰ があらわれ、おれにこう言ったのだ。 「休みなさい、イッポリートよ。 馬の支配者エンノシジェオ ¹³¹ に きつい馬銜を奉納せよ、また 白き雄牛を供えよ、 おまえが獅子の皮にまたがって駆ける前に！」
Fedra	Tu non lo placherai!		フェードラ	あの馬をなだめられはしまい！
Ippolito	Infesta, infausta! Non io già sottraggo il toro bianco al dio, Pasifaèia!		イッポリート	不吉な、不吉な！ おれは決して 神から白き雄牛を奪わんぞ、パジーファエの娘よ ¹³² ！
Fedra	Perché mi mordi? Non ti dissi io già l'udita voce e il sogno di terrore? Non ti prega? Odimi.	730	フェードラ	どうして私にかみつく？ 私は言わなかったか 恐ろしい夢を見て声を聞いたと？ そなたに懇願したではないか？ 言うことを聞きなさい。

¹²⁹ ヒッポクレネー *ἵπποκρήνη* 「馬の泉」を意味する。ボイオーティアのテスピアイ地方、ヘリコーン山に位置する。天馬ペガサスが狙いを定めて岩を蹴ったところから湧きだした泉だといわれる。

¹³⁰ アルテミス *Ἄρτεμις* 狩猟と純潔の女神。

¹³¹ エンノシガイオス *Ἐννοσίγαιος* ポセイドーンの異名のひとつ。「大地を揺るがす者」を意味する。

¹³² クレタの王妃パーシパエーが呪いにかかってミーノータウロスを産むことになったのは、パイドラの父ミーノース王が海神ポセイドーンから預かった白牛を返さなかったから。

Ippolito	Udir mi giova la parola divina.	イッポーリト	聞く価値は 神の言葉でしたらありましようなあ。
Fedra	Spesso è fallace. Una volontà indomabile sta tra ciglio e ciglio al Tesèide. La sua statura sembra inalzata dalla fierezza. Si volge al conduttore del carro di Capaneo, che lo guarda.	フェードラ	神の言葉はしばしば偽りだ。 御しがたい意欲がテーセオの息子のまぶたのあいだに宿っている。彼の背丈は誇りゆえに伸びているかのように見える。彼を見ているカパネーオの戦車を御していた者に向き直る。
Ippolito	Auriga, in Limna, sul confine dell'Ippòdromo, è un'ara senza nome, vetustissima. Niuno più vi sacrifica. Ma forse oggi vi troverai chiome virginee recise, quali nel secondo sogno erano. Quivi attendimi. Verrò. Quasi offuscato dalla nube dei sogni presaghi e oppresso dalla stanchezza, egli si lascia cadere su lo sgabello e alla colonna lignea fascinata di metalliche lamine poggia il capo riverso e socchiude le palpebre come per assopirsi. Fedra si china verso il Fenicio e sommessa e rapida gli parla, vigilando con l'occhio inquieto il sopore d'Ippolito.	735	イッポーリト 御者よ、 リムナには、イッポードロモの果てに 名前のない、きわめて古い供物台がある。 いまではもう誰も生贄を捧げてはいない。だがきっと 今日そこには断ち切られた処女髪が 見つかるはずだ、ちょうど第二の夢の なかでのように。そこでおれを待て。あとで行く。 まるで予知夢のもやに目を眩まされ、疲労に押しつぶされたかのように、彼は腰かけのうえにひとりでにへたり込んで、金属の薄板を巻かれている木の円柱に仰向けの頭をもたせかけ、まるでまどろみかけるかのようにまぶたを半ば閉じる。フェードラはフェニキア人に向かって身を屈め、まどろむイッポーリトを落ち着かない目つきで睨みつつ、声を殺して早口で話しかける。
Fedra	Uomo, e il nepente? E l'acònito? Il Fenicio le dà due vasselli misteriosi.	フェードラ	これ、ネベンテは？ それにトリカブトは？ フェニキア人はフェードラに不思議な小壺をふたつ渡す。

Con infinita levità ella osa levare verso lui le nude braccia e prendere tra le sue mani il bellissimo capo e verso l'alito spirare il suo alito.

限りなく軽やかに、彼女は思い切って彼のほうへむきだしの腕を伸ばすと、きわめて美しい頭に両手で触れ、彼の呼気に向かって自らの息を吐く。

Ippolito Non so, non so qual grande ombra mi tiene, madre.

イツポーリト わからない、わからない、なんと大きな影がおれを包み込んでいるのだろう、お母さま。

Velata come da un'interna lontananza è la voce del sognante, soave come un canto somnesso.

夢見る者の声は、まるで内なる遠方からやってくるかのようにくぐもり、声をひそめた歌のように甘やかである。

Fedra Ti preme le pàlpebre, come il sonno?

フェードラ その影がおまえのまぶたを重くしているの、睡魔のように？

Ippolito Tra la vita e il sonno è un breve istmo che forse non conosci, o uomo straniero, ove i papaveri son rosei come le rose. Quivi ora ho veduto Èlena.

755

イツポーリト 生と眠りのあいだには細い地峡がある、きっとあなたも、異国の男も知らない場所だが、そこではケシの花が薔薇のように赤い。そこでたつたいまおれは見たエーレナを。

Fedra Donde sale questa voce alle tue labbra che abbandona il tuo crudele sangue effuso verso il vano amore?

760

フェードラ この声はあなたの口へとどこから上ってくるの？その唇からはもう、虚しい愛に向かって荒れ狂っていたあなたの冷たい血の気は引いている。

Ippolito O nauta, verso l'Oceano dove il mare è senza rive navigheremo noi per rivederla. E v'è non so che fauce sotto il Tènaro,

765

イツポーリト おお水夫よ、大洋へ岸辺なく広がる海へ向けて船を出し、あのひとにふたたび会いに行こう。テナロ岬のふもとのどこから入ってゆけるのかおれは知らないが

ah, tu lo sai, e v'è sul limitare
una che mi fa cenno ma non è
Èlena.

ああ、わかるだろう、そしてあの岸辺に
おれに手を振る女がいる、けれども
エーレナではない。

Fedra O voce! O labbra
per la dolcezza, o ciglia
per il pianto! [Non sono le mie mani 770
vive queste che reggono il tuo capo,
ma son le mani senza vene e senza
tendini che nel cavo delle palme
hanno alfine quel sorso
dell'acqua di sotterra, il sorso attinto 775
al nero fiume che implorai pel mio
amore.]

フェードラ おお声よ! おお至福のための
くちびるよ、おお涙のための
まつ毛よ! [この両手は
生きてあなたの頭を抱いているのではなく、
むしろ血管も腱も失くして
手のひらのくぼみのなかに
とうとうあの
冥府の流れを一口すくいとっている、
黒い河で汲んだあの水を、かつて私は切に乞い求めた
私の愛のために。]

Ippolito Poni nella nave il bisso
la porpora e la bianca lana e tutte
le belle vesti, e il miele e il nardo e tutto
quel che odora, e i canestri, 780
i vasi i serti e tutto quel che splende,
o Chèlubo, [che raddolcir voglio
coi doni quella che rapito avrò
giovinetta divina con la mia
forza, l'innuba dea che a Sparta ha nome
Èlena.] 785

IPPOLITO 船に積み込め、亜麻布、
緋の衣、白い毛織物、あらゆる
美しい着物を、それに蜂蜜、ラヴェンダーに
芳しいものは何でも、それから手かご、
壺、冠や輝くものは何でも、
おおケルボよ、おれは和らげたいのだ
力づくで奪ってしまったあとで
贈り物をしてあの神の娘の
こころを、未婚の女神を、スパルタでの彼女の名は
エーレナだ。]

Fedra O nudo volto, che languisci フェードラ おお私から隠れもしない顔よ、

riverso come il volto del fanciullo
 Tànato quand'ei dorme nelle braccia
 della Notte col lieve suo germano,
 e tanto sei soave 790
 tu che m'eri tremendo
 e mai fosti così prossimo al mio respiro
 così come mi pesi
 coi grappoli profondi ov'è nascosta
 l'aspide ond'io mi muoio, 795
 baciarti non m'ardisco perché temo
 che la mia bocca ti devasti e non
 mi sazii. Ma non te bacio, non te
 per l'onta nata dall'istessa madre
 onde l'amore nacque, 800
 non te bacio, non te. Bevo lo Stige,
 bevo il sorso che solo è dato al mio
 amore.

Ancor più s'inclina verso l'efebo Fedra vertiginosa. E, tenendogli tuttavia
 tra le sue palme il capo riverso, profundate le dite nei riccioli di viola distese
 dalla nuca alle tempie, con tutta la sete che le fa dura la bocca, pesantemente
 in bocca lo bacia come chi preme e franga e mescoli nella morte il frutto di
 due vite. Sussulta Ippolito scotendo da sé il torpore del fatidico sogno;
 sembra per alcuni attimi dibattersi ancor nella caligine soffocato. Apre gli
 occhi, squassa il capo, afferra pei due polsi la donna, la digiunge, da sé la

仰向けになって、夜の女神の
 腕のなかで自らの兄弟たちと眠る少年
 ターナトの顔のようにやつれて、
 あなたはなんと甘やかなのだろう
 私には恐ろしい表情だったあなた
 決してこんなふう 私の吐息に近づかず
 こんなふう 私にもたれかかったことのなかったあなた
 私の息の根を止める毒蛇の隠れた
 深い花房をそなえたあなた、
 あえてあなたに口づけするようなことはしません、なぜって怖いから
 私の唇があなたを壊してしまうのではないかと、それでもなお私は
 満たされないのではないかと。ともかくあなたには口づけしません、あなただけには
 愛を生んだのと同じ母から
 生まれる恥辱にかけて、
 あなたに口づけするのではない、あなたではない。ステイージェの水¹³⁴を飲むの、
 私が口をつけるのは、ただ私の愛だけに与えられた
 水なのよ。

フェードラはめまいに襲われながら若者に向かってなおいっそう身を傾げ
 る。仰向いた彼の頭を両の手のひらで包み持ったまま、うなじから額へ広が
 るスマイレ色の巻き毛のなかへ指を深く沈めて、唇をかさつかせているその渴
 きすべてによって、口のなかへ深く深く口づける。あたかも、ふたりの生命の
 実を、死のなかへ押し込み、押しつぶし、押し混ぜるかのようである。イッポ
 ーリトは命運を決する夢のしびれを自ら振り払おうとするかのように体をぶ
 るっと震わせ、息詰まる霧のなかでもがいているかのようであるがそれも束

¹³⁴ 冥府最大の川ステュクスの水を飲むということは、忘我の恍惚といわゆる「愛死 liebestod」の両方を暗示しているように思われる。

strappa, la respinge col gesto del lottatore sopraffatto. Si leva in piedi, la guarda; poi guarda intorno, attonito di non veder più alcuno: né Gorgo né le fanti né l'uomo straniero. Una luce d'oro s'aduna nel silenzio, incupita dal bronzo dei cipressi che la rallenta. Ma dentro v'è il fremito e l'anelito della Cretese. Respinta, ella è presso il mirto sacro onde pendono gli zòani dedàlei di Afrodite. E le brillano ai piedi, sul pavimento sparse, le ricchezze del predatore marittimo, il bisso, la porpora, l'avorio, il vetro, il metallo con le immagini delle terre sconosciute, dei golfi e delle foci.

の間である。瞳を開き、頭を激しく振って、両手で女をつかみ、引き剥がし、自分から遠ざけて、打ち負かされた闘士の身ぶりで彼女をはねつける。立ちあがって彼女を見る。それから周りを見て、ゴルゴも、侍女たちも、異国の男も、誰ひとり見当たらないので呆然とする。静寂のなか、黄金の光がひとすじ青銅色の糸杉によって弱められては翳りながら、一点を照らしている。そこにはクレタの女の身震いとあえぎがある。はねつけられて、彼女は、デーダロの手によるアフロディーテの木彫神像をつりさげた聖なるミルテのそばにいます。足元、乱れた敷石のうえでは、亜麻布、緋の衣、象牙、玻璃、金属といった海の篡奪者の富が、未だ見たことのない土地、湾、河口のイメージを帯びて輝いている。

Ippolito Dove fui? Quale mai sogno
premeva la mia vita? Sola sei
con me solo! E da quando?

イツポーリト おれはどこにいた? どんな夢想が
おれの命を押しつぶしていたのだ? おまえひとりだけが
おれひとりとともにいたのか! いつからだ?

805

Ancor trasognato, egli si tocca le palpebre, poi le labbra impresse dal bacio terribile. Gli si riaccosta col suo passo di pantera, su i piedi senza sandali, la Cretese piegandosi come per strisciargli contro le ginocchia. Con un misto d'audacia e di spavento, gli parla in atto di circonvenirlo, calda e roca.

いまだ夢うつつのまま、彼は自らのまぶたに、次に恐るべき口づけを刻み込まれた自らの唇に触れる。クレタの女はサンダル脱げた足で、豹の歩みで、彼の両ひざに向かって這うかのように身を屈めながら彼に近づく。豪胆と恐怖の入り混じった、熱のこもったしわがれた声で、彼を籠絡しようとして彼に語りかける。

Fedra Gelide sono le tue labbra. Dove
fluì tutto il tuo sangue
crudele?

フェードラ 冷たいのね、あなたの唇は。さっきはどこに
流れ失せていたの、あなたの冷酷な
血は?

Ippolito Con che bocca soffocato
m'hai? Di che onta infetto m'hai, o Cressa?

イツポーリト おまえは誰の唇でおれの息を
詰ませたのだ? なんという恥辱によっておれの唇を穢した、おおクレタの女よ?

Non fu bacio di madre il tuo!

おまえのは、母の口づけではなかった!

Fedra	Non io	810	フェードラ	私は
ti son madre. Non mi sei tu figlio,				あなたの母ではありません。あなたは私の子ではない、
no. Mescolato di sangue non sei				ちがうのです。混ざっていないのです、あなたに
con Fedra. Ma il tuo sangue è contra il mio				フェードラの血は。むしろあなたの血は、私の敵に
nemico, vena contra vena. Ah no,		815		抗うものなのです、あの血に逆らう血なのですよ。ああ、
non d'amore materno t'amo! Inferma,				母の愛によってではなく、あなたを愛しています! 病んでいますとも、
sono inferma di te,				あなたのせいで病んでいます、
sono insonne di te,				あなたのせいで眠れないのです、
disperata di te che vivi mentre				あなたのせいで絶望するのです、あなたは生きているけれど
io non vivo né muoio,		820		私は生きてもおらず死んでもおらず、
né ho tregua nel sonno,				眠りのなかで休むこともできず、
né ho tregua nel pianto,				涙にくれつつ休むこともできず
né ho bevanda alcuna che m'abbeveri,				私の渇きをいやす水もなく、
né ho farmaco alcuno che mi plachi,				私を静める薬もなく、
ma tutta me consumo in ogni lacrima,				涙のひとしずくごとに私のすべてをすりへらして、
tutta l'anima spiro in ogni anelito;		825		喘ぎのひと息ごとに魂をすべて吐き出しているのです、
e mi rinnovo come una immortale				自らの懊悩のなかでただ私だけが
nel mio supplizio io sola,				不滅の者として生まれ変わるのです、
io che non sono dea ma consanguinea				私は女神ではないけれども
degli Implacabili, o tu che non m'ami				なだめようもない者たちの血族なのです、おお私を愛さない
tu pari ad un nume, Ippolito!		830		一柱の神にひとしいあなた、イツポーリトよ!
Ippolito	Non t'accostare, lasciami!		イツポーリト	おれに近づくな、放せ!
	Lasica ch'io parta, ch'io non oda più			おれを引きとめるな、おれに二度と
	il tuo grido insensato,			おまえのばかげた叫びを聞かせるな、

che più non mi contami del tuo
alito, o inferma!

おまえの喘ぎでおれを二度と
穢すな、おお病んだ女め!

Fedra [No,
no, non ti lascerò, se non adopri
la mannaia lunata dell'Amàzone,
se non m'abbatti sul tuo passo. Prendi
la sàgari d'Antiope ed abbattimi.
Fasciami il viso con i miei capelli,
se tu lo temi, e chinati una volta
e baciarmi per entro l'intrecciato
fuoco! Ah sii dolce, poi che dolce sei!
Abbattimi e ricòrdati. Il mio sangue
è maturo di te.
Come sacco del frutto, insino al cuore,
insino alle radici della mia
bellezza e del mio male. Sono inferma,
sì; sono insonne, arsa; non posso più
vivere. Ma la terra porterà
ancòra i giorni e gli uomini e le biade
e l'opere e la guerra e il vino e i lutti
innumerevoli, e non porterà
un amore che sia come l'amore
di Fedra.

835 フェードラ [いいえ、
いいえ、放すもんですか、あなたが
アマツヅォネの三日月のように反りかえった斧を使わない限りは、
あなたが私を殺して歩み去るのでなければ。つかみなさい
アンティオーペの戦斧を、そして私を殺しなさい。
840 私の顔を私の髪で覆い隠しなさい、
もしもあなたが私の顔を恐れるのなら、そして一度は身を屈めて
私に口づけなさい、私のなかのもつれた
炎に向かつて! ああきつと甘美でしょう、なぜならあなたが甘美だから!
私を殺し、あなたに刻みこみなさい。私の血は
845 あなたによって熟しているのです。
中身の詰まった果実のように、心臓にいたるまで、
私の美と私の不幸の
根源にいたるまで。私は病んでいますとも、
ええ。私は眠れないのです、渴いているのです。もはや
850 生きることはできません。けれども大地はこれからも
日々を、人間を、麦を
仕事を、争いを、葡萄酒を、喪失を
数限りなくもたらすでしょう、そして
フェードラの愛にひとしい愛を
もたらしてはくれないでしょう。

Ippolito O vivo Orrore,
genitura del crimine, ed or poni

855 イッポリト おお強烈な戦慄、
ふくれあがる罪の母胎よ、おまえはなおも

tu nome da lodare alla tua colpa?]

おまえの罪に贅辞を連ねるのか?]

Il sarcasmo contrae l'infiammata bocca.

激しいあてこすりのせいで紅潮した唇がつぼむ。

Fedra

Intemerato, figlio d'inculpabile
padre, tu che t'accingi alla rapina,
odimi. Non più t'offro 860
l'amor di Fedra; t'offro
la potenza di Fedra.
Il mio padre declina. Due de' miei
germani uccise Tèseo.
T'offro le mille navi, 865
t'offro l'isole belle annoverate
dall'errante Fenicio,
e il mio riso qual fiore
del più florido flutto,
e il mio sangue per minio 870
della prora più alta.

フェードラ
けがれなきあなたよ、罪をとがめられない父親の
息子よ、花嫁を力づくで奪う支度をしていたあなたよ、
お聞きなさい。もはやあなたに捧げはしません
フェードラの愛を。あなたに与えるのは
フェードラの力です。
わが父王は衰えています。わが
姉弟のうちふたりはテーセオに殺されました。
幾千もの船をあなたにあげましょう、
さまよえるフェニキア人から
高く称えられる島々をあなたにあげましょう、
そしてもっとも咲き誇る波濤の
花のような私の微笑みと、
もっとも高くそびえる舳先の
鉛丹に使える私の血を。

Ippolito Mi tenti in vano col tuo volto perfido,
pieno d'errore come il Labirinto,
Pasifaèia.

イッポリト ラビリント¹³⁵のように正しい道を外れてさまよう
おまえの不実な表情でおれを誘惑してもむだだ、
パジーファエの娘よ。

Fedra [Tra pareti cieche
sei, tra mura di bronzo. 875

フェードラ [行き詰まりの道の壁に
あなたは囲まれている、青銅の壁に。

¹³⁵ ラビュリントス *λαβύρινθος* ミノータウロスを幽閉するため、ミノース王の命を受けたダイダロスによって、一度入れば出てくることができない迷宮としてつくられた宮殿。テーセウスはアリアドネーの助言にもとづいて、扉に糸の端をつけて次第に繰り伸ばしながら進み、退治したあとではその糸をたぐることによって無事生還した。

	Né val che tu ti guardi.			もう身を守ってもむだよ。
Ippolito	L'uomo può starsi tacito e sicuro se in pugno ha l'arco, e la fareta piena, e la mannaia appesa dietro i lombi, Pasifaèia!		イツポーリト	男たる者は無言で自信をもっていられるのだ 弓を握っていて、矢でいっぱいの箠と 斧を背中に下げている限りはな、 パジーファエの娘よ!
Fedra	Ma, fanciullo vano, io te lo dico, il tuo fato ho in pugno.	880	フェードラ	でも 聞き分けのない子、言っているでしょう、あなたの 運命は私が握っているのよ。
Ippolito	Non ti temo!		イツポーリト	おまえなど怖れはしない!
Fedra	Le figlie di Pasifæe ben sanno dare il mirto alla morte.		フェードラ	パジーファエの 娘たちは、 死にミルテを捧げるこつを心得ているのよ。
Ippolito	Sanno il dolo di Dedalo.]	885	イツポーリト	彼女らが心得ているのはデーダロの詐術だ。]
Fedra	O spurio dell'Egide, o incauto! Per l'amor della regale Ariadne fu salvo il padre tuo perduto nelle mille vie. Tu lo sai. Ma il rubatore immune ovunque uccise, depredò, distrusse; e con la salvatrice prese me ch'ero nel fiore della puerizia.	890	フェードラ	おおエジェーオのせがれの庶子よ おお軽率なあなた! 王女 アリアドネの愛のおかげで あなたの父は幾千もの道のなかで迷わずに すんだの。知っているでしょう。けれどもあの盗人は どこでも殺し、だまし取り、壊してきたのに罰を与えられず 自分を救ってくれた女と一緒に まだ幼年期の盛りを過ごしていた私を連れ出したのよ。

	E una notte sonarono le grida della sorella sopra il mio terrore e gridava la misera il mio nome dalla rupe deserta. [Ah non groppo di turbini, non di perdimento alcuno era in quel mare? non vortice vorace che sol rendesse bianco ossame al lido?	895 900		そしてある晩、何度も姉の 叫びが響きわたって私をおびえさせた あの哀れな姉は私の名を叫んでいたのよ 右舷の絶壁のような船腹の端から。 [ああ、旋風がもつれ あの海のなかへ誰かがいなくなったのではなかったかしら？ 海岸に白骨しか返してはくれない 大喰らいの渦が巻いていたのでは？
Ippolito	Sei la donna di Tèseo, né la vergogna ti rattien la bocca.		イツポーリト	おまえはテーセオの女だ、 おまえの口は羞恥心に留められはしないのか。
Fedra	Non la donna di Tèseo, la cosa fui del rubatore, messa nella stiva coi tripodi e con gli otri; poi nascosta in Decèlia per sett'anni, e cresciuta allo stupro là sul Parnète opaco.	905	フェードラ	私はテーセオの女なんかじゃない、 盗人の戦利品よ、 捧げものの鼎や、酒の革袋と一緒に船倉のなかに置かれたの。 それから七年にわたってデチューリア ¹³⁶ に隠され、 おぼろに見えるパルネーテ山 ¹³⁷ のうえのあそこで 成人の儀と称して乱暴されたのよ。
Ippolito	A che ti lagni tu, se l'Eroe trattò come l'armento le nate da colei che al suo coperto connubio s'ebbe pronubo il boaro?	910	イツポーリト	何を 嘆くことがあろう、英雄が、 秘密の交接にて牛飼いを付添人とした女 ¹³⁸ から 生まれた女どもを家畜として扱ったのだとして？

¹³⁶ デケレイア Δεκέλεια アテーナイ北北東約 20km に位置する。エウボイア島とアテーナイを結ぶ交易路上にあった。

¹³⁷ パルネース山 Πάρνης アテーナイの北に位置する。

¹³⁸ パーシバエーを指す。

Fedra	O vituperatore spietato, tu che fosti la prima soma alla tua madre e l'ultima, dimmi; come trattò l'irrepressibile Eroe la femmina Amàzone dalla mammella incesa? Lo sai? Non rispondi? Com'ebbe il leoncello, ei volle che una sola volta la leonessa generasse, gittando la matrice lacerata dal primo genito; e nel Pariàdre, ov'entro le caverne stride il ferro dei Càlibi, la spinse alla fornace ruggente.	915 920 925	フェードラ おおよくも容赦なく 侮辱したのね、 あなたの母親にとって最初で最後の重荷だったあなた、 言いなさいよ、罪をとがめられない英雄が 乳房を切り取ったアマツヅォネの女を どんなふうに扱ったか？ 知っているでしょう？ 答えないの？ 英雄は雄獅子の子を得たから、 雌獅子にただ一度だけしか 子を産ませたくなくて、 第一子の出産で裂けた母胎を 放り出したの。そしてパリアードレ ¹³⁹ の山間にて、 その無数の洞窟の中でカリュベス人 ¹⁴⁰ の鉄が 鋭い音を立てる地で、彼女を押し入れたのよ、ごうごうとうなる 溶鉱炉へ。
Ippolito	No! Di questo mentisci. Taci, taci, o ti trascinerò per i capelli dinanzi a lui!		イツボーリト ちがう！ これは うそだ。黙れ、黙れ、 さもなければ髪をつかんでおまえを 父の前へ引きずってやるぞ！
Fedra	Trascinami. Fuggì		フェードラ そうなさい。彼は逃げた

¹³⁹ パリュアドレース *Παρυάδρης* トロス山脈からカフカース地方まで連なる険しい高山地帯。古代には密林におおわれ、盗賊の住処であったという。ストラボーン『地理書』第 xii 巻 548 段。

¹⁴⁰ カリュベス人 *Χάλυβες* アナトリア地方北部、ポントスとカッパドキアのあいだに暮らし、銑鉄技術をもって知られた部族。

verso l'Eusino alle sue navi, te
 portando in fasce una nutrice barbara
 dei Colchi. E, quando scesero all'Attica
 le maschie torme a vendicare Antiòpe,
 egli in Atene a Fobo, alla Paura,
 sacrificò. Ma ti lasciò per madre
 la sàgari amazònia.]

930

935

自らの船団でエウジーノの海¹⁴¹へ、あなたを
 産着にくるんで運んだのはバルバロイの乳母
 コルキ人¹⁴²だった。それから、男たちの軍勢がアッティカへ下って
 アンティオーペの仇討ちにきたとき、
 彼はアテネで恐怖の神フォーボ¹⁴³の力に
 すがった。代わりにあなたには母親の代わりに
 アマッツォオネの斧を残したのよ。]

Ippolito Ah, tacerai!
 [Eccola!]

イツポーリト ああ、黙れ!
 [喰らえ!]

Accecato dall'ira impugna egli la mannaia, e afferra per i capelli la donna
 che cade; e fa l'atto di colpirla ma si trattiene. [Lo provoca ella,
 aggrappandosi a lui, frenetica.

彼は怒りに身を任せて斧をつかみ、女の髪をつかんで引き倒すと、彼女を
 討とうとするがふみとどまる。[彼女は狂乱して彼にしがみつき彼を挑発す
 る。

Fedra Sì, tra l'òmero e la gola,
 colpiscimi! Con tutta la tua forza
 fendimi, sino alla cintura, ch'io
 ti mostri il cuore nudo,
 il mio cuore fumante, arso di te.
 Non esitare, per la santità
 della dea che tu veneri, raccatta
 la tua mannaia e fendimi! Perché

940

フェードラ そうよ、肩とのどのあいだ、
 ここを断つのよ！ あなたの全力で
 私を断ち切るのよ、そうすれば私は
 あなたにむきだしの心臓を見せてあげる、
 あなたに焦がれて煙吹く私の心臓を。
 ためわらわないで、神聖な
 あなたの尊敬する女神にかけて、拾い上げるのよ
 あなたの斧を、そして私を断ち切りなさい！ なぜなら

¹⁴¹ エウクセイノス(海) (Πόντος) Εὔξεινος 「異人を歓迎する (海)」の意。古代ギリシヤにおける黒海の呼び名。

¹⁴² コルキス Κολχίς カフカース地方にあった古代王国。

¹⁴³ ボボス Φόβος 「敗走」を意味する。恐怖、混乱、狼狽の神。

	ben io son quella che gridavi, sono Fedra di Pasifàe, son la donna di Tèseo, e t'ho baciato in bocca. Esiti? Mi discingo.] Qui, tra l'òmero e la gola, percoti obliquo, il petto aprimi, il cuore vedimi!	945		私はあなたが叫んでいたとおりの女だから、私は パジーファエの娘フェードラ、 テーセオの女、 あなたの口のなかへ口づけしたのよ。 ためらっているの？ 私は服を脱ぎましょう。ここよ、肩と のどのあいだよ、斜めに打ち込んで、私の胸を 開いて、私の心臓を見て！
	Lascia egli cadere a terra l'arme.			彼はどうしようもなく自分の手から武器を落としてしまう。
Ippolito	Di te io non mi macchierò, donna di Tèseo! La caligine d'Ate scesa m'era su gli occhi. Lasciami.		イツポーリト	おまえの血で わが身を穢してなるものか、テーセオの女よ！ アーテの霧が おれのまぶたのうえに降りてきていたのだ。 放せ。
Fedra	No, non posso.	955	フェードラ	いいえ、できない。
Ippolito	Lasciami. Gorgo, Gorgo!		イツポーリト	放せ。ゴルゴ、ゴルゴ！
Fedra	Ah, non lasciarmi viva se vuoi vivere.		フェードラ	ああ、生きたいのなら私を生かしておかないで。
Ippolito	Hai bevuto l'ippòmane, o furente. Gorgo, Gorgo!		イツポーリト	おまえはイツポーマネ ¹⁴⁴ を飲んだな、おお狂女め。 ゴルゴ、ゴルゴ！

¹⁴⁴ ヒッポマネース *ἵππομανής* 「牡馬を狂わせるもの」の意。小さな黒い肉の突起。生まれたばかりの仔馬の額についているとされる。牝馬が食べるが、その前に人が食べると狂った力を得るという。媚薬として重宝された。アリストテレース『動物誌』第 6 巻 22 章 577a 「牝馬は、出産するとすぐ胎膜を食いつくし、仔馬の額についているヒッポマネースと称するものをも食い取ってしまう。これは大きな干しイチジクより少し小さく、外見は平たく丸く黒い」

Fedra Se vuoi vivere, soffocami
nelle trecce che m’hai sciolte. Finiscimi! 960

Vede a un tratto gocciolar nuovo sangue da quella che il domatore intromise
nella mascella d’Arione per costringerla a ricevere il ferro.

Ti risanguina il pollice
Bada!

Si china tentando di giungere le stille con le labbra protese.

Ho lambita la tua vena. Ho premuto
la tua bocca. Ch’io muoia!

Accorre alfine la nutrice atterrita, mentre Ippolito con più violenza si scrolla
per liberarsi.

Ippolito Gorgo, Gorgo,
tu strappala da me. Toggia!

Gorgo Fedra!

Fedra No! No! Bada!

Lo sente ella sfuggire, si sente ella sopraffatta; e tenta l’ultimo sforzo
disperato, lampeggiando di minaccia nel mortale sudore che le riga le gote.

フェードラ 生きるつもりなら、私の息の根を止めて
あなたのほどいた私の編み毛のなかで。私を死なせて!

フェードラは、イッポーリトがアリオーネの顎にくつわをはめるために中へ入
れた親指から、やにわに新たな血が滴り落ちるのをみとめる。

フェードラ あなたの親指からまた血が流れてきている
よく考えて!

その滴に唇を伸ばして口づけようと身を屈める。

あなたの血をなめてしまった。口づけてしまった
あなたの唇に。死んでしまいそう!

乳母がついに恐怖にとりつかれて駆けつけてくる一方で、イッポーリトは逃
れようとしていっそう荒々しく自分の身を揺する。

イッポーリト ゴルゴ、ゴルゴ、
この女を私からはぎとれ。引き離せ!

ゴルゴ フェードラさま!

フェードラ だめよ! だめよ! よく考えて!

彼女は彼が逃げるのを感じ、自分が打ち負かされたように感じる。必死で
最後の努力を試み、両頬をつたう死に瀕した汗によって凄まじくきらめく。

Ti perdi.

Se implacabile sei, sono implacabile.

Bada!

Ella non può più tenerlo. Sono eglino omai sul limite dell'adito, e Ippolito già vi dispare. Si svincola questi alfine con uno squasso respingendola contro il pavimento, e fugge inseguito dal rauco grido.

Ippolito! Ippolito!

Si china per soccorrerla la nutrice tremante. Ma balza la Titànide in piedi col movimento repentino del lottatore caduto che inarcando i muscoli evita di dare le spalle all'arena.

Non mi toccare, Gorgo.

Ella è in piedi, immobile e ferrea come il fato che per lei si manifesta, ma il seno seminudo le palpita come quel della Pitia quando è pieno della procella divina.

Gorgo O creatura, ti si rompe il petto!
Placa l'ambascia.

965

身を滅ぼすわよ。

あなたがとどまらない限り、私もとどまりはしない。

よく考えて!

彼女はもはや彼をつかまえておけない。いまやふたりは入口の際のところにいて、イツポーリトの姿はすでに見えない。彼は激しくひと揺れするとついに彼女を振り払い、床に向かってはね飛ばして逃げ出す。そのあとをかすれた叫び声が追いかける。

イツポーリト! イツポーリト!

震える乳母は身を屈めて彼女に手を差し伸べようとする。だがティターン族の末裔は、倒れても背筋を弓なりに反らせて両肩を闘技場の土につけないようにする闘士のように急速に立ちあがる。

私に触れるな、ゴルゴ。

彼女は、自らにとって明らかになった宿命のように、頑として不動のまま立っている。だが半裸となった胸は神々しい内なる嵐に満ちたピティア¹⁴⁵の胸のように鼓動している。

ゴルゴ おおちい姫さまや、お胸が張り裂けて!
息切れをお静めになってください。

¹⁴⁵ ピュティア Πύθια デルポイのアポローン神殿に仕える巫女。

Fedra	Gorgo,	970	フェードラ	ゴルゴ、
non gemere, non piangere. La cosa			嘆くでない、泣くでない。フェードラと	
è tra Fedra e le Dee. [Tu non mi vali,			女神たちのあいだの問題だ。[そなたは私に何もできはしない、	
né t'ho chiamata. Più non può nutrirmi			私はそなたを呼びもしていなかった。もはや私を養えはしないのだ	
la tua mammella stretta nelle tue			そなたの乳房は、そなたの手中で	
unghie. Mi resta da votare un'altra		975	絞られようとも。相容れない女神たちとの争いに	
coppa, a contesa con le Dee discordi.			捧げるべき杯が私にはもうひとつ残されている。	
Perfettamente io la berrò.] Non gemere.			私はそれをすっかり飲み干してやろう。] 嘆くでない。	
Non mi si rompe il petto.			わが胸は張り裂けてはいない。	
Quello che apparecchiato ha Fedra è un grande			フェードラがしつらえたものは大いなる	
male. Gorgo, non cercar di scoprire		980	不幸。ゴルゴよ、暴こうとするな	
dove la terra è cava			地の下の	
sotto la terra. Siedi			地なきところを。自らの	
al tuo telaio e taci.			機のもとへ座って静かにしておれ。	
La voce odo di Tèseo.			テーセオの声が聞こえる。	
Ella si volge e si getta sul giaciglio coperto di pardàlidi. Vi s'accovaccia,			彼女は黒豹の皮に覆われた寝床へ向き直って身を投げ出す。そこで斑の	
quasi confusa coi velli stellati, aggruppandosi in sé, ritirando i piedi scalzi. E			毛皮に混ざり込んでしまうほどにうずくまり、縮こまって、素足をひっこめて	
nel tacito viluppo sfolgora lo sguardo selvaggio, fiso alla sàgari amazònia			いる。そして押し黙って思いを巡らせつつ、床のうえに残されたアマツツォネ	
rimasta sul pavimento. La nutrice siede su la scranna dinanzi all'alto telaio;			の斧に野生のまなざしを凝らしては輝かせる。乳母は背丈の高い機のまえ	
riprende la spola ma non la getta. E sta china, col filo docile nella mano			で背もたれのついた肘掛け椅子に座る。ふたび杼を手取るが投げはし	
poggiata sul ginocchio. Entra Tèseo di la ond'è fuggito Ippolito. È grande			ない。そして糸を持って、手をおとなしく膝のうえに置き、頭を垂れている。イ	
ma snello, e la sua potenza è pieghevole come quella di colui che prima con			ッポーリトが逃げていった場所からテーセオが登場する。大柄だが敏捷で	
l'arte domò nella lotta Cercione d'Arcadia. Ancor biondo e chiomato, con la			あり、その力のはかつてアルカディアのチェルチャーネ ¹⁴⁶ と闘って屈服させた	
corta barba a guisa di numeroso corimbo, con nell'arco della bocca la			あのころと変わらずしなやかである。その金色の髪はいまだ褪せきっても禿	

¹⁴⁶ ケルキュオーン *Κερκυών* エレウシースにて旅人を相手にパンクラチオンの試合を申し込んで勝利しては敗者を殺していたが、アテーナイへ向かうテーセウスに殺される。

cupidigia del forzatore, con l'atrocità e la temerità per pupille degli citrini,
egli è avvolto in un largo mantello oblungo d'un color d'indaco fosco.
Immobile e torva dinanzi a lui rimane sui velli la capacità di Decèlia.

げてもおらず、髭は短くコリンボがたくさんついたかのようであり、弓なりの
唇には力を見せつける者の強欲が宿っていて、シトロンの瞳は図々しいうえ
に厚かましく、暗い藍色に染まった幅広い横長のマントに身を包んでいる。
フェードラは寝床にてデチェーリア¹⁴⁷のように険しい表情のまま動かない。

Tèseo	Fedra, che covi? Travagliata sei dal tuo male o dal cruccio? Perché non sei mai sazia di fare crudeltà contra figliastro?	985	テーセオ	フェードラ、何をここに秘めている？ 苛まれているのか おまえの罪悪と心痛に？ なぜ義理の息子をむごい目に遭わせて 飽き足らない？
-------	--	-----	------	---

La Cretese non muta attitudine ma parla tenendo la gota sul cubito ripiegato,
con una voce inflessibile che sembra rilucere ne i denti.

クレタの女は姿勢を変えず、折った肘にほほを載せたまま、口のなかで輝く
かのような確固たる声で語る。

Fedra	Forse a te m'accusò il figlio dell'Amàzone?	990	フェードラ	ひょっとするとあなたの前で私を非難したのですか アマツゾォネの息子は？
-------	--	-----	-------	--

Tèseo	Veduto il l'ho partirsi pallido e iroso. In vano l'ho chiamato a nome. Sul suo carro d'un balzo, prese in pugno le redini, ha sferzato i cavalli spingendoli al galoppo giù per la china verso Limna, contra il vento, in mezzo a turbini di polvere. Che gli hai tu fatto?	995	テーセオ	あれが青ざめて憤然と去るのを 私は見た。名前を呼んだが むだだった。あれは戦車に 飛び乗り、手に 手綱をつかむと、馬に 鞭打っては駆け足で進ませて リムナへ向かう傾斜を降りていった 向かい風のなか、ほこりの渦巻くなかを。 あれに何をしたのだ？
-------	---	-----	------	---

¹⁴⁷ デケレイア Δεκέλεια 紀元前 415-405 年の第二次ペロポネソス戦争にて戦況を左右した重要な地点。スパルタを中心とするペロポネソス同盟がここを攻略すると、アテーナイは穀物補給の大きなルート
を失って敗北へ進みはじめる。ト書きがこの地点に言及しているのは、アテーナイ王テーセウスに対峙するパイドラーの不敵な姿勢を強調するためだろう。

Fedra	La cosa è tra me e l'onta.		フェードラ	ことは私と 恥辱のあいだの問題です。
Tèseo	Ancòra forse per la schiava tebana avete voi conteso? Tu glie la togliești prima ch'ei la vedesse; e la sacrificasti senza osservare il rito.	1000	テーセオ	もしやまた テーベの女奴隷のことで言い争ったのでは あるまいな? おまえはあの女を奪ってしまった あれが見る前に。おまえはあの女を供物としてしまった 祭りに厳格にしたがいもせず。
Fedra	Quando seppi ch'era la figlia d'Àstaco!	1005	フェードラ	知ったからです あの女がアスタコの娘であることを!
Tèseo	Ma era bella. E parve a Ippolito che niuna esser potesse più bella di lei morta.		テーセオ	だが美しかった。そして イッポリトには、死んだあの女より 美しい者はありえないと思えたのだ。
Fedra	E dovea vendicare egli, con l'onta della donna di Tèseo la concubina tolta al suo covile?	1010	フェードラ	それで彼は復讐をしなければならなかったというわけですか、 テーセオの女を辱めることによって、 自らの寢床から妾を取り上げられたから。
Tèseo	Di quale onta tu parli, donna? Ti disse ingiuria innanzi alle tue fanti? Innanzi ai suoi cavalcatori?		テーセオ	辱めとはどういうことだ、 女よ? おまえを侮辱したのか、 おまえの侍女たちの前で? あれの騎手たちの 前で?
La cretese nasconde la faccia, tutta in sé stretta come nodo.			クレタの女はまるで結び目のように全身を引き締めて顔を覆い隠す。	

	Non rispondi. Forse ti minacciò? Levò su te la mano? accecato dall'ira ti percosse?	1015		答えんか。まさか おまえを脅したか? おまえに手を上げたのか? 怒りに目をくらませておまえを打ったのか?
	Col tenace silenzio più serra ella il suo nodo.			頑と押し黙ったまま彼女は結び目のようになった全身をなおも引き締める。
	E non rispondi! Gorgo, non eri testimone?			なおも答えんか! ゴルゴ、 おまえ何があつたか見ていないか?
Fedra	Non Gorgo, Ate la zoppa con lo stridulo anelito che tu conosci per averlo udito assai volte.	1020	フェードラ	ゴルゴはだめです、アーテが 耳障りな息切れとともに彼女の足を効かなくさせているのです あなたも何度も耳にして ご存じでしょう。
Tèseo	Apprendesti dalla Tebana, prima di sgozzarla, tu l'industria di tessere ambagi di parole come quella belva che il figlio incesto di Laio vinse con l'acume senza ferro?	1025	テーセオ	おまえは学びとったのか テーベの女から、あの女ののどくびをかき切る前に、 言葉の欠片を まわりくどく連ねる術を? まるで 母を犯したラーイオ ¹⁴⁸ の息子が 剣ではなく明敏な勘によって打ち勝った あの雌の獣 ¹⁴⁹ のようだな。
Fedra	Anche Fedra ha il suo		フェードラ	フェードラもまた自ら

¹⁴⁸ ラーイオス Λάϊος テーバイ王。妻イオカステとのあいだにオイディプースをもうける。

¹⁴⁹ スピックスのこと。

	tebano enigma, che non figlio incesto le solverà, ma Tànato. Morire debbo, Teseo, purificarmi già nel nero fiume!	1030		テーベの謎を抱いているのです、しかしそれは母を犯した息子ではなく ターナトによって解決されるでしょう。 私は死なねばなりません、テーセオよ、 もはや黒き小川のなかで自らを浄めるしかないのです!
Tèseo	Tanto l'odio t'infetta?	1035	テーセオ	それほどまでにおまえは憎しみに汚されたのか?
Fedra	[Quale il fuoco nell'istmo, tra i due mari che incenerisce l'erbe fino ai labbri del lido, e cresce sotto il vento e rugge; tal m'arde l'odio tra la morte e l'onta.]		フェードラ	[ふたつの海に挟まれた地峡で 草木を岸の口まで灰へ変える炎が、 風に煽られて強まってはうなるように 憎悪が死と恥辱の間で私を燃えあがらせるのです。]
Tèseo	Non lo vedrai, se vivere non puoi dov'ei respira. Lo trarrò lontano, in esilii di gloria, matrigna inesorabile. Gli appresto le nozze con la figlia di un dio. La rapiremo nella reggia di Tindaro, alternando l'imenèo con l'alalà di guerra.	1040 1045	テーセオ	おまえにあれを会わせないようにしよう、おまえが あれの息づくところでは生きられないのならば。私があれを連れていこう、 栄光の流浪へと、 非情な継母よ。私はあれに 神の娘と結婚させてやれるよう とりはからう。ティンダロ王の宮殿で その娘を誘拐し、祝婚歌と 戦いの鬨の声を代わる代わる上げるのだ。
Fedra	Ah, non temere, no. Ei non traligna. e di che sdegno tu ti sdegnarai, di che castigo lo castigherai, se maestro gli sei di forzamento?	1050	フェードラ	ああ、心配は要りません。彼はあなたの性質をちゃんと受け継いでいます。 するとどんな憤慨によってあなたは憤慨なさることでしょう、 どんな罰で彼を罰されることでしょう、 あなたが無理強いというものを彼に教えるのでしたら?
Come l'Egide colpito dal baleno fa l'atto di appressarsi rapido e torbido, ella				突然の衝撃に打たれたエジューオの子が混乱して素早く近づこうとすると

gli mostra col grido la sàgari abbandonata.

同時に、彼女は叫び声をあげて、打ち捨てられた斧を彼に示す。

Guàrdati ai piedi! Bada,
bada che non ti tagli alla mannaia
dell'Amàzone!

フェードラ 足元をご覧なさい! 気をつけて、
アマツゾネの斧で身を切らぬよう
気をつけて!

Tèseo s'arresta, si china, e riconosce l'arma lunata.

テーセオはぴたりと立ち止まり、身を屈め、三日月形の刃を見出す。

Tèseo Ben la riconosco,
la sàgari d'Ippolito. Gli cadde,
né la raccolse?

テーセオ はっきりわかる、
イッポーリトの斧だ。あれが落として、
拾わなかったのか?

S'avvicina alla donna, e le pone la mano su l'òmero.

テーセオは女に近づき、彼女の上腕に手を置く。

Forse
l'usò per minacciarti?
Rispondi!

1055

まさかあれは
斧を使っておまえを脅したのか?
答えろ!

Fedra Ah, perché volle
il fato che venisse alle tue labbra
il nome miserabile?

フェードラ ああ、どうして宿命は
忌むべき名があなたの口にのぼるよう
欲したのでしょうか?

Tèseo Qual nome?

テーセオ どの名だ?

Fedra Nomasti il figlio di Laio.

フェードラ ラーイオの息子の名を口になさいました。

Tèseo Che vuoi

1060

テーセオ 何が

	tu dire, Fedra?			言いたいのだ、フェードラよ?
Fedra	O Luce, che per l'ultima volta ora ti vegga!		フェードラ	おお光よ、 おまえを見るのもこれが最後となるのか!
Tèseo	Per gli Iddii, parla!		テーセオ	神々にかけて、話せ!
Fedra	Non io gli son madre come Giocasta, ma gli sei tu padre che l'ama.		フェードラ	私は彼にとって ジヨカスタ ¹⁵⁰ のような母親ではありませんが、あなたは彼にとって 彼を愛する父親です。
Tèseo	Ho io compreso? d'averti fatto forza tu l'accusi?	1065	テーセオ	おれは理解したろうか? 彼がおまえに乱暴したと訴えているのか?
Fedra	Ah foss'io già sotterra!		フェードラ	ああもう冥府にいるかのよう!
	Egli la solleva di su le pelli tenendola per gli òmeri e la scrolla.			彼は彼女の両肩を豹皮のうえから持ち上げて揺さぶる。
Tèseo	Per gli Iddii, dimmi!		テーセオ	神々にかけて、言え!
Fedra	Sì, per forza soperchiò me disarmata e presa pei capelli.		フェードラ	そうです、 彼は無力な私を力づくで押さえつけました、 髪をつかまれたのです。
Tèseo	Dove? Dove?	1070	テーセオ	どこで? どこで?

¹⁵⁰ イオカステー *Ἰοκάστη* テーバイ王ラーイオスの妻。オイディプースをもうけるが、後に知らずしてその子と交わり、ポリュネイケース、エテオクレース、イスメーネー、アンティゴネーを生む。

Fedra	Sul tuo talamo.		フェードラ	あなたの閨で。
Tèseo	Quando?		テーセオ	いつ?
Fedra	Nella notte del sacrificio, dopo che rinvenuta egli ebbe la Tebana su la fossa dell'ara.		フェードラ	生贄を捧げた 夜のうちに、 彼が祭壇の穴にテーベの女を 見つけた後のことです。
	Accosciata selvaggiamente, ora parla vincendo il tremito che le scuote la mascella, mentre l'ombra del sangue le ricolora il viso cinereo.			荒々しくしゃがみこまれて、彼女は今や歯をがちがちと鳴らす震えに打ち 勝って話す。しかし青白い顔にはほのかに血の色が戻ってくる。
Tèseo	Ruppe i serrami delle porte?		テーセオ	扉という扉の掛金を破ったというのか?
Fedra	Diede voce ad inganno, come s'ei chiamasse te, come s'ei credesse anche te reduce con la nave salpata d'Elèusi. Ed io gli apersi, ancor nel sonno.	1075	フェードラ	彼は 虚言を弄したのです、まるであなたを 呼ぶかのように、まるであなたがエレーウシ ¹⁵¹ から 出帆した船に乗って帰ってきたと 信じているかのように。私は彼に扉を開けました、 まだ夢うつつのままでした。
Tèseo	Ed egli? Dimmi, dimmi!	1080	テーセオ	それであやつは? 言え、さあ!
	Sotto il maschio volto convulso dal dolore e dall'impazienza, perversa ella			苦悩と苛立ちに歪んだ男の顔を見上げながら、彼女は、待ち望みながら胸

¹⁵¹ エレウシス *Ἐλευσίς* アテーナイの近辺に位置した小都市。

s'accende come quando imponeva alla schiava atterrita l'immagine notturna di
sé palpitante nell'aspirazione.

Fedra	Ebro di forzamento era, tornato allora lungo il Mare con le sue mute al suono delle bûccine. Saputo avea dall'uomo d'Argo il dono della schiava, e veduto la schiava nella fossa e urlato di furore. Entrò. Mi si scagliò contra gridandomi: "O Pasifaèia, o spietata noverca, se tolta m'hai la vergine altocinta, stanotte mi darai uso di te!" E m'afferò per i capelli, e il pugno mi pose entro la bocca. E me, me fredda, me venuta meno per tutta la carne nell'orrore, domò, contaminò sul tuo talamo.	1085 1090 1095
-------	---	-------------------------------------

Veracemente ella ha nella carne un misto d'orrore e di voluttà straziante,
come se la menzogna le si trasformi in viva midolla. Quanto più crudo
appariva il tormento dell'uomo, tanto più profondo era il fremito della
finzione. Ora di nuovo ella si getta su i velli, s'aggruppa in sé, s'avvolge,
s'annoda intorno alla sua volontà occulta. Raccoglie la sàgari Tèseo

を激しく鼓動させる自らの夜のまぼろしをおびえた女奴隷に重ねていたとき
のように自らを火照らせる。

力づくで体を奪うのだと
のぼせあがっていました、海沿いに
角笛の音とともに猟犬を連れて帰ってきたときのことです。
女奴隷が贈られたことを
アルゴの男から聞いて知り、
穴のなかの女奴隷を見て
逆上して大声を上げたのです。
それから彼は入ってきました。彼は私に飛びかかり
叫びました。「おおパジーファエの娘よ、
おお無情な義母よ、
おまえが高貴な処女をおれから奪ったのだから
今夜はおまえをやらせてもらおう！」
そして彼は私の髪を引きつかみ、拳を
私の口のなかへ押し込みました。
私を、ぞっとする私を、
あまりの恐ろしさに全身力の抜けてしまった
私を、押し倒して、汚したのです
あなたの間で。

彼女は、あたかも虚言が彼女の生ける骨髓へと変わったかのように、耐え
がたい戦慄と悦楽の入り混じったものを肉体のなかにほんとうに感じる。虚
言によるわななきがいつそう強くなるほど、男の苦悩はいつそう厳しく見え
てくる。いまや彼女はふたたび豹皮のうえに身を投げ、縮こまって、秘めた欲
望について体をよじらせては手を自らに巻きつける。テーセオは衝動的に斧

nell’impeto e la brandisce pronto a percuotere.

を拾い、いつでも振りおろせるようにつかみ上げる。

Tèseo

Ippolito!

Ippolito!

テーセオ

イッポーリト!

イッポーリト!

Si risollela la donna e si protende, travagliata senza respiro dall’interna
Erinni.

女は息つく間もなく内なる裁きの神エリンニによって苦しみつつふたび立
ちあがって身をのりだす。

Fedra

Lo chiami invano. Cala

il colpo a me che minacciata fui

pur dianzi e tratta pei capelli ancòra

e ancòra oppressa!

1100

フェードラ

呼んでもむだです。一撃振り下ろすなら

私になさい、ついいましたがた

脅されては髪をつかまれて何度も

何度も虐げられた私に!

Tèseo getta la sàgari e si volge.

テーセオは斧を投げ、向き直る。

Tèseo

Donna,

urna di tutti i mali, non usci

da te menzogna? Fammi giuramento.

テーセオ

女よ、

あらゆる災厄の壺よ、おまえから出てきた

これは偽りではなからうな? 私に誓いを立てろ。

Prona su i velli, Fedra stende le mani marmoree verso terra.

豹皮のうえにうつむき、フェードラは大理石のような両手を大地に向けて広
げる。

Fedra

Gli Iddii del Fiume stigio

ne sieno testimoni!

1105

フェードラ

ステージエの川の神々が

証人となるでしょう!

Allora Tèseo, di tutta la statura alzato, scaglia l’imprecazione funesta;
mentre la Titànide raccoglie di tra i tesori del navigante lo specchio di

するとテーセオはすっかり伸びあがって死の呪詛を吐く。そのあいだティタ
ーノ族の末裔の女は船乗りの宝のなかから蓮の茎をあしらった台のついた

bronzo dallo stelo di loto e s'affissa nell'orbe rigettando indietro con la
manca le radici dolorose dei capelli che calca "l'elmetto dalle cinque
giàspidi." Nel crescere dell'imprecazione un terrore crescente le stravolge il
viso e le dilata gli occhi e a poco a poco la solleva per l'arco delle reni,
finché lascia ella cadere lo specchio e di schianto si rovescia sul dorso.

銅の鏡を拾って、その球体を見つめながら「五つの碧玉の頭飾り」に抑えつ
けられている髪の毛の痛ましい毛根を左手で後ろへなでつける。呪詛の聲が大
きくなっていくさなか、彼女は増していく恐怖のせいで顔を歪ませ、目を大
きく見開いて、しだいに身を起こし背骨を弓なりに逸らせて、ついには鏡を
取り落とすと突然背中から倒れる。

Tèseo O Re truce del Mare, odimi tu
 che promettesti adempiere tre voti.
 Se alcuna grazia ho nelle tue vendette,
 oggi adempimi il primo contra il figlio.
 Che innanzi sera egli discenda all'Ombre!

1110

テーセオ おお冷酷な海の王よ、聞きたまえ、あなたは
 三度までわが願いを叶えとお約束くださった。
 あなたの神罰におすがりできるならば
 今日息子に対してわが第一の願いをかなえたまえ。
 宵に先だってわが息子を冥府の常闇へ落としたまえ!

Atto terzo

第 3 幕

La Trenodia per Ippolito morto

死せるイッポリートに捧げる哀歌

Il Coro

O Giovinezza, piangi.

コロス

おお若者よ、涙せよ。

O Giovinezza, tondi la tua chioma,

おお若者よ、そなたの髪を切り、

piangi tutto il tuo pianto,

そなたの涙を流しつくせよ、

ché il tuo principe è morto. È morto Ippolito!

1115

そなたの若き主が薨ったのだから。イッポリートさまが薨った！

O selve di Metàna,

おおメタナの森よ、

olivi di Genètlio,

ジェネートリオ¹⁵²のオリーヴよ、

sarònide palude,

サローニデの沼地よ、

piagge di Limna, monti d'Ermione,

リムナの岸辺よ、エルミオーネ¹⁵³の山々よ、

rempietevi d'orrore e di lamento.

1120

畏怖と涙に自らを満たせ。

piangete, Efebi di Trezene. Vergini

涙せよ、トレゼーネの若者たちよ。トレゼーネの

di Trezene, piangete. È morto Ippolito!

乙女たちよ、涙せよ。イッポリートさまが薨った！

Etra

Ippolito, oh Ippolito più caro

エートラ

イッポリート、おおイッポリートよ、

a me che se t'avessi generato

私こそがかつて責め苦の大きな叫び声とともに

con grandi urla di strazio,

1125

おまえを生んだかのように、私にとって愛おいしいおまえよ

invidio chi ti piange

おまえのために涙する者がうらやましい、

ché piangere non so della tua morte

なぜなら私はおまえの死を悲しむこともできず

e gemere non so della mia vita,

わが生を嘆くこともできないからだ、

e vedo in me quanto desiderabili

私はどれだけ望んでいることか

i giorni che riempivano di lacrime

1130

なにも出てこない採石場に掘られた溝よりも

¹⁵² ゲネトリオス Γενέθλιος 出生地や出生部族の神格化されたもの。すなわち、土地または一族の守護神を意味する。¹⁵³ ヘルミオネー Ἑρμιόνη アルゴスの一地名。トロイゼーンからみて南南西に位置する。

queste mani solcate di travagli

più penosi che il solco

nella petraia sterile!

O Giovinezza, piangi! È morto Ippolito.

いっそうつらい苦悩によって

ついた皺だらけのこの両手に

涙をいっぱい満たした日々を!

おお若者よ、涙せよ! イッポーリトが逝ってしまった。

Il Coro O Giovinezza, piangi! È morto Ippolito.

1135

コロス

おお若者よ、涙せよ! イッポーリトさまが薨った。

Appare un selvaggio anfratto nella marina di Limna; compreso tra il grande argine dell'Ippodromo e la radice della rupe trezenia sul cui vertice Fedra in opera d'amore costrusse il tempio sacro ad Afrodite Catascopia per guardar di lassù l'efebo esercitarsi agli agoni ginnici ed ippici nel duplice terreno arginato lungo il litorale. Dietro l'argine è il bosco di Artemide Saronia, tutto lentischi oleastri terebinti spineti, folta bassa opaca macchia sotto il glauco cielo crepuscolare che l'arco del novilunio segna. In sommo dell'argine è l'altare ove fu sacrificato a Poseidone il toro bianco del Tesèide, pel divino ammonimento; e non anche le carni della vittima son consunte su la catasta, né il fuoco langue, ma alto e sonoro illumina la rupe avversa, la nera fronda, gli scogli irti tra la via dei carri e il mare violaceo.

È in prossimità della rupe quell'ara indicata dal domatore d'Arione all'auriga, l'ara «senza nome, vetustissima, nera pel fuoco degli innumerevoli olocausti, fra ceneri impietrite.» E presso v'è Eurito d'Ilaco. E poco discosto è Tèseo, seduto sopra un macigno, ravvolto anche il capo nel largo pharos, con in pugno il lungo scettro, immoto.

リムナの海岸に険しい岩間が見える。そこはイッポドロモの大きな土手とトレゼーネの岩壁に囲まれている。その岩壁のうえには、フェードラが海岸沿いに土手に囲われた二面の競技場で体操や乗馬を練習するイッポーリトを眺めるために建てたアフロディーテ・カタスコピア神殿¹⁵⁴がある。土手の後ろにはアルテミデ・サロニア神殿¹⁵⁵の森が茂っており、すべてのニューウコウジュ、野生のオリーブ、テレピン、イバラが、新月に近い弧の際立つ黄昏の紺碧の空のもとで密な、低い、くすんだ染みに見える。土手の最も高いところには祭壇があって、そこは神の警告によりテーセオの息子の白い雄牛がポセイドーネに捧げられた場所だった。生贄の四肢も炎もいまだ薪のうえにあって尽きてはおらず、反対側の岩壁、黒い葉、馬車の道とスミレ色の海のはざまのごつごつした岩肌を、音を立てて照らし出している。

その岩壁の隣に、アリオーネの調教師が御者に指示していたあの供物台がある。その供物台は、「名もなく、きわめて古びており、無数の生贄を焼いた炎によって黒く焦げていて、石化した灰のなかにある。」そのかたわらにイラコの子エウリートがいる。少し離れたところでテーセオが岩に坐し、自らの身を頭までパーロス¹⁵⁶のなかに包み込み、長い権杖を握り、動かずにいる。

¹⁵⁴ アプロディーテース・カタスコピアス(神殿) (*ναός Ἀφροδίτης Κατασκοπίας*) 「見守るアプロディーテの神殿」の意。パウサニ阿斯『ギリシャ記』第2巻32節3を参照。

¹⁵⁵ アルテミドス・サローニアス(神殿) (*ναός Ἀρτέμιδος Σαρωνίας*) 神話上のトロイゼーン王第3代サローン *Σάρων* の開いたアルテミス神殿。パウサニ阿斯前掲書第2巻32節10を参照。

¹⁵⁶ パーロス *Φᾶρος* 上着として、キトーンのうえから肩にかけて留める正方形の布。

E il cadavere dell'Amazònio giace a terra coperto dal vello del leone. E la veneranda Etra accosciata gli regge il capo su le sue ginocchia. E le schiave della Pitteide sbigottite sono adunate in disparte, e guardano. E nel fondo sono due carri coi cavalli aggiogati e gli aurighi stanno in piedi dinanzi al timore silenziosi. E i cavalicatori e i canattieri sono quivi a stuolo silenziosi; e guardano e piangono senza singulto. E sopraggiungino gli Efebi trezenii, i compagni del bellissimo, taluni recando a mano per la briglia i lor cavalli. E rattenuto è il flutto del dolore innanzi alla lenta lamentazione dell'ava senza lacrime. E taluni s'appoggiano alle trecce delle criniere, altri su le doppie lance. E un di loro, nomato Procle, è alquanto più innanzi, più presso all'esanime suo caro; e curvo sull'asta bina, piange senza singulto. E quando a quando i corsieri tendono il collo verso il cadavere; e s'ode il fremito delle froge, il tintinno della catenelle, l'urto degli zoccoli.

E le faville del fuoco sacrificale svolano sul vento e il rombo marino riempie la conca rupestre, passando per l'orrore del bosco inviolabile.

Un Efebo O veneranda madre dell'Egide,
Etra, concedi che il cruento capo
del principe sia terso nel suo Mare
e portata da noi sia la sua spoglia
su fèretro costruito d'oleastro
coperto con la pelle del leone.

Etra fa un debole gesto che si solleva e ricade.

アマツゾネ族の男¹⁵⁷の亡骸が獅子の皮に覆われて大地に横たわっている。尊いエートラはうずくまって彼の頭を自らの両膝の上に載せている。呆然としているピッテオの娘に仕える女奴隷たちは分かれて集まり、見つめている。奥には馬をつないだ馬車が二台あり、それぞれの轅の前に御者たちが黙ってたたずんでいる。騎兵たちや猟犬使いたちは黙って群れをなしてたたずんでおり、静かに泣いて見つめている。そこヘトレゼーネの若者たち、亡き美少年の仲間たちがやってきて、幾人かは自らの馬の手綱をとって引いてくる。涙を流さず静かに嘆くエートラを前にして、彼らは自らを襲う悲しみの波を抑えこむ。幾人かは〔馬の〕編んだたてがみに、また幾人かは二又槍にもたれている。彼らのうち、プロクレという若者が、いささか前景に、かつ愛しい死せる少年のかなり近くにいて、二本の槍にもたれてうつむき、静かに泣いている。ときどき駿馬たちは首を亡骸に向けて傾げる。鼻孔の震え、細い鎖のチャリチャリという響き、蹄を踏みならす音が聞こえる。

供物の炎から立つ火の粉が風に乗って飛び、海鳴りが断崖のあいだに満ち、入ってはいけぬ森のくらがりを通り抜けていく。

青年 一 おおエジェーオの息子を生んだ敬うべき母、
エートラさま、お許してください、
王子の血にまみれた頭を彼の海にて清め
私たちがその骸をオリーブの木で組んだ棺に載せ
獅子の皮にて覆い
運んでいくことを。

エートラは弱々しい身ぶりで身を起こしてはふたたびうなだれる。

¹⁵⁷ アマゾニオス 'Αμαζόνιος ヒツポリユトスのこと。

Un Efebo E tu concedi, o Tèseo,
che l'uomo d'Argo, il qual fu testimone
del grande ardire a noi parli, a noi narri
l'ultima gloria di colui che fu
pari a un dio.

1145

Tèseo rimane immobile e coperto sul suo macigno.

L'Auriga Testimone fui del grande
ardire.

S'avanza Eurito d'Ilaco.
Sùbito fremito corre nello stuolo degli Efebi e balenano gli occhi tra le lacrime; e spontaneo il piede si fa innanzi. E taluno dei corsieri, sentendo la mano inquieta, fa l'atto d'impennarsi. Odesi a quando a quando risonar sul lido lo scroscio d'un flutto più vasto e il latrato confuso che vien dai canili posti dall'altra estremità dell'Ippodromo.

Gli Efebi

- Lo vedesti

da presso, uomo straniero?

- Nell'Ippòdromo

eri?

- Aveva il cavallo

mangiato la sua spelta?

- Si lasciò

montare? o si difese all'accostarsi?

Fate che dica.

1150

青年　一　またお許しください、おおテーセオさま、

アルゴの男が、大いなる蛮勇の証人である

あの者が、一柱の神にもひとしかったかのひとの

最期の栄光を私たちに話し

語って聞かせることを。

テーセオは岩に座ったまま身じろぎせず表情を隠したままにいる。

御者 私こそが大いなる蛮勇の
証人でございます。

イラコの子エウリートが進み出る。

そのとたん若者たちの群れのなかを戦慄が駆け抜け、彼らの涙に濡れた目がきらりと光る。意識せずおのずから足が踏み出される。幾頭かの馬が、主の手の落ち着きのなさを感じとって、急にかつとなったかのような仕草をする。ときどき、いっそう深い波浪のとどろきや、イツポドローモのもう一方の端にある犬の飼育場からやってくる騒がしい遠吠えが、岸辺に響きわたる。

青年たち

——あなたは一部始終を

そばで見たのか、異国の男よ？

——イツボドロモのなかに

いたのか？

——馬は彼のやった

スペルト小麦を食べていたか？

——馬は彼を

乗せたのか？ それとも近づかせはしなかったか？

思うままに言ってくれ。

- Narra!

- Narra!

- Narra!

——語れ!

——語れ!

——語れ!

L'Auriga Il cavallo tenuto era dagli uomini
a piè dell'argine, affinché presente
fosse nel rito. Era cinghiato già
e immorsato col morso duro. Ippolito
scese a guardarlo e lo palpò sul collo.
Non disse verbo. Taciturno e crudo
era, come in corrucio. Quando all'ara
fu tratto il toro bianco per l'offerta,
il cavallo aombrò. Mugghiava il toro
e il cavallo annitrì verso quel mugghio.
Nell'ombra d'una nuvola fuggiasca,
sbuffando a capo chino si guatarono
dalla rotondità dei lor crudeli
occhi sporgenti. Né volea morire
il toro. Quando Forba i peli svelse
di su la fronte e li gittò nel fuoco,
e il salso orzo con essi, il furibondo
sbalzò traendo negli sbalzi gli uomini
che impugnato l'aveano per le corna,
così che Forba con la scure al primo
colpo non l'abbatté ma sol l'incise

1155

1160

1165

1170

御者

アリオーネは男たちに留めおかれていました
土手のふもとに、儀式に
立ち合わせるためでした。すでに革紐をかけられて
堅い馬銜をかまされていました。イッポリートさまは
降りてきて馬を見るとその首を手のひらで軽くさすりました。
ひとこともおっしゃいませんでした。押し黙って険しい顔をなさって
まるで怒っていらっしゃるかのようでした。あの供物台に
白い雄牛が捧げものとして引いていかれたとき
馬のところが翳りました。雄牛は鳴いておりました、
その鳴き声に向かって馬はいなくなりました。
逃げ去るひとつの雲の影のなかで
頭を垂れて鼻を鳴らし、飛び出しそうな
丸々と見開いたすさまじい目つきで
お互いを見つめました。死にたくはなかったのです
雄牛は。フォルバ¹⁵⁸が
額のうえから皮を剥いで、火のなかへ
その皮と一緒に塩入りの麦酒を投げ入れると、牛は怒り狂って
跳ね飛んでは、跳ね飛ぶさなかに
その角をつかんでいた男たちを引きずっていきました、
ですからフォルバは斧をもって一撃で
牛を仕留められずただそのうなじに

¹⁵⁸ ボルバース *φορβάς* 「糧を与える者」を意味する。

su la collottola e, iterando i colpi
nell'orror del presagio,
il sangue fumido sprizzava in torno.
Gridò Forba: "Ricusa
l'Ippio l'offerta. L'arderemo noi?"
Ippolito gridò: "Ardila a Fobo!"

1175

Nel punto del grido eroico d'Ippolito, balza in piedi dal suo macigno Tèseo con grande fremito, memore del suo sacrificio alla divinità terrificata offerto prima d'apparecchiare la difesa contro le Amazoni vindici. E si volgono all'Eroe pallidi i cavalieri, stretti dall'angoscia. E l'auriga interrompe il racconto, e sta palpitante. E anche volgesi al figlio la vedova d'Egeo. E s'ode nella pausa ruggiare l'alta catasta ardente in cima all'argine, e s'ode il fragore del mare, e il latrato lontano.
Si risiede Tèseo sul suo masso fatale scoperto il capo. E gli Efebi pendono anelanti dalla bocca dell'Auriga.

E s'udiva il cupo ululo dei cani.
E s'udiva il cavallo giù rispondere
col lungo ringhio al rantolo del toro.
Tacquero intorno, splendidi di sanque,
d'irsuto pino incoronati, gli uomini.
Ippolito insensibile era volto
verso il mare ove i rapidi flagelli
d'Euro un innumerevole galoppo

1180

1185

切り込んだだけでした、それから繰り返し
恐ろしい胸騒ぎを抱きながら打ちこみましたので
血煙がまわりにたちのぼりました。
フォルバは叫びました。「イッピオ¹⁵⁹が
供物を拒んでいます。それでも供物を焚くのですか？」
イッポーリトさまが叫びました。「恐怖の神フォーボに供物を焚け！」

イッポーリトの英雄的な叫びにさしかかったところで、テーセオが大きく身震い、岩から勢よく立ちあがる。彼は、かつて仇討ちに來たアマツヅォネ族に対して守りを固める前に、恐怖の神に生贄を捧げたことを思い出している。騎兵たちは激しく不安に苦しみ、血の気をなくして英雄のほうを向く。御者は語りを中断し、わなないている。エジエーオの未亡人もまた息子のほうを向く。その中断の間に、高く積まれた薪の山が土手の頂で燃えてうなる音や、轟く海鳴りや、はるかな遠吠えが聞こえてくる。
テーセオは頭を布で覆ったまま宿命の岩のうえに座り直す。すると青年たちは苦しくあえぎつつ御者の口に先を促す。

犬どもの暗くこもった咆哮が聞こえていました。
馬が下で長くないのが聞こえました、
のどをひゅうひゅう鳴らす雄牛に応えているのです。
あたりの男たちは黙っていました、血を浴びて輝いて
野生の松の冠を戴いて。
イッポーリトさまはものともせずに
海へ向かいました、そちらでは
東風エウロが素早く鞭打って

¹⁵⁹ ヒッピオス Ἰππιος ポセイドーンの異名のひとつ。「馬を統べる者」を意味する。

di criniere schiumanti ricacciavano
 al lido, già scendendo dall'opposta
 china del cielo verso il gorgo esperio 1190
 il rosso carro del Titano Sole.
 Io non vedeva in lui alcuna cosa
 che si potesse credere mortale.
 Pur dissi: “È tardi. Non tentar la prova
 oggi, o Tesèide.” Immerso era in un'ombra 1195
 di sogno e non si mosse. Àrpalo disse:
 “È tardi. Scingerò dunque il cavallo!”
 “Àrpalo, sì” rispose egli volgendosi
 con un subito riso. E niun di noi
 veduto avealo mai così divino. 1200
 Raccolte le due redini nel pugno,
 e alquanto di criniera,
 con un balzo di lince egli fu sopra.
 Cedé le redini e il cavallo facile
 partì di passo, seguìto la pesta 1205
 sul destro lato, andò fino alla stoa.
 Ma di dietro la stoa, su dai canili,
 ulularono come di sotterra
 i molossi. Il cavallo paventò.
 Girò stretto la mèta; giunto al varco 1210
 d'egresso, con un lancio obliquo, come
 di volo, trasse fuori dell'Ippòdromo

泡吹いて駆ける無数の馬どもを岸边へ追い立てて
 おりました、早くも降りてきておりました
 天の反対の坂から西の奈落へ向けて
 太陽のティターノ¹⁶⁰の赤い馬車が。
 私はあの方のなかに
 死を思わせるものをなにひとつ見出しておりませんでした。
 それでもこう申しました。「もう遅うございます。今日は稽古を
 なさいますな、おおテーセオさまの御子よ。」あの方は夢のもやのなかに
 沈んでおいででして、身動きなさいませんでした。アルパロが申しました。
 「もう遅うございます。馬の革紐を解きますよ!」
 「アルパロ、よかろう」とあの方は振り返ってお答えになりました、
 だしぬけに微笑んで。私たちのうち誰も
 あれほど神々しいあの方を拝したことはございませんでした。
 ひとつかみで手綱を2本、
 それからたてがみもいくらかお持ちになって、
 山猫の跳びあがるようにあの方は飛び乗りました。
 あの方が手綱をゆるめると馬は難なく
 常歩にて走り出し、右側の
 道を進み、柱廊までゆきました。
 しかし柱廊の向こう、犬小屋から
 冥府の犬どものように吠え声を上げたのです
 モロッツ犬どもが。馬はおじげづきました。
 転回点の標柱をぎりぎりで周り、出口への
 通路に着くと、鋭くひとつ跳びして、まるで
 飛ぶように、イツポドロモノの外へ

¹⁶⁰ 太陽神ヘーリオスを指す。

il cavaliere. E incominciò la lotta.

Ondeggia Tèseo e si protende, ch  mal contiene l'ansia; arcato su lo scettro, s'affisa nell'auriga. E gli Efebi in palpito, avanzando ancor d'un passo, si protendono, con le lacrime disseccate ne' loro occhi ardenti come gli occhi dei bianchi e bai corsieri, con i lor volti pallidi presso le teste equine dal gran ciuffo intrecciato di liste cerule o purpuree. E l'arco della luna cala sul bosco sacro; e la zona marina r ssica ancora; e nemi di faville dall'alta catasta sv lano sul concilio funereo.

Gli Efebi - Prosegui, Euròto!
 - Sù, prosegui!
 - Narra!
 - Non t'arrestare!

L'Auriga	- E incominciò la lotta.	1215
	Fu sul lido, al frangente. Parve a un tratto	
	che l'assillo pungesse lo stallone.	
	Parve a un tratto converso dall'Asfàlio	
	in ippocampo dai palmati zoccoli,	
	e il cavaliere un figlio d'Oceànide	1220
	crinito anch'egli e turgido di muscoli	
	guizzanti e pieno il petto del perpetuo	

乗り手を連れ出したのです。そして大立ち回りが始まりました。

テーセオは不安を抑えきれず、動揺して身を乗り出す。権杖のうえに両の手のひらをのせ、御者を見つめる。青年たちは戦慄しており、もう一步踏み出して、身を乗り出す。いまや彼らの涙は白毛や鹿毛の馬たちの瞳のように燃える瞳のなかで渴いている。彼らの顔は立派なたてがみを空色か緋色の帯で結ってある馬の首のかたわらで青ざめている。月の弧は聖なる森のうえに下りている。海の領域はいっそう赤みを増している。おびたしい火の粉が高く積まれた薪の山から吊いの集まりのうえへ舞い飛んでいる。

青年たち　——続けてくれ、エウリートよ！

——さあ、続けてくれ！

——語れ！

——やめないでくれ！

——そして大立ち回りが始った。

御者
砂浜にて、砕け散る波を浴びておられました。だしぬけに
アブが雄々しい馬を刺したかのようでした。
馬はやにわにアスファール¹⁶¹によって
蹄に水かきのあるイッポカンボ¹⁶²に変えられてしまったかのよう、
また乗り手である大洋神の末裔の子¹⁶³、
髪の豊かなあの御方もまた躍動する筋肉で
膨れ上がってその胸は絶え間ない海のあえぎに

¹⁶¹ アスパレイオス Ἀσφάλειος ポセイドーンの異名。「守り手」を意味する。

¹⁶² ヒッポカンポス *ἵππόκαμπος* 神話上、ポセイドーンの乗る戦車を引く半馬半魚の怪物。

¹⁶³ ヒッポリュトスの父方の高々祖父タンタロスを大洋神オーケアノスとテーテュースの子とする説がある。

anelito marino. E tra la polvere
 salsa che tremolava d'oro occiduo
 la bestia e il dio, fatti una doppia forza 1225
 e una bellezza sola e una criniera
 sola e contra l'Ignoto un sol furore,
 erti e sospesi stettero su l'ombra
 lunga che il lor viluppo protendea
 nel Mare. E udimmo acuti stridi d'aquila 1230
 scendere dalla rupe d'Afrodite.
 Ma vinse il cavaliere, o forse parve;
 ch  l'ippocampo gi  ricadde e, come
 se lo volgesse il freno, galopp 
 verso il bosco d'Artemide Saronia. 1235
 “Dea! Dea!” grid  l'Efebo. Con un orrido
 ringhio Arione l , contra la rupe
 sbattendo, franse a Ippolito il ginocchio
 e nello scrolllo il corpo nudo scosse
 l  sopra il masso dove sied , T seo. 1240

Sorge in piedi l'Egide come toccato dall'Erinni, e tremante si scosta, e
 guarda se il macigno della spada e dei sandali non sia rosso del sangue
 filiale. Ed Etra, stringendo fra le ceree dita il capo esangue su le sue
 ginocchia, si rivolge verso T seo con tanta forza che le ciocche dei bianchi
 capelli le si scompongono su le corde tese del collo cavo e su la faccia arata

満たされたかのようにでした。そして塩辛い塵が
 黄昏の金色に揺らめいていたそのなかで、
 獣と神が、互いに重なりあいひとつの力となって、
 ただひとつの美、ただひとつの
 髪、そして見知らぬ男に対してはただひとつの怒りとして
 屹立し、とどまっておりました、そのもとに影が
 長くたがいにもつれあって伸びておりました
 海のなかへ。すると驚の鋭く甲高い鳴き声が
 アフロディーテの〔神殿のある〕岩壁から下ってくるのが聞こえました。
 けれども負けたのは乗り手でした、いえきっとそうだと思います。
 というのも、イツボカンボは地に倒れ、そしてまるで
 馬銜によって向きを変えられたかように、ギャロップで駆けたのです
 アルテミーデ・サロニア神殿の森のほうへ。
 「女神よ！ 女神よ！」 若殿は叫びました。すさまじい
 いなきをひとつ響かせると、アリオ ネはそこで、岩壁に
 激しくぶつかって、イツポーリトさまの片ひざを砕き
 その裸身を揺さぶって振り落としました
 あなたのいま座っている岩のうえにでございます、テーセオ様。

エジェーオの子はあたかも裁きの神エリンニに触れられたかのように立ち
 あがり、身震いしつつ脇に寄って、かつて自ら剣とサンダルを取り出した岩
 164がいま息子の血で赤く染まってははいないかと眺める。エートラは、孫の血
 まみれの頭を自らの膝にのせて蜜蠟のような指で抱えたまま、たいへんな
 勢いでテーセオのほうを向くので、白髪の間が、幾重もの首飾りや皺の深く

164 本文のこの箇所は、1261-62 行と合わせて、テーセウスの冒険の始まりに言及しており、この次の註でも触れる要素とあいまって、非常に運命的なものを感じさせる。すなわち彼の冒険の始まりとは次のとおりである。神話によれば、トロイゼン王女アイトラ は、テーセウスを十分に育て上げたころ、アテーナイ王アイゲウスとの約束にしたがって息子を大岩のところへ連れていき、その岩を持ちあげさせた。するとアイゲウスがトロイゼンを離れる際に隠していた剣とサンダルがその岩の下から出てきた。テーセウスはそれらを持ってアテーナイへ赴いたところ、アイゲウスから王位継承者として認められた。

dalle rughe, simile a quella della filatrice Mòira.

E smosse con le froge il semivivo,
nell'ombra lo fiutò; di bava intriso
l'addentò per il ventre, gli sbranò
gli inguini.

Il brivido dell'orrore e della pietà interrompe colui che narra, corre pei
compagni d'Ippolito; che nascondono il volto nelle loro mani o contro il
collo dei corsieri, e lacrimano e scoppiano in singhiozzi. E le schiave, e i
guidatori dei carri, e gli uomini delle stalle e dei canili esalano l'angoscia
onde son pieni.

Poi, per quegli scogli, fumido
lontanò come un turbine sul Mare.

1245

Tèseo sente sopra sé fiso l'inflessibile sguardo di Etra. Fa un passo verso di
lei e le dice le due prime parole con una voce così sommessa e così tremante
che non sembra quella del durissimo castigatore.

Tèseo Sì, madre.

Risollevando la persona, raffermando la voce, poggiato al suo lungo scettro,
il Re parla.

刻み込まれた顔のうえにかかり、糸を紡ぐモイラ¹⁶⁵の顔のように見える。

それから馬は半死半生の男の体を鼻づらで探って
ひそかにそれを嗅ぎつけると、よだれをつけながら
下腹に噛みつき、むさぼり食ったのです
あの御方の睨丸を。

恐怖と憐憫のわななきが、イツポーリトの仲間たちのなかからほとばしり、エ
ウリート語りを遮る。仲間たちは自らの手か馬の首に顔を当てて覆い、涙
を流して、爆発するようにわっとむせび泣く。女奴隷たち、他の御者たち、馬
や犬の世話人たちはいっばいにこみあげてきた激しい動揺を露わにする。

そして、あの絶壁のほうへ、気炎を上げて
海上の嵐のように遠ざかっていきました。

テーセオはエートラのまっすぐなまなざしを自らの身に受けているのを感じ
る。彼女に向かって一歩進み、もはや峻厳きわまる懲罰者とは思われない
ほど静かな、震える声で、最初の二語を発する。

テーセオ 承知しました、母上。

気を持ち直し、声を張り直し、長い権杖で身を支え、王が語る。

¹⁶⁵ モイラ *Μοῖρα* ここでは三柱一組の運命の女神モイライ *Μοῖραι* (複数形)のうち、運命の糸を紡ぐ長姉クロトー *Κλωθώ* を指す。

Madre t'obbedisco. Sei
 come la cieca Terra ch'è veggente.
 Tu hai veduto. O Etra genitrice,
 o compagni d'Ippolito,
 e voi, uomini servi che sapete
 1250
 piangere, udite. Ippolito
 ucciso fu da me, non con le mie
 mani che sono monde, ma col vòto:
 col vòto alzato al Re truce del Mare
 per punire una colpa inespiable.
 1255
 “Che innanzi sera egli discenda all'Ombre!”
 pregai nel vòto. E l'adempi l'Asfàlio
 che avea promesso a Tèseo
 l'adempimento. O Madre,
 o compagni d'Ippolito,
 1260
 sotto il macigno ove trovai la spada
 e i sandali d'Egeo
 io riporrò per sempre la mia spada
 che tanto ha ucciso, i miei
 sandali che levato han tanta polvere,
 1265
 stampato di vestigia tante vie,
 varcato tutti i varchi della gloria.
 E resterò deserto,
 più tristo che lo schiavo cieco intorno
 alla mola. E me forse
 1270
 anche seppellirò sotto il mancigno;
 perché ho ucciso quella che nessuno

母上、御意のままにいたします。あなたは
 盲目の大地のようにすべてお見通しでいらっしやいます。
 あなたはご覧になってしまった。おおエートラ、わが生みの母よ
 おおイッポーリトの仲間たちよ、
 そしてそなたたちよ、泣くことを知っている
 奴隷の者どもよ、聞け。イッポーリトは
 私によって死んだ、ただし私の
 潔白な手によってではなく、祈祷によってだ。
 海の残酷な王に捧げた祈祷によって
 償われえない罪を罰するためだ。
 「宵に先立ってわが息子を冥府の闇へ落としたまえ！」
 祈祷を捧げながら私はこう願った。するとアスファエリオは叶えてくださった、
 かつてテーセオに約束していてくださったのだ
 どんな願いも3つまでは叶えると。おお母上、
 おおイッポーリトの仲間たちよ、
 かつて私がエジェオの剣と
 サンドルを見つけたこの岩の下へ
 私はとこしえにしまうつもりだ
 おびたしく死体の山を築いてきたわが剣と
 はなはだしく塵埃を舞わせ、
 あまたの道に足跡をつけ、
 あらゆる栄光の隘路をかきわけてきたわがサンドルを。
 そして人の世から離れていよう
 粉挽き車の周りにいる盲いた奴隷よりも
 みじめなままで。ことによると
 私自らも岩の下に隠れようか、
 なぜなら私が殺したのは

degli uomini mortali e degli Iddii

eterni uccise mai:

la speranza.

Percossi di stupore e di terrore sacro, gli astanti son come sospesi nell'aspettazione di un fato imminente che sia per manifestarsi. E sembra che non possano distogliere lo sguardo dal volto di Etra simile a quello della Mòira ove non è patimento ma una conoscenza più amara del patimento. S'agita al fondo la turba dei servi e dei famigli, e la schiera degli Efebi si volge verso la via marina per ove s'ode romore di ruote che sopraggiungono con scalpito sonante.

Gli Aurighi

- Il carro di Fedra!

- Il carro

di Fedra!

- La Cretese!

- La Cretese!

Sollevano Etra le fanti, mentre Procle con straziata dolcezza pone l'una e l'altra asta in terra ai lati del cadavere e poi s'accoscia nel luogo dell'ava e prende nelle sue palme il capo amatissimo. Come appariscono su la via marina i cavalli, bianchi di sudore fumante, si fa un alto silenzio; in cui s'ode l'ansito dei corsieri, e il tintinno dei masticati freni, e il ruggio della catasta, e lo schianto della terza onda. L'arco della luna è ora calato dietro il bosco sacro e, nel suo tramonto lento, s'intravede fra l'intrico folto dei lentischi e dei terebinti.

死すべきさだめの人間も

永遠の神々も誰ひとり殺したことの無いもの、

すなわち希望だからだ。

強い驚愕と聖なる畏怖に襲われて、居合わせた者たちは、いまさに現前せんとする宿命を待つかのように固唾を飲んで佇んでいる。そしてエートラのモイラにも似た表情から、目を逸らすことができずにいるかのようである。それは苦痛ではなくそれよりもいっそう悲痛な意識をうかがわせる。奴隷たちや家の召使たちの群れは動揺し、若者たちの集団は岸辺の道のほうへ向き、不意にけたたましい蹄の音を立てて近づいてくる車輪の音を聞く。

御者たち

——フェードラさまの馬車です!

——馬車です

フェードラさまの!

——クレタの妃が!

——クレタの妃が!

侍女たちはエートラを立ち上がらせる。他方プロクレは腫れものを触るかのようによさしく槍をまず一本、そしてもう一本亡骸の両脇の地面に立て、それから墓所にうずくまり、きわめて愛おしい頭を両の手のひらで包む。岸辺の道のうえに馬たちが吹きだす汗で白く輝いて現われると、深い沈黙が訪れる。そのなかで馬たちの喘ぎが聞こえ、そして馬銜が噛みしめられてカチカチと鳴って、燃える薪がうなり、みたび波の音が轟く。月の弧はいま聖なる森の向こうに落ち、ゆっくりと没しつつ、ニューコウジュとテレピンの密林のなかに垣間見えている。

Fedra scende dal carro. S'avanza come le Ombre s'avanzano sul prato asfodelo. È grande e libera. Porta un mero peplo di bisso e un lungo velo e non ha ornamento alcuno fuorché l'esigua corona del trafitto mirto intorno all'elmetto del crine che più non ingemmano le cinque giàspidi. Stringe nella destra la sàgari amazònia. Etra, sollevata dalle schiave, ora è diritta in piedi, quasi lapidea, quantunque piena di soffio.

フェードラは馬車から下りる。あたかもアスフォーデロの花に蔽われた原¹⁶⁶をゆく無数の亡霊たちのように進む。堂々として物怖じしない。けがれなき亜麻のペプロと長いヴェールをまとい、五つの碧玉のついていない頭飾りでミルテの葉を貫いた小さな冠の他には装飾品を身につけていない。右手にアマツゾオネ族の斧を握りしめている。エートラは女奴隷たちに身を起こされ、いま何かの予感をいっぱい抱きつつ石像のように直立している。

Etra Figlia di Pasifàe,
Fedra vertiginosa, vieni tu
a satollare il tuo malvagio cuore
nel sangue puro? Chi vuoi tu colpire,
che scendi armata dal tuo carro? Tèseo,
guarda la bianca Sacrificatrice!

エートラ
パジーファエの娘よ、
目の眩むフェードラよ、そなたが来たのは
そなたの悪意あるところを
けがれなき血のなかで満たすためか？ 誰を打ちのめしたいのだ、
なぜ武器を持って馬車から下りてくる？ テーセオよ、
見よ、生贄を捧げるけがれなき者だ！

Fedra non risponde né si volge. S'avanza fino al cadavere col suo passo d'Ombra; e la sua voce è spirtale, simile talora a una vampa candente che tremi.

フェードラは答えず見向きもしない。亡霊のように歩いて亡骸まで進んでく
る。彼女の声は霊的であり、震えては輝く火炎にときおり似る。

Fedra Procle, perché tu tocchi il dio esanime?
Tanto osi tu che l'amavi? Toccarlo
osi, guardarlo e dare ancóra un nome
a quei che già si trasfigura? Procle,
togliti. Ch'ei sia solo.

フェードラ　プロクレよ、なぜその生気を失った神に触れているのだ。

　畏れ多くもそうするほどにその方を愛していたのか？　畏れ多くも
その方に触れ、その方を見つめ、なおも呼びかけるのか
すっかり変わり果てたその方に？　プロクレよ、
離れよ。その方をおひとりにして差し上げよ。

¹⁶⁶ アスポデロス *ἀσποδελός* 荒野にて地下から長い茎を伸ばして白い花をつけるユリ科の球根植物。なお、この連辞を含む一文は、ホメーロス『オデュッセイア』第 11 歌にみえる冥府の情景に暗に言及している。ホメーロスにおいて、オデュッセウスは、冥府の「アスポデロスの原 *ἀσποδελός λειμών*」(同歌 539 行)に至り、そこで自らの母やアリアドネーを含む多くの死者たちのなかにパイドラの姿を認めたと言っている(同歌 321 行)。したがって、ダンヌンツィオは、ここでその古典を踏襲しながら、主人公がすでに半ば死の世界の住人になっていることを暗示している。しかもその行く末は、興味深いことに、少なくとも神々の激しい怒りを買ったタンタロスやシジュポスのような者たちが永遠の責め苦に苛まれている場所ではなくて、むしろ青ざめた花の咲く静かな場所なのである。

Ch'ei sia velato. Sotto il capo ei s'abbia
la sàgari amazònia, la materna
arme, e sia solo.

Come nell'atto di scostarsi l'Efebo solleva il capo d'Ippolito, ella si piega e sotto gli pone la mannaia lunata. Poi lo vela col suo velo. E il cadavere giace coperto dal bisso tenue e dal grave cuoio leonino.

Togli le due lance, 1290

Procle. Stanotte tu ti tonderai
la chioma. Efebi di Trezene, voi
stanotte tonderete
le vostre chiome. E, se dolci sorelle
son nelle vostre case, 1295
conducetele a tondersi le chiome
per offrirle a Ippolito
su quell'ara deserta ch'egli vide
nel suo sogno! E le vergini gli cànтино
un canto in questa notte del Solstizio 1300
ch'è la più bella e la più breve, e ogni anno
le vergini e gli efebi
vengano all'ara e cànтино il virgineo
canto; perché, o Tèseo,
Ippolito è più puro del libame 1305
sacro e dell'acqua lustrale, più limpido
che la pupilla dell'aria e il tuo vòto
castigò l'incolpabile!

その方にヴェールをかけて差し上げるのだ。頭の下にアマツゾネ族の斧を持っていかれるように、母上の武器をだ、そしておひとりにして差し上げよ。

プロクレが離れつつイッポリトの頭部を少し上げるやいなや、フェードラは身を屈めてその下に月の弧を描く斧を置く。それから自らのヴェールで彼を覆う。それから亡骸は薄い亜麻布と重い獅子の皮に隠される。

その二本の槍をとれ、
プロクレよ。今宵そなたは自らの
髪を刈れ。トレゼーネの若者よ、そなたたち
今宵刈るのだ
そなたたちの髪を。そして優しい姉妹が
そなたたちの家々におるならば、
自ら髪を刈るようその姉妹らを導け
その髪をイツボーリトさまに捧げるためだ
あの方がかつて夢でご覧になった
あの祭壇の上に！ そして処女はあの方に歌え
この夏至の夜、ひとつの歌を
今宵はもつとも美しくもつとも短い、そして毎年
処女と青年は
祭壇へ参り、純潔の
歌を歌うのだ。なぜなら、おおテーセオよ、
イツボーリトさまは神酒よりも
また聖水よりも清らかであり、
空の瞳孔よりも澄んでおられるのに、おまえの祈祷が
何の咎もない無辜のあの方を罰したからだ！

Tèseo Iddii! Iddii!

テ一セオ 神々よ! 神々よ!

L'orrore e il furore lo soffocano. Sembra che a traverso il suo torace possente si scorga la sua anima aggirarsi come ruota precipite.

強い戦慄と激しい怒りが彼の息を詰まらせる。彼の魂が転がり落ちていく車輪にも似てその強壮な胸を巡りまわるのがわかるようだ。

Mentisci!

謀ったな!

O mostruosa femmina!

おお怪物のような女め！

Or qual vendetta mai trarrò da te?

おまえにどんな報いを受けさせてやろう。

Fedra Distruttore d'Antiope

フェードラ アンティオーペを

e d'Ariadne, tu non puoi colpirmi
né pur toccare il lembo del mio peplo.

そしてアリアトネを滅ぼしたおまえよ、私を害すことはおろか
私のペプロの裾に触れることすらおまえにはできない。

Se saputo hanno e veduto hanno i tuoi
dii, non io ti son causa ma ti sono
causa i tuoi dii. Se parli

おまえの神々が知っており見ていたというのならば
おまえに不幸をもたらしたのは私ではなく

a me, parلامي come a una lontana
visitatrice della Nera Porta.

おまえの神々なのだ。おまえが
私に話しかけるならば、冥府の門の
遥かなる訪問者として呼びかけよ。

Già i piedi ho sulla soglia 1320
del Buio e già l'azzurro della notte,
vedi?, è nelle mie braccia disarmate.

私はすでに常闇の敷居を
両足でまたいでおり、すでに夜の青が

E tu, che hai tanto ucciso,
non conosci l'abisso che talvolta
s'apre in una divina piaga. E tu

そしておまえは、おびたく殺してきたおまえは
知らないのだ、ときとして

che vissuto hai sempre nel rombo assiduo
degli impeti e degli atti, tu non sai
qual sapore le ceneri dei sogni

神々しい裂傷のなかに開く奈落を。おまえには、
絶えまなく轟音をたてる衝動と行動のなかで
いつも生きてきたおまえには、わからないのだ
日夜忘れることなく息を詰まらせて

	abbiano, masticate con la bocca arida soffocatamente in giorni e in notti senza oblio. Né mi giova che tu conosca e sappia. Non puoi nulla su me tu che puoi tutto. Sola, or io sento in me una divinità che irraggia l’Ade. Divinamente sola io porterò con le mie braccia d’ombra Ippolito velato all’Invisibile.	1330		1335	喝いた唇で噛む 夢の灰はどんな味が するのかということ。 おまえが知ろうともわかろうとも私には関係ない。 すべてをなせるおまえは私には何もできない。 ただ、いま私が自らのなかに感じているのは 冥府を照らす一柱の神だけだ。 神々しくひとりで 私は自らの亡霊となった両腕で ヴェールをかけたイツポーリトを冥界へ連れていくのだ。
Etra	O delirante, o invasa d’Astarte, se insanire intorno a un fèretro vuoi, col Fenicio naviga, approda a Cipro, méscolati alle femmine urlanti nel quadrivio, o riverse nei letti di fogliame per l’Adonàia!	1340	エートラ		おおうわごとを言う女よ、おお アスタルテ¹⁶⁷に蝕まれたそなたよ、棺の周りで 気の狂った行いをしたいのならば、フェニキアの男と船に乗り、 チプロ島の岸辺に上がって、 十字路にて叫ぶか 落葉の寝台にて寝ころぶ女たちに混じるがいい アドナーイア¹⁶⁸のために！
Fedra	Non all’Adonàia, servo. La dea nemica dalla bassa fronte sotto il pesante oro scolpita disdegno, e le sue molli mani ignave. E dal piè della rupe,	1345	フェードラ	アドナーイアではない	私が仕えているのは。重い黄金のもとに 彫りの深い顔をうつむけている敵なる女神を 私は軽蔑している、柔らかく力ないその両腕もだ。 あの女神がかつて私が建立し

¹⁶⁷ アスタルテー Ασάρτη 古代中東を中心に広く信仰された豊穡の女神。バビロニアではイシュタルと呼ばれた。大地の生産力の象徴であり、愛と戦いの女神でもある。

¹⁶⁸ アドナーイア Αδωνάια 美、愛、性の女神アプロディーテーの異名。「アドーニスの女」を意味する。かつて美しい少年アドーニス Ἀδωνις は、アプロディーテーと冥府の女王ペルセポネーの両方から愛されたが、前者とともにより多く過ごすことを選んだために後者の嫉妬を買い、前者の恋人である軍神アレースに告げ口され、殺されてしまった。アプロディーテーは少年の死を大いに嘆き悲しんだという。

se presente è nel tempio che le alzai
e che sconsacro, ora la chiamo e il mio
grido le scaglio!

1350

これから私が穢す神殿のなかにいるならば、
岩壁のふもとから、いま私はあの女神を呼び
女神にわが叫びを投げつけてやろう!

Leva ella il capo all'imprececazione e un fremito d'orrore corre intorno alla
sacrilega.

呪詛を吐くにあたって彼女は頭を上げる。神を冒瀆する者の周囲に畏怖の
身震いが駆け抜ける。

Gli Efebi - Fedra! Fedra!

青年たち

——フェードラ! フェードラ!

Fedra O dea,
tu non hai più potenza.
Spenti sono i tuoi fuochi. Un fuoco bianco
io porto all'Ade. Ippolito
io l'ho velato perché l'amo. È mio
là dove tu non regni. Io vinco.

1355

フェードラ

おお女神よ、

もはやおまえは力を持っておらぬ。
おまえの炎は尽き果てた。白い炎を
私は冥府へ持っていくのだ。イツポーリトには
私がヴェールをかけた、彼を愛しているからだ。あのひとは私のものだ
おまえの力の及ばない場所では。私の勝ちだ。

Gli Efebi - Fedra!

青年たち

——フェードラ!

Fedra Ma quella armata d'arco
e di dardi infallibili, che Ippolito
là, sul limite santo con l'estrema
voce invocò né valsegli,
quella che lo dilesse e lo lasciò
perire, quella esecro. Odimi, Artèmise!

1360

フェードラ

しかし決して的を外さない弓と矢で
武装したあの女神も、イツポーリトから
そこで、聖域の境にいまわの際の
声で嘆願されたが、彼をどうすることもできなかった、
彼を愛し、彼をやすやすと
死なせてしまったあの女神、私の憎むあの女神だ。聞け、アルテミデよ!

Si volge ella verso il bosco sacro per entro la cui spessa tenebra l'arco lunare
brilla in tramonto. E chiama. Più alto grido di orrore sorge dai petti.

神聖なる森の深い闇を通り抜けて、沈みかけた月の弧が光り輝く。そちらを
向いて彼女は呼びかける。一同の胸から恐怖の叫びがより高く湧きおこる。

Gli Efebi	- Fedra!	青年たち	——フェードラ!
	- Fedra!		——フェードラ!
	- Empia!		——神をも恐れぬ女!
	- Offendi		——おまえが冒涇したのは
la dea trezenia!			トレゼーネの守護女神だぞ!
	- Offendi	1365	——冒涇するか
la dea del primo tempio!			最高位の神殿の女神を!
	- Etra!		——エートラさま!
	- Re Tèseo!		——王テーセオよ!
- La dea farà vendetta!			——神罰が下されよう!
	- È inesorabile!		——もはや免れ得ない!
- Ha udito! Ha udito!			——お聞きになったぞ! お聞きになったぞ!
	- Il bosco è pien d'orrore!		——森が戦慄に満たされている!
- È presente la dea.			——いらっしゃるのだ女神が。
	- Fedra, che guardi?		——フェードラ、何を見つめているのだ?
- Fedra!			——フェードラ!
	- Fedra!		——フェードラ!
	- T'appare?	1370	——女神がおまえに御姿を現わされたのか?
- Fedra, la vedi?			——フェードラ、女神を見ているのか?
	- Silenzio!		——静かに!
	- Silenzio!		——静かに!

Si fa altissimo silenzio. Non più ruggia né rosseggia il rogo su l'argine; non più s'ode il latrato lontano, ma solo s'ode l'immenso marino pianto sotto il cielo che palpita di costellazioni. Tutti si tacciono contro la sublime bianchezza della Titànide vedendo l'arco d'Artèmide apparito. Con non

水を打ったような沈黙。土手の上の薪山はもはや音を立ててもおらず赤く燃えてもいない。はるかな遠吠えも聞こえない。数多の星座がまたたく天のもとで、ただ海の限りない悲嘆のみが聞こえる。すべての者が、現われたアルテミーデの弓を見ながら、ティターノ族の末裔の女の崇高な白い輝きに

umana voce ella parla mentre sale e splende nelle sue vene la purità della morte.

対して沈黙している。人のものならぬ声で彼女は語る。そのあいだ彼女の血脈のなかに清純なる死が高まり輝く。

Fedra

Ah, m'hai udito, dea! Ti vedo bianca.

Bianca ti sento in tutta me, ti sento
gelida in tutta me, non pel terrore,
non pel terrore, ch   ti guardo. Guardo
le tue pupille crude
come le tue saette. E tremo, s  ,
ma d'un gelo che infuso m'   da un'altra
ombra ch'   pi   profonda della tua
ombra. Ippolito    meco.
Io gli ho posto il mio velo perch   l'amo.
Velato all'Invisibile
lo porter   su le mie braccia azzurre,
perch   l'amo. O Purissima, da te
ei si credette amato e ti chiam  .
Ma l'amor d'una dea pu   esser vile.
Mirami. Vedo porre la saetta
sul teso arco lucente.
Nel mio cuore non    pi   sangue umano.
E giungere col dardo
non puoi l'altra mia vita. Anc  ra vinco!
Ippolito, son teco.

1375

1380

1385

1390

フェードラ

ああ、私の声を聞いたな、女神よ！ おまえは白く輝いて見える。

私の全身におまえの白い輝きを感じる、おまえの
冷たさを私の全身に感じる、恐れゆえにではない、
恐れゆえにではない、私にはおまえが見えるゆえにだ。見える
おまえの冷酷な瞳が

まるでおまえの矢のようだ。そして私は震えている、確かに、
だがそれはおまえの影よりもっと深い別の
影から私に吹きこまれた凍てつく寒気の
せいなのだ。イツポーリトは私とともにある。

彼にわがヴェールをかけたのは彼を愛しているからだ。
彼をヴェールで隠して

わが青い両腕に抱いて冥府へ連れて行くのだ

彼を愛しているから。おいしいけがれなき女神よ、おまえから
自分は愛されていると信じていたから彼はおまえに呼びかけた。
だが一柱の女神の愛は臆病なものともなりうるのだな。

私を狙うがいい。おまえがその張りつめた輝かしい弓に
矢をつがえるのが見えるぞ。

私の心臓にもはや人の血は通いはしない。

おまえが矢を放ったとしても

これからやってくる私の生に届きはしない。ここでも私の勝ちだ！
イツポーリト、私はあなたと一緒に行く。

Cade su i ginocchi presso il cadavere mettendo un grido fievole come un
anelito su dallo schianto del cuore. Ma, prima di abbandonarsi spirante sopra

心臓がひととき大きく脈打ち、彼女は息切れのようにかすかなうめき声を上げて亡骸のそばに膝から崩れ倒れる。しかしヴェールのうで息を引き

il velato, rialza ella il volto notturno ove il sorriso trema con l'ultima voce.

Vi sorride,
o stelle, su l'entrare della Notte
Fedra indimenticabile!

取る前に、彼女はもう一度夜の顔を上げ、最期の声とともに震えながら微笑む。

夜のはじまりに
おお星々よ、おまえたちに微笑みかけるこの女の名は
フェードラだ、忘れるな!

底本

印刷台本

D'Annunzio, Gabriele. *Fedra. Tragedia in tre atti*. Musica di Ildebrando Pizzetti, Milano: Casa musicale Sonzogno, 1913.

D'Annunzio, Gabriele. *Fedra. Tragedia in tre atti*. Musica di Ildebrando Pizzetti, Milano: Casa musicale Sonzogno, 1934.

D'Annunzio, Gabriele. *Fedra. Tragedia in tre atti*. Musica di Ildebrando Pizzetti, Milano: Casa musicale Sonzogno, 1959.

原作戯曲

D'Annunzio, Gabriele. “Fedra. Tragedia [1909].” In *Gabriele D'Annunzio: tragedie, sogni e misteri*. Tomo II. A cura di Annamaria Andreoli con la collaborazione di Giorgio Zanetti. Milano: Mondadori, 2013: 367-525.